

南ヶ谷湿地の現状と保全・管理の指針

1. はじめに

赤谷プロジェクト・仏岩エリア（エリア⑤）南東部にある湿地（通称：南ヶ谷湿地）については、赤谷プロジェクト発足時にはその存在が広く知られておらず、当地の自然環境については知見が存在しなかった。赤谷プロジェクト発足後、2007年度からプロジェクトサポーターを中心に、定期的な生物相及び湿地環境調査を実施している。

この湿地の保全を進める上で2つの課題がある。1つめの課題は、この湿地はスギ人工林に囲まれており、水源もこの人工林内に存在するため、湿地保全を進めるためにどのような管理が望ましいか検討する必要があること。2つめの課題は、湿地内のヨシが分布を拡大し、湿地が乾燥化しつつあると推測されることが挙げられる。そこで、これらの湿地保全の課題を解決するために、本調査は湿地の現況および過去の状況を把握し、今後の湿地保全のあり方を検討することを目的とした（表1）。

表1. 南ヶ谷湿地保全活動の活動一覧

項目	目的	方法
ア) 生物調査	湿地環境を把握し、保全が必要な種を抽出し、保全方法を検討	①モリアオガエル産卵調査 ②クロサンショウウオ産卵調査 ③植物、鳥類の記録 ④カメラトラップ3地点
イ) 過去の湿地生態系の復元		
①聞き取り	過去の湿地環境を知る人（林元保氏）からの聞き取り、湿地環境の変化を記述	林元保氏より現地において聞き取り実施
②植生判読	過去の写真と最近の写真の比較などから、植生変化を把握	過去の空中写真を比較し、南ヶ谷湿地およびその周囲の環境変化を把握
③年輪解析	湿地内の樹木の年輪測定によって、湿地が乾燥化した年代を推定	・湿地内に侵入したノリウツギの生長錐を採取、ノリウツギが定着した年代を推定
④泥炭層調査	・湿地の泥炭層を調べ、湿地の乾燥化の原因を探る ・湿地の成立年代、要因、過去の湿地の環境を復元し、湿地保全の方法を検討	・検土杖を用いた泥炭層調査 ・ヒラー型サンプラーを用いた泥炭層調査、堆積物内の花粉分析
ウ) 水質調査	湿地を維持している水質環境を調べ、水源林伐採の影響評価を行う体制を構築	測定項目：EC、pH、水温（13地点）
エ) 地下水位測定と簡易地形図作成	地下水位と植生の関係を把握し、今後の湿地保全の方法を検討	・水位測定地点設置（23地点）、1回/2月測定。 ・簡易測量実施（5、8月）
オ) ヨシ刈り取り実験	ヨシの分布拡大に伴い希少種が消失する恐れがあるため、希少種保全のため、ヨシの管理方法を検討	・実験区設置（2*2mを2カ所程度一対象区（非刈取区）も隣接して設置）
キ) 湿地保全対策		
①堰の設置	・湿地の最下流部の谷頭浸食は、南ヶ谷湿地全体の乾燥化につながる恐れがあるため、これ以上の浸食が起こらないような緊急対策を実施 モリアオガエル、クロサンショウウオ保全のため開放水面の確保	・流路に堰を設置
②水面確保		・過去に開放水面があった地点において、浚渫を実施
③歩道修繕	調査を行うための歩道の整備	橋の修繕など

南ヶ谷湿地は、地形的に3つに区分することができる（図1）。それぞれの間は、遷急点で区分される。開放水面（止水域）を伴い一番の広がり持つのはII面である。水分条件は3つの中で最も湿潤である。最上流に位置するI面は、現在は湿地的な環境にないが、過去の湿地面が浸食されたものと考えられる。この周辺に湧水点が集まる。最下流のIII面は、湿地の状態が維持されているものの開放水面はない。

これまでの調査では、湿地II面を主対象として進められてきた。したがって、この報告では、湿地II面を中心に記述することとする。

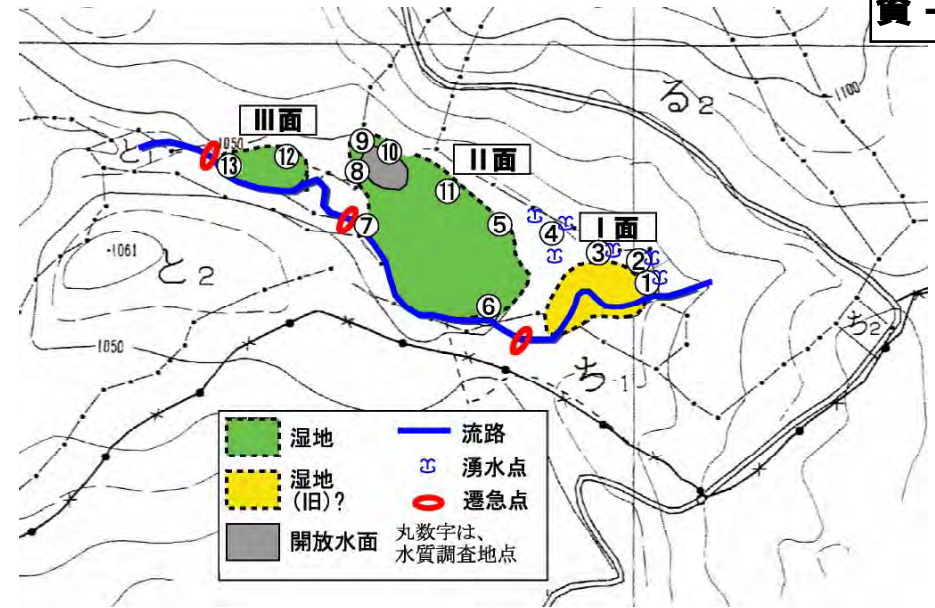


図1 南ヶ谷湿地概略図

2. 南ヶ谷湿地及びその周辺の生物

2-1. 南ヶ谷湿地の生物相について

本調査の結果、236種の維管束植物、菌類7種、は虫類1種、両生類5種、昆虫43種、軟体動物3種が確認された（付表1）。236種の維管束植物種のうち、赤谷プロジェクトエリア内において、南ヶ谷湿地でのみ記録されている植物が40種と非常に多い（クロイヌノヒゲなど）。また、環境省版もしくは群馬県版レッドリストに掲載された絶滅危惧種が、17種生息していることが確認され、貴重な自然が残っていることがわかった。

2-2. 生物の分布状況

南ヶ谷湿地（II面）の生物種分布とそこから見た地域区分を図2に示した。なお、地域区分のそれぞれの詳細は表2に示した。

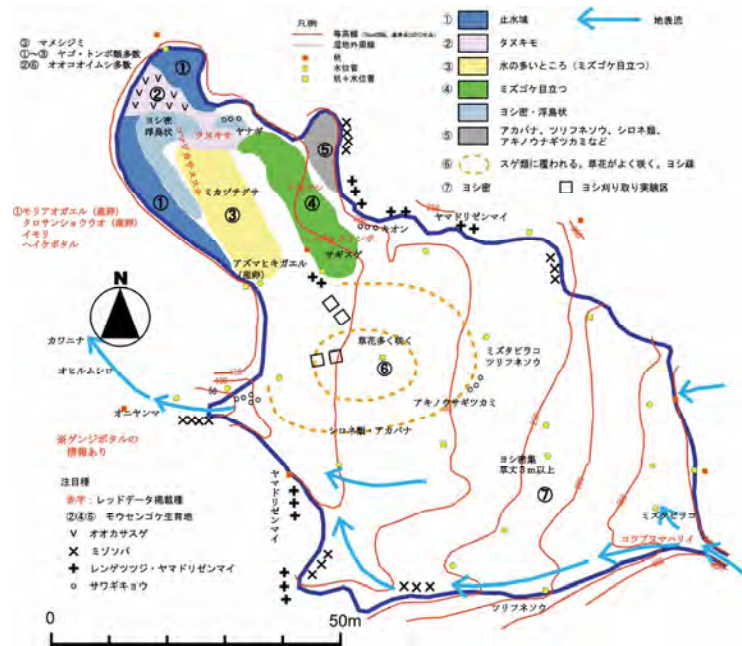
これらのことから、南ヶ谷湿地II面の生物分布の現状は、以下のようにまとめられる。

- (1) 水分の多い湿地的環境は、北西部に位置する（図2、表2の①～④）。ミズゴケの分布はこの地域に限られる。
- (2) ヨシは、中央部、南西部に向かうにしたがい、密度・高さ共に増大する。ただし、北西部の湿地中にも部分的に高密度の部分が存在する。また、中央部にも部分的に高密度地域が存在する。
- (3) ノリウツギは、南西部に多い。
- (4) レッドデータブック記載種などの注目種は、北西部の止水域を含む、より水分の多い地域と、流水沿いに多く認められる。
- (5) ミズゴケの発達程度から、本湿地は、低層～中間湿原に相当すると考えられる。

表2. 湿地の環境区分 (各環境区分の番号①～⑦は図2に対応)

① 止水域 <植物>タヌキモ少々 <動物>クロサンショウウオ (産卵、卵のう数 2008年: 2590) ・モリアオガエル (産卵、2009年: 158) イモリ ・ヘイケボタル ・ミズズマシ ・マツモムシ ・ヤゴ多数 (クロスジギンヤンマ、ルリボシヤンマのヤゴは確認) ・アメンボの仲間 ・マメシジミ ・マルバネトビケラの巢
② タヌキモ <植物>タヌキモ ・オオカササグ <動物>トンボ多数 (イトトンボ系その他) ・ヤゴ多数 ・トンボ羽化多数 ・ヘイケボタル ・マメシジミ
③ 水の多いところ (ミズゴケ目立つ) 浮島状 <植物>ミズゴケ ・ミツガシワ ・タヌキモ ・ヒツジグサ (少し) ・コマツカサススキ ・ミカヅキグサ ヨシの株の上: ミズゴケ ・モウセンゴケ ・サワギキョウ ・ミズオトギリ ・アギナシ (少し) <動物>オオコイムシ ・ミズカマキリ ・水生昆虫センブリ ・マツモムシ ・クロスマメゲンゴロウ ・アズマヒキガエル (産卵多数)
④ ミズゴケ <植物>ミズゴケ ・モウセンゴケ ・アギナシ ・シダ類 (サトメシダ ・ヒメシダ) ・ホソバノヨツバムグラ ・コシロネ ・エゾシロネ ・コケオトギリ ・ミズオトギリ 東部: サギスグ ・チゴザサ ・ノハナショウブ 西部: ホソバノヨツバムグラなど。縁にサワギキョウ ・キオン ヨシ刈り取り (09/7/5)。刈り取り後、アギナシ増える。 <動物>ハッチョウトンボの観察記録あり。
⑤ <植物>シダ類 (サトメシダ ・ヒメシダ) ・アカバナ ・イワアカバナ ・ツリフネソウ ・アキノウナギツカミ ・ミゾソバ ヨシ刈り取り (09/7/5)
⑥ スゲ類密集 <植物>スゲ ・ヨシ (密度低い ・草丈 1.6~2.5m)。草花類多い。ウメバチソウ ・アケボノソウ ・コオニユリ ・チダケサシ ・ミズチドリ ・ノハナショウブ ・ミズオトギリ ・アキノウナギツカミ ・チゴザサ ・モウセンゴケ ・ミツガシワ (小さい葉のみ)。縁にサワギキョウ ・アカバナ ・シロネの仲間
⑦ ヨシ密集 <植物>ヨシ (草丈 3m以上)。ノリウツギ点在。 少し明るいところ: ミズタビラコ ・ツリフネソウ ・ミゾソバ 開けたところ: コツツヌマハリイ ・イワアカバナ ・オオタネツケバナ

図2. 南ヶ谷湿地 II 面の生物分布 (図中の①～⑦の凡例は表2に対応する)



3. 湿地の水環境

3-1. 湿地を涵養する湧水とその水質

南ヶ谷湿地の水は、III面、あるいはII面とIII面の湧水によって涵養されていると考えられる (図-1)。

水質は、湿地及びその周辺の13地点で観測した (図1)。その結果、以下のような特徴がわかった。

- ① 水源の水温は一定 (図3)。
- ② 年間を通じて貧栄養の水が湧出、湿地内の止水で EC、pH とともに低い傾向 (図4、5) → すなわち、湿地を維持する典型的な貧栄養の水である。
(湿地が成立する条件: $EC < 75 \mu s/cm$)

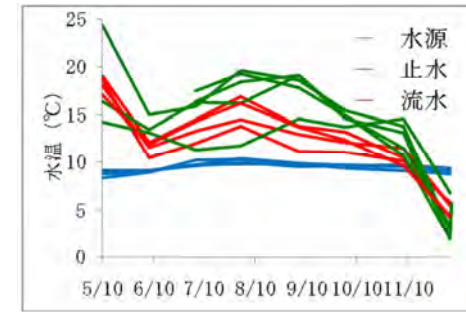


図3 南ヶ谷湿地内の水温の季節変化

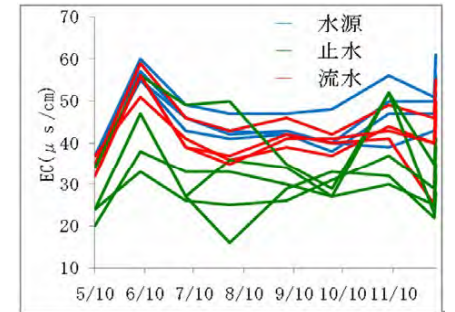


図4 南ヶ谷湿地内の EC (電気伝導度) の季節変化

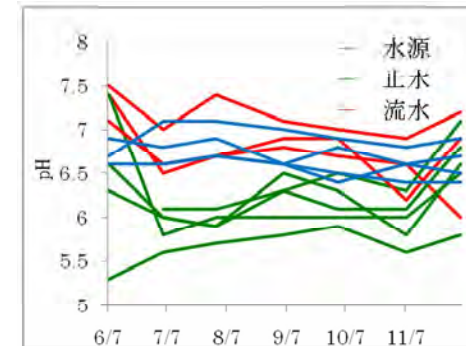


図5 南ヶ谷湿地内の pH の季節変化

3-2. 地下水位の状況とその変化

南ヶ谷湿地 II 面及びその周辺に 23カ所の水位観測地点を設置し (図6)、2009年6月以降、モニタリング調査を行った。その結果、以下のことがわかった。

- (1) 地下水面は、湿地部分ではほぼ全域にわたって、地表面からごく浅いところに位置する (図7、図8~10)。
- (2) 顕著な季節変化は認められない (図8~9)。ただし、湿地の縁の部分では、変

化が見られる箇所があり、6月に低い値を示すように見える (A',C')。

- (3) 中央部と南西部においては、基本的に、東部あるいは北東部から供給された地下水が、西に流れ、湿地の出口への向かう。
- (4) その流れの一部が、北西部に流れ込み、止水状態を形成している。
- (5) 水位変動の十分な考察にはデータが不足しており、モニタリングを継続することが必要である。



図 6 地下水位観測地点および地下水断面図位置

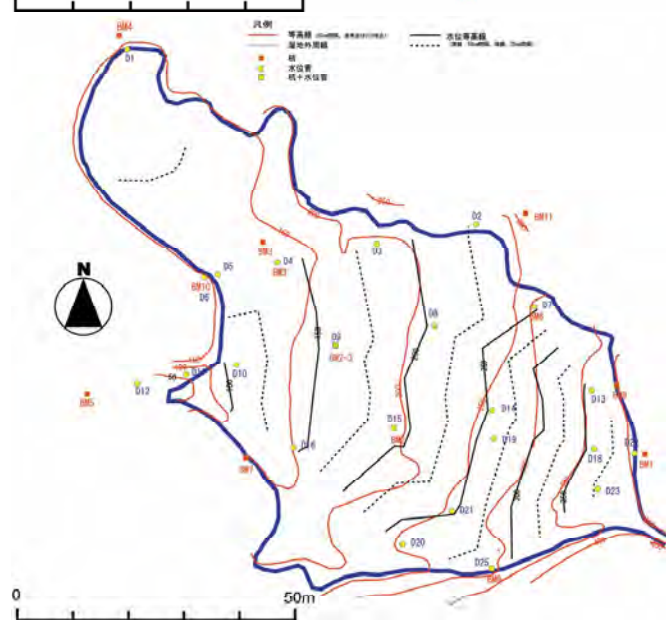


図 7
2009年6月の
地下水位

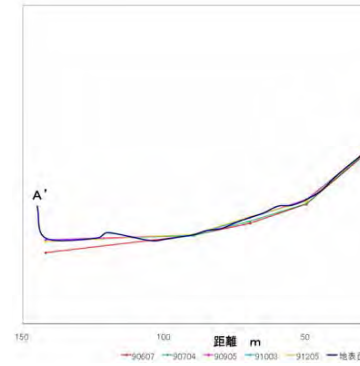


図 8 A-A' 地形断面での地下水位変化

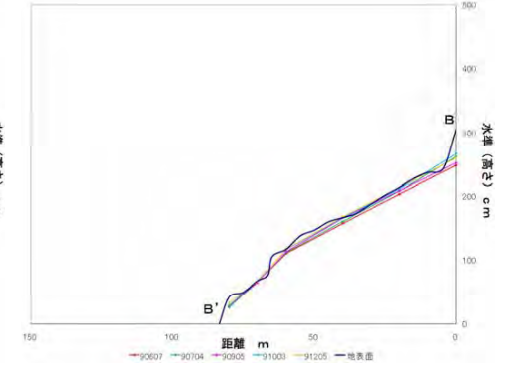


図 9 B-B' 地形断面での地下水位変化

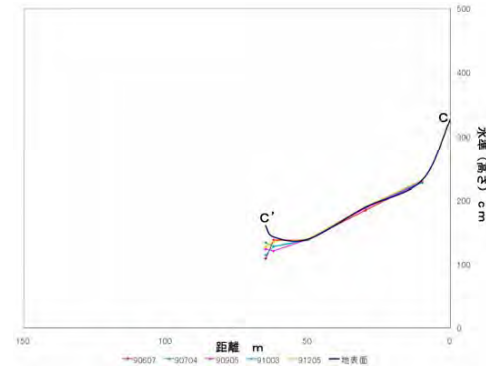


図 10 C-C' 地形断面での地下水位変化

4. 湿地の成立

湿地内 3 地点におけるボーリング調査の結果、以下のことが明らかとなった (図 11、ボーリング地点は図 6 参照)。

- (1) 大峰沼と堆積速度が同程度と仮定すれば、南ヶ谷湿地は 3000~4000 年前に形成がはじまったと推定される。
- (2) 湿地は、かつて一度大きな攪乱を経験し、湿地は壊滅的な被害を受けた可能性がある (数百年オーダー)。
- (3) 止水域 (開放水面) に近い南-1 の地点は、堆積物が黒泥で構成されていることから、ミズゴケ湿地というよりは、池のような環境条件下において堆積したものである可能性が考えられる。
- (4) 南-3 の地点は、湿地成立後、低層~中間~高層湿原的環境で比較的安定した環境が維持されていたと考えられる。

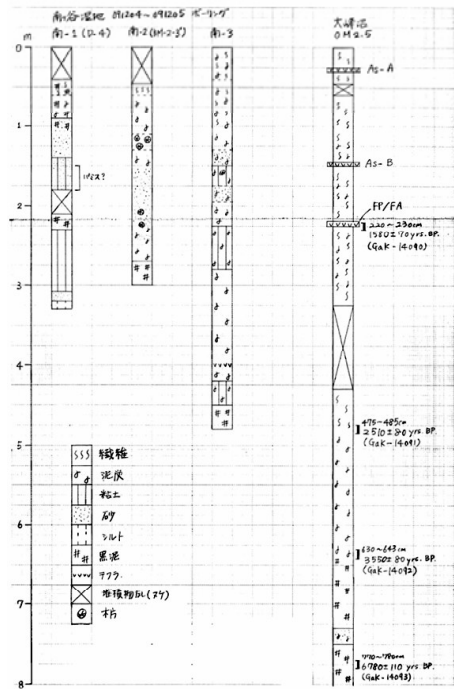


図1-1 ボーリング柱状図

5. 湿地環境の最近の変化

5-1. 聞き取り結果

林元保氏からの聞き取りをした内容の主要な点は以下の通りである。

- ① 約60年前、止水域は現在より広い範囲におよび、湿地北西部のほぼ全域が止水域であった。
- ② 現在、湿地北西端に分布するオオカササグは、60年前にはなく、中央部北側に”5東分”の広がりを持つオオカササグ群落があった。
- ③ 60年前、ヨシ原は南西部のみであった。
- ④ 60年前、湿地Ⅲ面も水深20～30cmの池であった。
- ④ 周辺で過去少なくとも2回の伐採があった。
- ⑤ 昭和4～5年頃(約80年前)、水路の開削があった(下流側と思われるが詳細な場所は不明)。

①～③の内容は、調査に入り始めた約2年前と比較して、ヨシの分布が北西方向に拡大し、止水域が減少しているという観察と整合している。また、①は、ボーリング結果とも整合している。

5-2. 空中写真にみる最近の変化(1993年～2004年)

林野庁撮影の3時期(1993年、1998年、2004年)の空中写真を用い、実体視による判読作業を行った。その結果以下のことが明らかとなった。

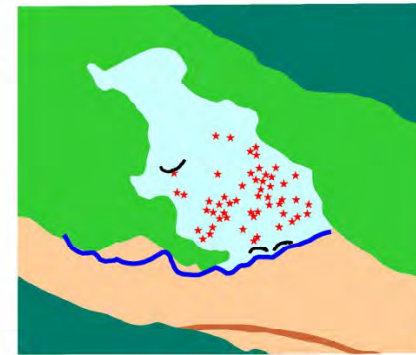
- (1) 1998年の時点で、湿地南側に接する林が皆伐されている。
- (2) その時点で、湿地南側を流れる流路が、現在より深く切れ込んでいる。湿地内にも小崖が見られる。

- (3) ノリウツギは、1993年段階ですでに湿地南西部に広く分布しており、その後大きな分布変化は認められない。^{注)}
 注) ノリウツギの分布は2004年に密度が低下しているように見える。しかし、現地観察では、より高密度の分布が認められる。使用した空中写真は、このスケールの解析を行うには、やや低い解像度のものしか入手できなかったこと、1993年と1998年のものはカラーであるのに対し、2004年のものは白黒であることなどが、判読結果に影響したと思われる。
- (2) は、隣接地の皆伐による影響(南側斜面からの流水・土砂移動の活発化など)だと考えられ、皆伐が湿地環境に影響を与えたことが予想される。

1993年



1998年



2004年

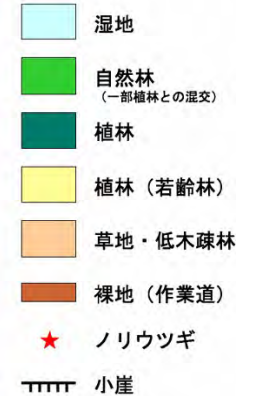
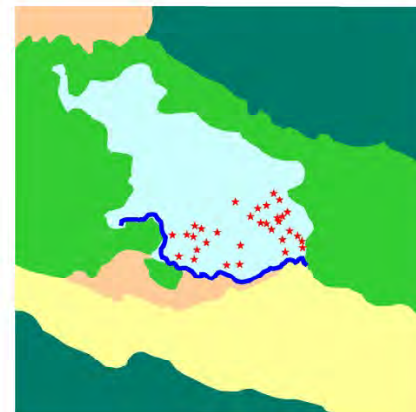


図1-2 空中写真にみる最近の変化(1993年～2004年)

6. 現状のまとめと保全・管理の指針

6-1. 現状のまとめと評価

南ヶ谷湿地の現状と評価について以下のようにまとめる。

- (1) 南ヶ谷湿地は、直上の斜面に点在する複数の湧水（水質は貧栄養）によって涵養される赤谷プロジェクトエリア内に見られる唯一の湿地環境である。
- (2) 湿地には、環境省レッドリスト記載種（5種）、群馬県レッドリスト記載種（11種）など保護上重要な生物種が多く確認されている。特に、止水域を含む湿地Ⅱ面北西部は、多くの種が集中している。
- (3) この湿地は少なくとも約3000年前から形成され始められたと考えられ、この地域の植生変遷など古環境を知る上でも重要な場所である。
- (4) 最近数十年の間に、周辺の森林施業等の人為的な影響によって、湿地環境が「乾燥化」傾向にあることが示唆された。

6-2. 保全・管理の指針

以上のことから、南ヶ谷湿地に対して十分な保全措置をとる必要がある。その際以下の点を留意することが必要である。

- (1) 湿地のみならず、その周辺の森林の管理・保全も同時に行う必要がある。それは、この湿地を涵養する地下水の水質を確保し、安定的な流量を維持すると同時に、土砂流入を伴うような攪乱を避けるためである。
- (2) そのためには周辺の森林を含む保全エリアを設定すべきであり、湿地を涵養している水環境を変えない形で自然林に誘導していくことが望ましい。なお、エリア設定の際には、地質構造によって決定される湧水の涵養エリアを考慮する必要がある。図13にエリア設定の案を示した。
- (3) 自然林への誘導のための作業や伐採はモニタリング会議の承認を必要とする
- (4) 湿地部については、絶滅危惧種を保全対象とし、何らかの保全対策とモニタリングが必要である。保全対策については、適宜よりよい方法を検討、作業計画を作成し、実施する。
- (5) 立ち入りによるストレスは最小限とすべきである。絶滅危惧種が多いエリア（湿地Ⅱ面北西部）は原則として立ち入りをせず、必要な保全活動とモニタリングの際にのみ、作業計画に沿って立ち入りする。
- (6) シカの進入とそれによる被害が懸念される。関連ワーキンググループの協力を得て、対策の方法について検討し、必要な対策をとることが急がれる。

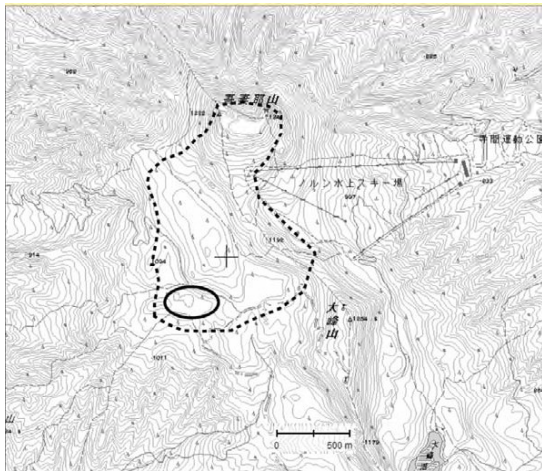


図 13
 保全エリア設定案
 実線：南ヶ谷湿地
 破線：エリア外郭（案）

付表 1. 南ヶ谷湿地生物目録

県 RL：群馬県レッドリスト 2000、国 RL：環境省版レッドリスト 2006～2007
 （作成者：和田、竹村、前田、里見、藤田）

分類群	種名	湿地周辺	湿地内部	県RL	国RL
シダ植物	ホソバトウゲシバ	●			
	ゼンマイ		●		
	ヤマドリゼンマイ	●			
	ヤマソテツ	●			
	オウレンシダ	●			
	ワラビ	●			
	イワトラノオ	●			
	シシガシラ	●			
	ナンゴクナライシダ	●			
	オシダ	●			
	シノブカグマ	●			
	ジュウモンジシダ	●			
	シラネワラビ	●			
	シロウマイノデ	●			
	ツヤナシノデ	●			
	ホソバナライシダ	●			
	ミヤマイタチシダ	●			
	ミヤマベニシダ	●			
	リョウモンシダ	●			
	ハリガネワラビ	●			
	ヒメシダ	●		●	
ミゾシダ	●				
イヌガンソク	●				
カラクサイヌワラビ	●				
イヌワラビ	●				
サトメシダ	●		●		
ヒロハイヌワラビ	●				
ヒロハヘビノネゴザ	●				
フモトシケシダ	●				
ヘビノネゴザ	●				
ミヤマメシダ	●				
ヤマイヌワラビ	●				
イワオモダカ	●				
種子植物	カラマツ	●			
	スギ	●			
	ネコヤナギ		●		
	フリンデヤナギ		●		
	ツノハシバミ	●			
	クリ	●			
	ミズナラ	●			
	ムカゴイラクサ	●			
	アキノウナギツカミ		●		
	ミズヒキ	●			
	ミゾソバ		●		
	サデクサ		●		
	サワハコベ	●			
	ワチガイソウ	●			
	ムシトリナデシコ	●			
	ノミノフスマ		●		
	ヒゲネワチガイソウ	●			
	タムシバ	●			
マツブサ	●				
オオバクロモジ	●				
キクザキイチゲ	●				
キツネノボタン	●				
ミヤマカラマツ	●				

付表 1. 続き

分類群	種名	湿地周辺	湿地内部	県RL	国RL
	キツネノボタン	●			
	ヒツジグサ		●		
	フタリシズカ	●			
	サルナシ	●			
	マタタビ	●			
	オトギリソウ	●			
	コケオトギリ		●		
	サワオトギリ		●		
	ミスオトギリ		●		
	モウセンゴケ		●		
	ニシノオオタネツケバナ		●		
	ウメバチソウ		●		
	エゾアジサイ	●			
	チダケサシ		●		
	ツルアジサイ	●			
	ツルネコノメソウ	●			
	トリアシシヨウマ	●			
	ノリウツギ	●	●		
	チシマネコノメソウ		●		
	カマツカ	●			
	チョウジザクラ	●			
	コバノフユイチゴ	●			
	ミツモトソウ	●	●		
	ヌスビトハギ	●			
	フジ	●			
	コマツナギ	●			
	ナツウダイ	●			
	ヤマウルシ	●			
	アサノハカエデ	●			
	ウリハダカエデ	●			
	エンコウカエデ	●			
	オオイタヤメイゲツ	●			
	コハウチワカエデ	●			
	ヒトツバカエデ	●			
	ヒトツバカエデ	●			
	メグスリノキ	●			
	ヤマモミジ	●			
	ツリフネソウ		●		
	アオハダ	●			
	ハイイヌツゲ	●			
	オオツリバナ	●			
	コマユミ	●			
	ツリバナ	●			
	クマヤナギ	●			
	カラスシキミ	●			
	オニシバリ	●			
	アケボノスミレ	●			
	オオタチツボスミレ	●			
	スミレサイシン	●			
	タチツボスミレ	●			
	ツボスミレ	●			
	アカバナ		●		
	イワアカバナ		●		
	ミヤマタニタデ	●			
	タニタデ	●			
	ミスギ	●			

付表 1. 続き

分類群	種名	湿地周辺	湿地内部	県RL	国RL
	コシアブラ	●			
	トチバニンジン	●			
	カノツメソウ	●			
	シラネセンキュウ	●			
	リョウブ	●			
	イチヤクソウ	●			
	ギンリョウソウ	●			
	アブラツツジ	●			
	バイカウツジ	●			
	ハナヒリノキ	●			
	ヤマツツジ	●			
	レンゲツツジ	●	●		
	コナスビ	●			
	アオダモ	●			
	ミヤマイボタ	●			
	アケボノソウ		●		
	ツルリンドウ	●			
	リンドウ	●			
	ミツガシワ		●		
	オオカモメヅル	●			
	イケマ	●			
	オククルマムグラ	●			
	ククルマムグラ	●			
	ホソバノヨツバムグラ		●		
	オオバナヤエムグラ	●			
	ホソバノヨツバムグラ	●			
	オニルリハウ	●			
	ミズタビラコ		●		
	アキノタムラソウ	●			
	エゾシロネ		●		
	コシロネ		●		
	セキヤノアキチヨウジ	●			
	ニシキゴロモ	●			
	ククルマバナ	●			
	ヒメシロネ		●		
	ママコナ	●			
	タヌキモ		●	希少	準
	ナガバハエドクソウ	●			
	オオカメノキ	●			
	ミヤマウグイスカグラ	●			
	ミヤマガマズミ	●			
	オトコエシ	●			
	サワギキョウ		●		
	タニギキョウ	●			
	ソバナ	●			
	ツリガネニンジン	●			
	アキノキリンソウ	●			
	オオカニコウモリ	●			
	オクモミジハグマ	●			
	カニコウモリ	●			
	キオン		●		
	ゴマナ	●			
	サワギク	●			
	シロヨメナ	●			
	ヒヨドリバナ	●			
	モミジガサ	●			

付表 1. 続き

分類群	種名	湿地周辺	湿地内部	県RL	国RL
	トネアザミ	●			
	ニガナ	●			
	ノハラアザミ	●			
	ミヤマアザミ	●			
	ミヤマアザミ	●			
	アギナシ		●	I 類	準
	オモダカ		●		
	オヒルムシロ		●		
	エンレイソウ	●			
	カタクリ	●			
	コオニユリ		●		
	ショウジョウバカマ	●			
	チゴユリ	●			
	ツクバネソウ	●			
	ホウチャクソウ	●			
	ミヤマエンレイソウ	●			
	ミヤマナルコユリ	●			
	ノハナショウブ		●		
	コウガイゼキショウ		●		
	ヌカボシソウ	●			
	エゾホシクサ		●		
	クロイヌノヒゲ		●		準
	イワノガリヤス	●			
	コチヂミザサ	●			
	チゴザサ		●		
	チシマザサ	●			
	ミヤコザサ	●			
	ヨシ	●			
	ヒロハテンナンショウ	●			
	マムシグサ	●			
	テンナンショウsp(花紫)	●			
	テンナンショウsp(花緑)	●			
	オオカサスゲ		●		
	オオヌマハリイ		●		
	コマツカサススキ		●	I 類	
	サギスゲ		●		
	タガネソウ	●			
	ミカヅキグサ		●		
	マツバスゲ		●		
	ハリガネスゲ		●		
	ヒメカンスゲ	●			
	ナルコスゲ		●		
	オクノカンスゲ	●			
	ヒカゲスゲ	●			
	メアオスゲ	●			
	ヒメシラスゲ		●		
	ミヤマカンスゲ	●			
	ミヤマシラスゲ		●		
	ヤチカワズスゲ		●		
	グリーンズゲ		●		
	アズマナルコ		●		
	ミチノクホンモンジスゲ	●			
	オオカワズスゲ		●		
	アゼスゲ		●		
	クログワイ		●		
	シカクイ		●		
	オオイヌノハナヒゲ		●		

付表 1. 続き

分類群	種名	湿地周辺	湿地内部	県RL	国RL
	イヌノハナヒゲ		●		
	ミヤマホタルイ		●		
	アブラガヤ		●		
	オオヤマサギソウ	●			
	オニノヤガラ	●			
	クモキリソウ	●			
	ササバギンラン	●			
	ジガバチソウ	●			
	ヒメムヨウラン	●		I 類	II 類
	ミズチドリ		●		
	ミヤマウスラ	●		I 類	
	コバギボウシ		●		
は虫類	マムシ	●			
菌類	サンコタケ	●			
	シイタケ	●			
	タマゴタケ	●			
	ニカワホウキタケ	●			
	ハナヒラタケ	●			
	ベニナギナタタケ	●			
	ミミブサタケ	●			
昆虫	アカネの仲間		●		
	アキアカネ		●		
	エゾトンボの仲間		●		
	オニヤンマ		●	I 類	
	ハッチョウトンボ		●		
	ハラビロトンボ?		●		
	イトトンボの仲間		●		
	カワトンボの仲間		●		
	クロスジギンヤンマ		●		
	ナツアカネ		●		
	ヤンマの仲間		●		
	アサギマダラ	●			
	アメンボの仲間		●		
	ウエストントビイロカゲロウ		●		
	エゾハルゼミ	●			
	オオコイムシ		●		
	キイロスズメバチ?	●			
	ギンイチモンジセセリ	●		準	準
	クジャクチョウ	●			
	クロジョウカイ	●			
	クロスズメバチ	●			
	クロズマメゲンゴロウ		●		
	クロヒカゲ	●			
	コクワガタ	●			
	ゲンジボタル	●		II 類	
	ヘイケボタル		●	準	
	シマアメンボ		●		
	ジョウカイボン	●			
	スギタニルリシジミ	●		準	
	スジグロシロチョウ	●			
	ヌマユスリカ属の一種		●		
	ネグロセンブリ		●		
	マツモムシ		●		

付表 1. 続き

分類群	種名	湿地周辺	湿地内部	県RL	国RL
	マルバネトビケラ		●		
	ミカドガガンボ		●	注目	
	ミズカマキリ		●		
	ミズスマシ		●		
	ミズムシ		●		
	ミドリヒョウモン	●			
	ミヤマクワガタ	●			
	ムラサキトビケラ		●	Ⅱ類	
	ルリシジミ	●			
	ルリボシヤンマ		●		
軟体動物	カワニナ		●		
	ヤマビル	●			
	マメシジミの仲間		●	注目	
両生類	アズマヒキガエル	●	●		
	イモリ		●	Ⅱ類	準
	クロサンショウウオ		●	準	準
	モリアオガエル		●	準	
	ヤマアカガエル	●			

南ヶ谷湿地保全管理計画 2011

目次

1. はじめに
 - 1) 検討会設置の経緯
 - 2) 検討会の目的
 - 3) 南ヶ谷湿地保全管理計画検討会
2. 保全管理における基本的な考え方
 - 1) 南ヶ谷湿地について（現在得られている知見の整理）
 - 2) なぜ保全するのか？なぜ人為を加えるのか？
 - 3) 人為を加える場合の原則
 - 4) 湿地周辺の森林について
 - 5) 哺乳動物による摂食について
3. 保全活動（生物多様性の向上）
4. 調査活動
5. 今後の順応的な管理
6. 検討会を終えて

1. はじめに

1) 検討会設置の経緯

南ヶ谷湿地は、赤谷プロジェクト・エリア⑤（仏岩エリア）南東部にある湿地である。2005年6月にその存在が周知され、2007年度から「赤谷の日（赤谷プロジェクト関係者とサポーターの定期活動日（毎月第一土日）」の活動として、赤谷プロジェクト・サポーター（以下サポーター）を中心に、専門家の協力を得ながら、生物相及び、湿地環境調査を実施し、科学的知見を収集してきた。その知見をもとに「南ヶ谷湿地の現状と保全・管理の指針」（以下「保全・管理指針」）がつくられ、自然環境モニタリング会議（2010年2月26日）への報告を経て、企画運営会議（2010年3月26日）で承認された。

しかし、「保全・管理指針」に記載されている「絶滅危惧種を対象としたなんらかの保全対策」の具体的内容については、流路に設置した堤、減少する開放水面の対策、分布を広げるヨシ等の対策について、プロジェクト関係者の中で幅広い意見が存在する。

そのため、外部の専門家の意見を参照しながら、プロジェクト関係者が一元的に検討する場を設定することが、自然環境モニタリング会議（2010年9月16日）で提案された。それを受けて、企画運営会議（2011年3月30日）で、赤谷プロジェクト関係者からの立候補者を検討メンバーとした「南ヶ谷湿地保全管理計画検討会」（以下検討会）を設定することを決定した。検討会は2011年3月～7月に計5回実施し、本計画書（案）を策定した。

2) 検討会の目的

赤谷プロジェクトは、プロジェクト・エリアである国有林を、「国民の森林」としていかに管理するべきか、そのあり方を追求してきた。そのため、協定締結した3者（赤谷プロジェクト地域協議会、関東森林管理局、日本自然保護協会）の他に、赤谷プロジェクトの取り組みやプロジェクト・エリア（赤谷の森）の自然に関心をもつ人が、誰でも参加できる枠組みの一つとして、赤谷プロジェクト・サポーター制度を設定している。

一方で、多様な主体が参加できる枠組みにおいては、多様な知識や経験・価値観に基づき、幅広い意見が存在することになる。南ヶ谷湿地の保全においても、保全のために加える人為の程度等について、幅広い意見が存在した。この検討会の目的は、その幅広い意見を、開かれたプロセスで十分に検討し、科学的根拠と一つの方向性を持った場の管理として取りまとめることである。検討会においては、科学的な知見や、公益性、社会的意義と同様に、南ヶ谷湿地という場に積極的に通い、強い関心と思いをもつ人の意見やアイデアを重視しながら検討をすすめた。

3) 南ヶ谷湿地保全管理計画検討会

[検討メンバー]

赤谷プロジェクト・サポーター

国安俊夫、小鮎守、竹村秀雄、深代牧子、前田修、和田晴美

自然環境モニタリング会議

中井達郎

赤谷プロジェクト地域協議会

星野理恵子、松井睦子、松田和昭

関東森林管理局

石坂忠（調整官）、鈴木綾子・藤代和成（赤谷森林環境保全ふれあいセンター）

日本自然保護協会

横山隆一、藤田卓、出島誠一（事務局）

[検討会の実施状況]

	開催日時	主な議題
準備会合	3月26日 13:30-15:30 大宮 さいたま市宇宙劇場	・これまでの経緯の確認 ・検討会の内容と運営について
第1回	4月9日 12:00-16:00 高崎労使会館	・専門家へのヒアリング ・南ヶ谷湿地へなぜ保全策を行うのか？
第2回	5月7日 12:00-16:00 高崎労使会館	・何を保全対象とするか ～開放水面～ヨシの分布拡大
第3回	6月11日 12:30-16:30 東横イン高崎駅前禁煙棟	・モニタリングについて ・湿地周辺の森林管理について
第4回	7月16日 13:00-16:00 高崎労使会館	・ニホンジカの摂食対策について ・周辺森林の伐採作業について ・「南ヶ谷湿地保全計画」(案)

2. 保全管理における基本的な考え方

本検討会の議論を経て、南ヶ谷湿地の現状と今後の保全管理についての基本的な考え方以下のように取りまとめた。

1) 南ヶ谷湿地について

これまでの調査や専門家の意見照会により、以下のことが把握されている。

- ・湿地は、基本的に湧水によって涵養されている。湧水のほとんどは湿地南東側斜面の複数地点から湧出している。これらはⅠ面に流入し、流水となってⅡ面に至るものとⅡ面に直接流入するものがある。現在、Ⅱ面北側の開放水面にも湧水がある可能性が指摘され、調査を行っている。(図4参照)
- ・ミズゴケの生育する泥炭湿地であり、環境省レッドリスト記載種6種、群馬県レッドリスト記載種15種など、希少な野生動植物の生息環境となっている。
- ・湿地内3地点のボーリング調査結果から、一地点で5m近い泥炭の堆積が確認されている。隣接の湿地環境である大峰沼と同程度の体積速度と仮定すれば、南ヶ谷湿地は少なくとも千年以上前に形成がはじまったと考えられる。
- ・林元保氏（赤谷集落在住）からの聞き取りによると、「約60年前（1950年頃）は湿地北西部のほぼ全域が池（止水域）であり、オオカサスゲ、ヨシは今より少なかった」「昭和5年頃（1930年頃）には、下流の水田への用水として水路を開削したこともあった」とのことである。これらの証言はボーリング調査の結果ともほぼ一致している。
- ・利根沼田地域では、南ヶ谷湿地と同様の湧水のある環境を、水田に利用していた場所が多くあり、南ヶ谷湿地もため池等、水田のために利用された可能性がある。
- ・湿地周辺は1952年までは草地であり、その後、スギ等が植栽され人工林となり（1970年に43～60年生）、1976年までに一斉に皆伐（保山帯あり）し、再度植林されて現在に至っている。
- ・1993年、1998年、2004年の空中写真から、1998年時点で湿地南側に接する林が皆伐され、その時点で、湿地南側の水路が現在より深く切れ込んでいる様子が見られる。
- ・過去、周辺森林の伐採に関連する土砂流入が発生した可能性がある。
- ・降雨中の窒素酸化物の増加による富栄養化でヨシの成長が促進されている可能性がある。
- ・湿原は遷移により消失する（埋まる）ものであるが、それまでの時間は、湿原の規模が大きいかほど長く、規模が小さいほど短い。南ヶ谷湿地は、比較的規模の小さい湿原に位置づけられる。

2) なぜ保全するのか？なぜ人為を加えるのか？

上述のように、湿原は自然状態で遷移し消失する。そのため、湿原の保全にあたっては、その自然の遷移を止めるのではなく、自然に加わる人為的影響を排除し、本来の自然の遷移に戻すことが原則となる。このような原則に対して南ヶ谷湿地の保全をどのように考えるべきか。南ヶ谷湿地は、水田のための水利用、人工林管理における土砂流入、富栄養化によるヨシの成長など、直接的なこと、間接的なことを含めて、これまでに様々な人為の影響を受けてきた可能性が示唆されている。それらがどの程度どのような影響を与えたかを明らかにすることは困難であるが、それらの結果として現在の湿地環境を形成していることから、現在の南ヶ谷湿地は原生的な自然環境とは言えない。そのため、生物多様性保全の観点から湿地の保全計画を検討するにあたり、湿地に何らかの人為を加えることも、選択肢となりうる。

大峰山系には、大峰沼、古沼など「群馬県天然記念物」や「日本の重要湿地500（2001年 環境省）」に指定されている湿原環境が存在するが、その他にも湿地や沼が見られ、南ヶ谷湿地もその一つである。赤谷プロジェクトの取り組みの中でこの湿地の存在が明らかになり、サポーターによる調査活動によって、希少な動植物の生息地であることが明らかになってきた。この湿地の保全やモニタリングに強い「関心」と「思い」を持つ市民の活動が存在することが、南ヶ谷湿地を積極的に保全する理由である。

3) 人為を加える場合の原則

湿地の生物多様性を保全するために、人為を加えることを否定しない。しかし、その程度や方法については、十分に注意を払う必要があるため、以下の4つを原則とする。

- ①小規模に人力で行なう
- ②生物群集の核心部はさわらない（作業区を設定しその範囲に限って人為を加える）
- ③やり直しができるように時間を掛けて行なう
- ④基本的に毎月「赤谷の日」で保全とモニタリングができる範囲で行なう。

4) 湿地周辺の森林について

湿地周辺を生息環境とする動植物保全の観点から、湿地周辺の人工林は自然林へ誘導することとし、当面の間は間伐により下層植生等の生育を促すこととする。

間伐にあたっては、湿地に近い部分は保護区域として搬出路を入れないこととし、林床を攪乱せずに伐採木を搬出することが困難な場合は、切り捨て（林内に残すこと）とする。

具体的な保護区設定においては、赤谷の日等を利用して本検討会メンバーと現地を確認を行いながら設定する。また、具体的な間伐の実施方法については、自然林への誘導という視点から、植生管理WGでも十分に検討を行う。

なお、間伐等の森林管理にあたっては湿地への土砂流入が発生しないよう十分注意しておこなうこととする。

5) 哺乳動物による摂食について

2009年度の自然環境モニタリング会議において、南ヶ谷湿地の状況が報告され、その中で、湿地内の希少な植物において摂食が確認されており、それがニホンジカによるものである可能性があるとして報告された。しかし、今回の検討会では、現時点で南ヶ谷湿地にシカ柵の設置は必要ないと判断した。その理由は、摂食がニホンジカによるものと断定されていないこと。現在の摂食により、南ヶ谷湿地の植生が直ぐに危機的な状況に至るとは考えられないことである。

南ヶ谷湿地では、これまでも続けてきたセンサーカメラによる調査と、自然観察により植物の分布状況の変化に注目することを続けることとする。

また、プロジェクト・エリア全域におけるニホンジカの分布の拡大については、ほ乳類WGによる全域のセンサーカメラ調査と、小出俣の自然林復元試験地でのシカ柵を設置した比較調査が行われている。

3. 保全活動（生物多様性の向上）

プロジェクト中核3団体及び赤谷プロジェクト・サポーターの活動日である「赤谷の日」を利用し、そこに集まるメンバーで以下の保全活動を行う。


1) 開放水面の維持

開放水面は、南ヶ谷湿地を生態環境とする、両生類や昆虫類の産卵地及び幼生の生育場所となっている。これまでの観察から2007年と2009年、2011年にも開放水面の減少や消失が見られた。開放水面の一時的な消失が両生類や昆虫類の生息に直ちに影響を及ぼすとは考えられないが、湿地内に多様な環境を維持するという側面から生物多様性保全上有効であると言えるため、事前に定めた作業区内において、開放水面の維持を行う。

<方法>

6月～8月頃に作業区内で開放水面が維持されていない場合、手掘りにより堆積した落葉を除去して開放水面を維持する。除去した堆積物には、水生昆虫等が生息している可能性があるため水際に置く。保全活動を記録するために、作業前、作業後は写真撮影で記録する。

<作業区>

 : 作業区（3地点）

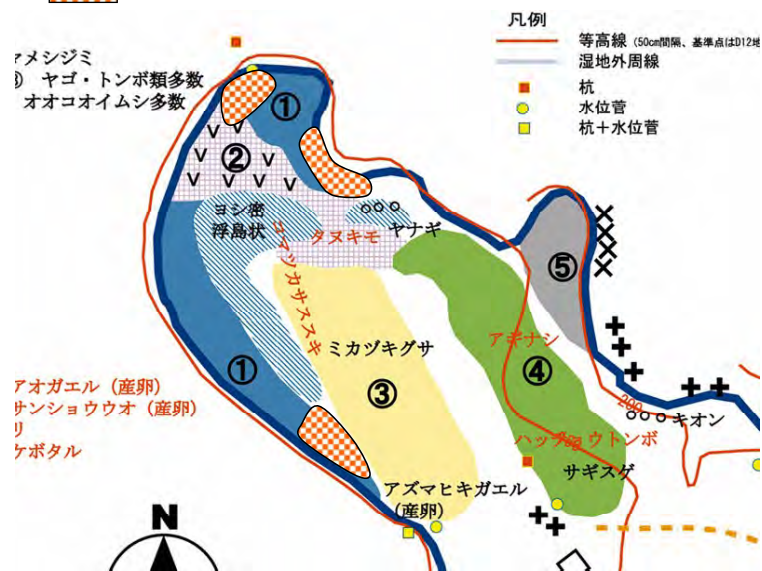


図1

4. 調査活動

1) モニタリング

プロジェクト中核3団体及び赤谷プロジェクト・サポーターの活動日である「赤谷の日」を中心に以下のモニタリングを行う。

a. ヨシの刈り取り

湿地の乾燥化とヨシの分布拡大に伴う希少湿生植物の減少が懸念されていることから、一部に作業区を設定して、ヨシの刈り取りを行い、その効果を確認する。

<方法>

7月頃、設定した作業区でヨシのみ刈り取りをする。その際、ミズゴケ等が分布する湿地内には立ち入らない。刈り取り後は毎月定点で写真撮影を行い、周辺の刈り取らない場所との比較を行う。

<作業区>


 : 作業区*ミズゴケ等の分布する場所に立ち入らず手の届く範囲



図2

b. ヨシの分布拡大のモニタリング

ヨシの分布が拡大していることが懸念されることから、定点で写真撮影を行い、経年のヨシの分布の変化を記録する。撮影定点は必要に応じて随時追加する。

<方法>

概ね5月～10月の間、以下の定点で写真撮影を行う。*「No.」は「樹木No.」

定点C:北西側への分布拡大のモニター(No.22に背中を付けて杭とカラマツを直線に)

定点D:西側への分布拡大のモニター(No.28の横の杭とカラマツを直線に)



図3

定点C



No.22 横の杭

※No.22 に背中をつけて撮影

定点D



c. クロサンショウウオとモリアオガエルの産卵数

南ヶ谷湿地は、赤谷プロジェクト・エリアにおいて、最も大きい湿地環境の一つで、特に、クロサンショウウオとモリアオガエルの産卵地として最大の場所である。今後、湿地周辺の人工林を自然林へ誘導することとしており、周辺の森林の変化や森林管理がこの2種の両生類にどのような影響を与えるか、生物多様性保全の観点から注目する。

<方法>

○クロサンショウウオ

調査時期：4月中旬～5月上旬

記録方法：湿地外周を一周し、場所を区分して卵塊数を数える。

○モリアオガエル

調査時期：7月赤谷の日（7月第一土日）

記録方法：湿地外周を一周し、樹木 No.毎に卵塊数を数える。

d. 水環境

南ヶ谷湿地は貧栄養の湧水によって涵養されており、水環境は最も重要な環境要素である。周辺の森林管理や植生の変化や、湿地の乾燥化の程度との関係を把握するために、定点の水質、水位、地下水位のモニタリングを行う。

<方法>

○水質

2009年に5月～12月の間、13地点の計測を行い概況は把握されている。今後は変化があるかどうかの確認のための測定を適宜実施する。

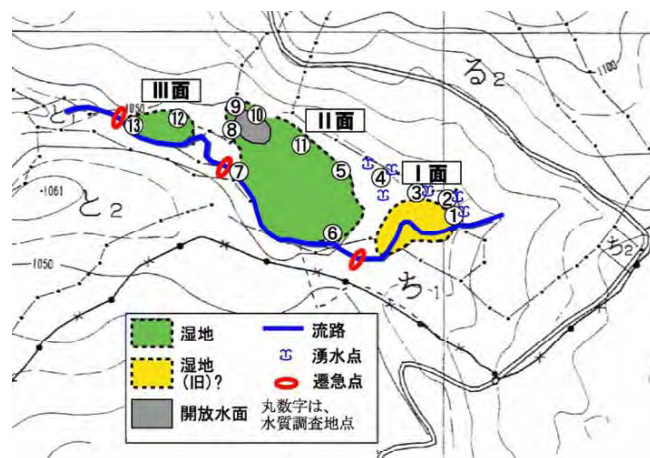


図4

調査項目：水温、pH、電気伝導度（EC）

調査方法：簡易計測計により測定

○地下水位

2009年6月より、下図に示した測定地点パイプを設置して地下水位を測定した。2009年はほぼ月1回、2010年はほぼ2ヶ月に1回の頻度で調査を行った。また、地点D1において、開放水面の水位測定も行っている。2年間の調査から、晩夏から初秋（9月上旬頃）に地下水位が低下する傾向が見られている。

測定においては湿地に踏み込む必要があるため2010年以降、D4、D9の2地点の測定は中止している。また、ヨシ原内でパイプを探索するのは時間が掛かる作業であるため、調査頻度も無理のない計画にする必要がある。

調査方法 ①開放水位測定：南ヶ谷湿地を訪れた際に毎回記録する。

②D1～25（D4・9を除く）の水位測定：2009年は6、7、9、10、12月、2010年は6、9、12月、2011年は10月に実施している。経年変化を観察するため、最低年2回、6月と9月赤谷の日に測定する。なお、9月の湿地内部測定は、ヨシが茂り困難である。その際は湿地周辺の探索路沿いに隣接する地点だけ測定することとする。



図10. 地下水位および水面水位測定地点（数字は地下水位測定地点番号）

e. 湿地周辺のほ乳動物の動向

赤谷プロジェクト・エリアはニホンジカの分布拡大が懸念されていることから、南ヶ谷湿地周辺のほ乳動物の分布状況を継続的に確認する。また、植物の摂食にも注目して観察を継続する。

<方法>

概ね5月～12月の間、センサーカメラを設置する。また、摂食と植物種の分布の変化に注目した自然観察を続ける。

2) 基礎的な知見や資料の収集

南ヶ谷湿地について知見を収集するために、専門家や地域住民の協力を得ながら、以下の調査を可能な範囲で実施する。

f. 湿地の歴史や過去の環境についての調査

南ヶ谷湿地に過去に訪れたことのある地域住民からのヒアリングを行う。また、ボーリング調査、溪藻類の調査など、過去の湿地の環境や、土砂流入等についての知見が得られる可能性がある調査は、湿地環境への悪影響に十分配慮しながら随時実施する。

g. インベントリー調査

水生昆虫やトンボ類など、南ヶ谷湿地を生息環境とする生物はまだ十分に把握されていない。そのため、地元専門家などの協力を得ながら、可能な範囲で調査を実施する。調査においては、湿地環境への悪影響に十分配慮しながら随時実施する。

5. 今後の順応的な管理

南ヶ谷湿地保全管理計画検討会は本計画（案）を策定した時点で解散する。今後、調査やモニタリング結果の情報共有や、新たな保全策が必要と思われる事態が発生した場合は、以下の手続きで行うこととする。

1) 調査やモニタリング結果の情報共有

毎月の「赤谷の日」を中心とした活動状況は、サポーター・メーリングリスト、赤谷の森語ログ（ブログサイト）等で公表し随時情報共有を行う。また、概ね1年に1回、本検討会メンバーを含めて、モニタリング結果と活動状況について評価する機会を赤谷プロジェクトが設定する。

2) 新たな保全活動、調査活動等が必要となった場合

今後、モニタリング結果や様々な状況変化によって、新たな懸案事項や課題が発生した場合、まず、本検討会と同様の開かれた検討機会の設定を、赤谷プロジェクトの定例会合である、調整会議（年2回）、と企画運営会議（年2回）に提案することとする。

6. 検討会を終えて

赤谷プロジェクト・サポーター

竹村秀雄

いろいろな意見、考えがあること、また保全活動を進めることが如何に大変かということを感じました。今回の検討結果が一步前進となり、手遅れとなることを回避できればと念じています。（2011年9月23日）

前田修

南ヶ谷湿地は、地球規模からすると、ほんのひとつかけらの顕微鏡的規模の湿地ではあるが、特定の生物の密度が濃く、また年代的には深い時間を保ってきた湿地である。湿地保全プロジェクトは今回の検討会でやっとスタート地点にたどりついたと思う。過去に行政が各地での地域開発などにあって形式的に実施したスポットのモニタリングで後世に禍根を残した例は多い。非常に難しく、労力と時間がかかることではあるが、今後は湿地全体および周辺の生物相等をさらに見極めて、都度検討を繰り返す必要があると感じた。（2011年9月24日）

和田晴美

南ヶ谷の扱いについては「どこで誰が考え決めるのか」がわからず、先の見えない感覚がずっと続いていました。こうして検討する道筋がつくれたことに、何より感謝します。また、多くの方々に南ヶ谷湿地が周知されたこともよかったことと思っています。

それにしても、あれほどの時間・手間のかかることに驚いています。かかわりの薄かった方々にとっては、もういい加減にしてほしいと思えたかも。南ヶ谷は小さな湿地で、奥利根やら東北などに行けばあちこちで見られるようなものかもしれませんが、頻度高く観察できる場所でもあり、これからも消失することのないように見てゆきたい、というところです。（2011年7月22日）

開放水面作業区のうち、真ん中の作業区について、うっかりしていてあとから気づいたのですが、真ん中部分の作業区は、常に水がたまっており(多分、わずかに水がしみだしている)、またマメシジミやヤゴが多数生息する部分で、手掘り作業は不適当と思えます。少し位置をずらしたらよいのでは？図面上での作業は現地の実態とずれが生じることはある

かと思えます。また、③、④部分へのヨシ進出と密度の増加を写真などでモニタリングする必要があると思っています。

開放水面は2007・2009年に続き2011年にも泥沼状態で、以前手掘り作業をした部分以外はほぼ水面がなくなっています。この状態を見つと思うのですが、これからも湿地の実態を観察し、実態に沿った対策を適宜考えていってほしいです。

多くの湿地の生き物たちが危惧種登録されています。これは彼らの生息域が圧倒的に減少してきているからだと思います。もともと多くの湿地は、川が氾濫したり崖が崩れたりしてうまれたり消えたりしてきたものでしょう。現在は人間がそれを制御するわけで、うまれることはあまりなくなり、消えるほうが圧倒的に多くなったと思えます。そんな意味では、現在ある湿地は大切にしていきたいと願っています。(2011年10月7日)

自然環境モニタリング会議

中井達郎

南ヶ谷湿地の保全の方向については、保全の直接的な作業が先行する中で、赤谷プロジェクト内で意見が分かるところがあり、基本方針を共有できていない状況であった。今回の検討会では、多くの関係者が一堂に会して、湿地保全のあり方や南ヶ谷湿地の自然・生物への思いなどについて議論をすることができた。このようなプロセスを通じて、南ヶ谷湿地の保全の方向性と保全作業のためのルールがまとめられたことを評価するとともに、今後も関係者のコミュニケーションによって、よりよい南ヶ谷湿地保全が図られることを期待する。(2012年3月18日)

関東森林管理局

石坂忠

希少な植物がヨシによって無くなってしまわないか？という思いを強くもたれていた。ヨシと希少種のどちらが大切なのか？という議論になる部分があった。様々なもの見方の違いを出し合う機会は面白いと感じた。(2011年9月16日 企画運営会議)

藤代和成

強い思いを持っている方と、専門的な視点の違いは不毛な意見交換のようにも感じていた。ただ、興味を持っている方の思いを大事にすること、一方で、個人が持っているこだわりが自己満足であることを認識してもらうことも、合意をつくる中で重要だと感じました。このようなことはどこでも起こるので、一つのケースになると考えている。(2011年9月16日 企画運営会議)

赤谷プロジェクト地域協議会

松井睦子

検討会には3回出席した。南ヶ谷湿地は大峰沼・古沼に匹敵する自然性を持っている場所。地元の方の話では、昔から様々な用途にこの湿地を使ってきた可能性がある。その利用をもう少し明らかにして、今後の保全に生かしたい。(2011年9月16日 企画運営会議)

日本自然保護協会

横山隆一(常勤理事)

誰かが自然性の高い場所を発見したとき、そこの保全について検討する場合は専門家を主体にするのが一般的な方法である。ただ、専門家が出した方針に対して、思いやこだわりを持つ市民が納得できないという状況がしばしば発生する。その状況への対処方法として、市民とじっくり検討を行い、より納得性の高い結論を探り出す作業をしたのが今回の検討会。簡単に言えば、手間ひまをかけたということ。

科学的な話だけであれば直ぐに結論できることに、こだわりを持つ方がいた場合、そのこだわりを重視して対応することが、赤谷プロジェクトらしいのではないかと考えている。このようなことは、自然保護においても、行政においても頻繁に発生すること。今回をひとつの参考事例にしたい。(2011年9月16日 企画運営会議)

出島誠一(保護プロジェクト部)・事務局

科学的な根拠を担保しながら、最大限個人のこだわりにも配慮をする。ある程度時間、コストをかけないと合意はできないということを改めて感じた。(2011年9月16日 企画運営会議)

以上

AKAYA (赤谷) プロジェクト・サポーター制度 要項

2006年5月25日

1. はじめに

AKAYA プロジェクト（正式名称：三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画）は、群馬県みなかみ町北部に広がる1万ヘクタール（10km 四方）の国有林“赤谷の森”を、地元住民で組織する「赤谷プロジェクト地域協議会」、林野庁関東森林管理局、(財)日本自然保護協会の3つのセクターが中核団体となって共同管理していくプロジェクトです。

AKAYA プロジェクトは、「生物多様性の復元」「持続的な地域社会づくり」という二大目標の実現と、地域社会・政府機関・公益法人（NGO）の複数の主体が主体的に協働し地域環境管理を行うモデルとなることを目指しています。

このAKAYA プロジェクトの理念に共感・共鳴し、プロジェクトの目標実現を支援して頂ける方を募っています。活動拠点“いきもの村”での環境保全管理実習を通じた、スキルアップの場も用意しています。

21世紀の“公益”を形づくるAKAYA プロジェクトにご参加下さい。

2. AKAYA プロジェクト・サポーター

AKAYA プロジェクトの理念に共感し、プロジェクトの目標実現にご協力いただける方を対象に、『AKAYA プロジェクト・サポーター』（以下「サポーター」）制度を設けています。

サポーターとして登録いただいた方には、メーリングリストにて、“赤谷の森”の日々の様子や、プロジェクトの活動に関する情報を共有していただけます。また、活動拠点“いきもの村”での環境管理実習や、プロジェクトが実施する調査・研究活動や催事への参画機会もご案内します。

ご自身の都合に合わせて、各種のサポーター活動にご参加いただけます。

2-1. サポーターとは

サポーターとしてAKAYA プロジェクトへご参加いただくには、以下の3つの条件を満たしていただきます。

1. AKAYA プロジェクトの理念に共感し、プロジェクト推進に協力して下さる方
2. ボランティアな立場でプロジェクトの活動に加わって下さる方
3. サポーターとして、“公益”を担う意識を持って活動することを自覚して下さる方

2-2. サポーターの活動

サポーターの活動には、フィールドワークを主体として、以下のタイプがあります。

A. 自然環境の調査・研究(モニタリング)活動

研究者が企画し、プロジェクトが実施する各種モニタリング活動への参加や、“いきもの村”を中心としたサポーター・グループの企画提案によるモニタリング活動があります。

例) ホンドテンの食性モニタリング、猛禽類の生息環境利用モニタリング、自動撮影装置による動物相調査、キノコ相調査、広葉樹の結実豊凶調査、コウモリ相調査、等

B. 森と人とのかかわりの再構築を目指した活動

地域住民を講師として、地域伝統文化や、森林資源利用に関する技術の伝承など、森と人とのかかわりを再構築する活動があります。

例) 炭窯づくり(炭焼き)、かんじきづくり、等

C. “いきもの村”を中心とした環境教育活動

-C1. “いきもの村”の環境教育フィールドとしての管理・活用

例) ネイチャートレイルの管理、野生動物とのエンカウンタースペースの研究、等

-C2. 環境教育リーダーとしての研修、環境教育プログラムの企画・運営への参画

例) 自然観察会のプログラムづくり、自然観察会の企画・実施、NACS-Jが開催するリアルネイチャー・キャンプ(RNC)への協力、等

2-3. サポーター活動中の安全確保について

サポーター活動中の安全は、個人の自己責任において確保していただきます。自己の技術や体力を鑑み、林道や森林内を歩く際の危険回避、活動期間中の体調管理等、自己責任で行ってください。

2-4. サポーター活動の保険について

AKAYA プロジェクト関係団体が主催する催事については、主催者が保険加入手続きを行います。（但し、参加者の保険料負担の有無は催事により異なります）しかし、これ以外で、サポーターの自身の都合に合わせ、自主的にサポーター活動を行う場合や、個人として赤谷の森に入る場合は、その限りではありません。個人で野外活動保険等に加入した上で活動することを、強くお勧めします。

3. サポーター登録制度の内容

3-1. 登録手続きの手順について

総合事務局の日本自然保護協会にお問い合わせ下さい。関係する催事の日程をご案内いたします。

①いきもの村自然観察会*1、リアルネイチャー・キャンプ*2、“赤谷の森”で行われる NACS-J 自然観察指導員講習会*3、のいずれかにご参加下さい。各企画の中で、AKAYAプロジェクトとサポーター活動について説明とご案内が行われます。

②サポーターとして登録を希望する方に、「AKAYAプロジェクト・サポーター登録制度要項」と「登録申込書」をお届けします。要項の内容をご確認の上、登録申込書に記入し、総合事務局（日本自然保護協会）へご提出下さい。

③サポーターと中核団体による合同研修日「赤谷の日」*4 にご参加下さい。初回講習会を行います。この講習会をご受講いただいた後、正式にサポーターとして登録いたします。

【備考】

*1 いきもの村自然観察会

赤谷の森の玄関口“いきもの村”で行われる自然観察会です。AKAYA プロジェクトサポーターとプロジェクトの中核団体が、いきもの村をご案内いたします。

*2 リアルネイチャー・キャンプ

“赤谷の森”を舞台に豊かな自然を体験するプログラムです。季節毎に様々な“赤谷の森”の姿をプロのナチュラリストがご案内します。みなかみ町の温泉宿に宿泊します。“赤谷の森”から湧き出る自然の恵み（温泉）もお楽しみ頂けます。

*3 NACS-J 自然観察指導員講習会 in 赤谷の森

地域に密着した自然観察会を開き、自然を自ら守り、自然を守る仲間をつくるボランティアリーダーを育成する2泊3日の講習会です。2006年は9月29日～10月1日に開催します。詳細は <http://www.nacsj.or.jp/shidojin/index.html>

*4 「赤谷の日」

AKAYA プロジェクトの中核団体とサポーターが、毎月第1土日（都合により変更することもあります）、“いきもの村”に集合して、合同で研修を行ったり、環境管理を行ったり、それぞれの活動状況を報告したり、プロジェクト関係者の研鑽の場となっています。

各日程については AKAYA プロジェクト ホームページ <http://www.nacsj.or.jp/akaya/> もご覧下さい

3-2. 登録期間と更新について

登録期間：申込書提出日より3月31日まで（最長1年間）

登録更新：毎年3月～4月の間に更新申込書をお送りします。登録更新を希望される場合は、ご申込書にご記入いただき、総合事務局にご提出下さい。

※なお、登録費、年会費、更新費等は不要です。

3-3. サポーター世話人制度について

サポーターに登録いただいた方の中から、毎年1～3名の「世話人」を選出します。「世話人」はサポーター・グループの代表者としての役割を担います。

<選出方法>

合同研修日である「赤谷の日」、及び各種サポーター活動に積極的に参加している方の中から、サポーター・総合事務局の協議により、毎年5月に行われる「赤谷の日」において選出します。

4. お問い合わせ先

AKAYA プロジェクトの中核団体

【総合事務局】

財団法人 日本自然保護協会

〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F

TEL : 03-3553-4107 FAX : 03-3553-0139

http://www.nacsj.or.jp akaya@nacsj.or.jp

赤谷プロジェクト地域協議会

〒378-0015 群馬県沼田市戸鹿野町 528-16 アミ動物病院内

TEL : 0278-22-2119 FAX : 0278-22-2192

amiah@green.ocn.ne.jp

林野庁関東森林管理局 赤谷森林環境保全ふれあいセンター

〒378-0018 群馬県沼田市鍛冶町 3923-1

TEL : 0278-60-1272 FAX : 0278-24-5562

http://www.kanto.kokuyurin.go.jp/akaya/akayaproject/

akaya_postmaster@rinya.maff.go.jp

AKAYAプロジェクト・サポーター 登録・更新申込書

※事前に『AKAYAプロジェクト・サポーター登録制度要項』をご確認下さい。

記入日 年 月 日

私は、赤谷プロジェクトの趣旨に共感し、AKAYAプロジェクト・サポーターへの登録を希望します。

氏名（フリガナ）		生年月日	
住所 〒			
電話番号	FAX	携帯番号	緊急連絡先番号(*1)
Email		サポーターメーリングリストへの登録 希望する / 希望しない 注) 1MB程度の画像を送信することが頻繁にあります	

(*1：ご家族、実家等、ご本人以外の連絡先をご記入下さい)

個人情報は皆様への連絡、情報提供と、保険登録に使用します。

個人情報は総合事務局NACS-Jが管理し、第三者へ提供することはありません。

AKAYAプロジェクトサポーター登録及び継続の動機
特技・専門分野・職業等プロジェクトに生かせる専門技術など
サポーター活動で関心を持っている活動及び、やりたい活動
AKAYAプロジェクトに期待する事、要望

NACS-J会員（普通/団体/賛助）の方は会員番号をご記入下さい。

No. _____

AKAYA プロジェクト「いきもの村」の施設利用ルール

2005年2月の「赤谷の日」で合意
最終改正 2011年3月30日

1 「いきもの村」とは

「いきもの村」は、「赤谷の森」の入口に位置し、古びた小屋や草地などからなるおよそ7ヘクタールの国有林です。ここは、モニタリングサイトのひとつであり、また、プロジェクトの仲間が学ぶプロジェクトの活動拠点であると共に、外部への情報発信拠点です。

「いきもの村」では、プロジェクト関係者とプロジェクトサポーターの共同作業により、センサーカメラを活用した野生動物の行動の把握、自然観察路の整備、外来種のニセアカシアの除去など、その周辺の国有林を含めた環境管理を進めています。

プロジェクトの仲間たちが協力し、この場所を、野生動物がどのように利用しているのかなどを実体験として学ぶことができるなど、森での自然の営みを肌で感じることができる、ユニークな自然観察のためのフィールドとしていきます。

地域や都会の子供たちをはじめ、森の自然の仕組みを学びたいと思っている多くの方々が、森で遊びながら、自然の仕組みを学び、自然環境を守ることの大切さを感じることができる、そんな体験をすることができる場所が、「いきもの村」なのです。

2 利用ルールを設定した理由

「いきもの村」を素晴らしい自然観察フィールドとして維持・整備していくため、「いきもの村」の利用に当たって、プロジェクト関係者とプロジェクトサポーターの合意の下、守らなければならないルールを設定しました。

なお、このルールは「野外フィールドの利用ルール」と「建物の利用ルール」からなっています。

3 野外フィールドの利用ルール

「いきもの村」の野外フィールドの利用に当たっては、守らなければならないルールがあります。

(1) 無断で立木竹の伐採及び土地の形質変更を行わない。

立木竹の伐採及び土地の形質変更を行う場合は、林野庁職員の同意の下、行ってください。

(2) 指導者の許可なく調査器具に触れない。

プロジェクトの仲間たちの共同作業により、「いきもの村」での野生動物の行動などを詳細に把握していくためには、指導者の指示の下、体系的にセンサーカメラなどの調査器具を設置し、有効なデータを収集する必要があります。センサーカメラなどの調査器具の設置・移動は、指導者の指示の下、行ってください。

(3) 試験地や野生動物保護区域などに勝手に立ち入らない。

今後、様々な調査研究を「いきもの村」で行ってきます。「いきもの村」に設置される試験地や野生動物の保護区域などには、調査結果や野生動物の繁殖活動などに影響を与えないよう、立ち入ってはけません。

(4) 野外における火気取扱上の注意

「いきもの村」ではたき火を禁止します。

野外で火を使う活動として炭窯での炭焼きがありますが、この際は火を使っている間は現場を離れない、完全消火を行うこと等、火の取扱には十分に注意を払います。

なお、炭焼き以外で野外での火の利用が必要となる場合は、今後継続して検討していくこととします。

(5) 調査目的以外のテントの設営の禁止

「いきもの村」の野外フィールド内で、調査目的以外のテントの設営を禁止します。

4 建物の利用ルール

「いきもの村」の建物の利用に当たっては、以下のことを了解した上で、(1)～(4)の手順を踏んで下さい。

- 「いきもの村」は、AKAYA プロジェクトの活動の一環として行われる場合のみ、使用できることとする。
- その使用は、円滑に活動を行うのに必要な調査、会議、休憩、仮眠、軽食等とする。なお、仮眠とは、布団ではなく寝袋等簡易なものを利用したものである。
(関東森林管理局における「いきもの村」利用の見解より)

(1) 利用の種類

建物の利用は、①日中の利用、②夜間に及ぶ活動を伴う利用の2種類があります。

① 日中の利用は、AKAYA プロジェクト・コアセクター3団体が主催・協力する企画、並びにサポーター・グループが主催する企画で、責任者が明確かつコアセクター3団体のいずれかの担当者、あるいはサポーター・グループの責任者が同行する場合に限りです。

② 夜間に及ぶ活動を伴う利用は、複数名を基本とし、AKAYA プロジェクト・コアセクター3団体が主催する企画で、責任者が明確かつ、コアセクター3団体のいずれかの担当者(コアセクター3団体のいずれかから依頼されたサポーターを含

む。)が同行する場合に限りです。

また、外部の方の利用に関しては、プロジェクト関係者がその利用に対し協力、後援等していることが必要です。

なお、①日中の利用、②夜間に及ぶ活動を伴う利用、いずれの場合も以下の建物利用の登録が必要となります。

(2) 建物利用の登録

建物利用の登録は、事前（利用する日の5日以上前）にサポーター・メーリングリストに、①利用の目的、②利用する日時、③利用する者、④利用する建物の4項目を登録します。（*調整が必要な場合がありますので、登録は5日以上前にして頂くよう協力願います。）

利用の登録に対し、疑義等が生じる場合には、誰でも自由に意見を述べる事ができます。

なお、利用の申請に基づき、「いきもの村」を利用した者は、その概要を、利用期間に観察した野生動物の情報などを盛り込み、サポーター・メーリングリストに報告してください。

なお、事前の利用申請をしていないものの荒天等の理由により急遽利用した場合は、速やかにサポーター・メーリングリストに上記の①～④の4項目を報告して下さい。

(3) 建物内での火気取扱上の注意

「村の家」、「たくみ小屋」は木造建築物であり、薪、石油ストーブや湯沸かしのためのコンロの使用や、いきもの村の炭焼き施設で作られた木炭の使用にあたっては、消火器の配置を確認すると共に、引火しやすいものを近くに置かない、必ず消火の確認を行うなど、火気の取扱いに当たっては細心の注意を払わなければなりません。

(4) 利用した施設の原状回復

利用に当たっては、施設の原状回復が基本となります。

使用した工具などについては、収納していた場所に戻します。工具などが損傷した場合には、その内容を、使用後すみやかに赤谷森林環境保全ふれあいセンターに報告してください。

消耗品のうちストーブ用の薪については、使用した分の薪を補充してください。その場合、林野庁職員の同意がなければ、立木竹を伐採することはできません。薪の材料は、たくみ小屋の作業小屋に保管している古材や「赤谷の日」に伐採したスギ、ニセアカシア、エリア内の落枝などを使ってください。薪拾いの場合、「いきもの村」（＝国有林）の範囲を超え、民有地にはみ出で、薪の材料を集めてはいけません。

消耗品のうち灯油、乾電池、湯沸かしコンロの燃料については、利用者に、原状回復の義務はなく自由に使えますが、使用した数量や時間等を、使用後すみやかに

赤谷森林環境保全ふれあいセンターに報告してください。

利用した施設については、必ず清掃を行い、使用前の状態に戻してください。また、利用に当たって発生したゴミは、利用者が持ち帰ってください。

各建物の戸締まりは、確実に行ってください。

5 周辺への迷惑行為の禁止

「いきもの村」を利用するに当たっては、周辺住民への迷惑となる行為は行わないよう、赤谷プロジェクト参加者としての自覚を持った活動に努めてください。

6 利用の制限

利用が重複する場合、利用の目的がプロジェクトの趣旨から逸脱していると判断される場合、建物の管理上、特別な理由がある場合には、土地又は建物の管理者である利根沼田森林管理署又は関東森林管理局（赤谷森林環境保全ふれあいセンター）は、その利用を制限することができます。

7 緊急時の連絡

緊急の事態が生じた場合、関係機関に早急に連絡することです（連絡先は下記）。「村の家」、「たくみ小屋」に、病院、消防、警察、赤谷森林環境保全ふれあいセンター、利根沼田森林管理署、日本自然保護協会など緊急の連絡先を掲示しています。利用者（利用責任者）は、緊急の事態が生じた場合には、関係機関に早急に連絡してください。

○ 緊急連絡先（個人の携帯電話番号は省略）

・ 警察（緊急）	110
沼田警察署	0278-22-0110
新治交番	0278-66-0049
・ 消防（緊急）	119
利根沼田広域消防本部	0278-22-0119
利根沼田広域西消防署	0278-64-0002
・ 病院	
月夜野病院（月夜野町真庭）	0278-62-2011
利根中央病院（沼田市東原新町）	0278-22-4321
・ 赤谷森林環境保全ふれあいセンター	0278-60-1272
・ 利根沼田森林管理署	0278-24-5535
相俣森林事務所	0278-66-0017
・ 法師温泉長寿館	0278-66-0005
・ 川古温泉浜屋旅館	0278-66-0888
・ 日本自然保護協会	03-3553-4107

H24. 3. 23

赤谷プロジェクト フィールド利用ルール

このルールは、赤谷プロジェクト関係者^(注1)が赤谷の森を利用するときの基本的な考え方をまとめたものです。このルールのもと、皆さん一人一人が安全を第一に、国有林の利用のモデルとなるような活動をしていきましょう。

注1：「赤谷プロジェクト関係者」とは、日本自然保護協会、地域協議会、関東森林管理局（利根沼田森林管理署（以下「利根沼田署」という）を含む）のほか、モニタリング会議メンバー（各WGメンバーを含む）及びサポーター登録者をいいます。

1 赤谷の森に入りたいときには

(1) 赤谷の森に入る時には、基本的に手続き不要です。

但し、赤谷プロジェクト関係者の活動を円滑にするため、事前に活動内容、日時、場所、氏名等を「赤谷プロジェクト活動表（仮称）」（以下「活動表」という）に登録することができます。事前に登録することにより、活動場所の重複を避けたり、合同の調査などが可能になるとともに、緊急時の相互連絡にも役立ちます。

また、活動表に登録できない場合は、赤谷森林環境保全センター（以下「赤谷センター」という）に活動内容等を連絡すれば登録できます。

(2) 災害や樹木の伐採などにより、入ることができない場所は、赤谷センターからサポーター・メールリストでお知らせします。

(3) 林道を利用したいときには

① 赤谷の森には、伐採された樹木の運搬等を行うために作られた国有林林道（以下「林道」という）があります。

これらの林道は一般の方々の利用を想定したものではありませんので、安全対策が十分とはいえません。このことを十分理解した上で、林道を利用することとします。

② 林道を利用するときは、歩行での利用を原則とし、走行車両の妨げにならないよう十分注意することとします。

③ 林道には、ゲートが設けられています。車両による利用が必要な場合は、事前に赤谷センターと調整を行いゲートの鍵の受渡しをすることとします。

④ 災害等のために利用できない林道については、赤谷センターからサポーター・メールリストでお知らせします。

2 安全管理

(1) 赤谷の森での安全管理は、自己責任のもとに行うことを原則とします。

(2) 活動に伴い、万が一事故が発生した場合の補償は、原則として当該国有林野の管理者である利根沼田署長に求めないこととします。

(3) 赤谷プロジェクトの活動^(注2)に付随する活動^(注3)で、一般の方々が入林する場合、主催者は参加者全員に自己責任の原則を確認することとします。また、万が一の事故に備えるため、主催者が参加者への傷害保険や引率者への損害賠償保険を掛けることを推奨します。

注2：「赤谷プロジェクトの活動」とは、企画運営会議で決められた当該年度の赤谷プロジェクトの活動をいいます。

注3：「付随する活動」とは、当該年度の赤谷プロジェクトの活動に明記されていないものの、関係者が主催して行う調査、森林環境教育、視察等で赤谷プロジェクトの活動に寄与又はこれを補完する事業をいいます。

3 お願い

(1) 赤谷の森には、赤谷プロジェクト関係者の他にも、地元の方やハイカーの方なども入っています。このような方たちとの交流を円滑にするためには、プロジェクト名の入った帽子、腕章などの着用が有効と考えられますので、赤谷の森に入るときには着用をお願いします。

(2) 動植物の捕獲・採取、立木の無断伐採等悪質な行為を見かけた場合は、利根沼田署又は赤谷センターに連絡をお願いします。

4 次のようなことをする場合には、関係機関への申請等の手続きが必要となる場合があります。時間的なゆとりを持って、赤谷センターに相談してください。

- ・ 学術研究のための試験地の設定等を行う場合
- ・ 伐採等を伴う体験林業等を行う場合
- ・ 保安林等の制限林内で下草、落葉、落枝の採取、土地の形質変更等を行う場合

その他不明な点や制限林の区域等については、赤谷センターにお問い合わせください。

(参考)

「赤谷プロジェクトフィールド利用ルール」作成にあたって

(国有林野の利用に関する基本的な考え方)

- 1 国有林野は、国有財産法において「企業用財産」に分類されているため、道路や公園等のように不特定多数の者が利用することを前提とした「公共用財産」とは性質が異なりますが、国有林野は広大な面積を有しており、柵等で囲うことは現実的に不可能です。このため、企業用財産としての用途を阻害しない限り、即ち、国有林野の管理経営に支障を及ぼさない限り、一般の皆さんが入林することを妨げてはいません。
- 2 このような中で、国有林野の利用にあたり手続きを求める場合があります。これは、「国有林野の適切な管理を図るため」であり、「国有林野で事故が起きて欲しくないため」の措置です。
- 3 また、国有林林道は、木材の運搬や国有林野の保全・管理を行うための道路として開設したもので、一般の方々が利用することを前提にしておらず、安全対策が十分に施されていないため、林道利用に起因した事故が発生して欲しくないための措置として、多くの林道で施錠による立入制限を実施しています。
- 4 これらの点を踏まえ、赤谷プロジェクト関係者が赤谷の森を利用する際の基本的な考え方を整理した「赤谷プロジェクトフィールド利用ルール」を作成しました。

赤谷の日 参加者数の推移

平成24年度末 現在

年度	サポーター 登録者数	参加者数							開催 延べ日数	サ月平均 参加者数	全月平均 参加者数	主な出来事	主な活動内容						イベント等
		サポーター	地域協会	赤セ	NACS-J	林野職員	その他	計					炭素関係	テンモニ	南ヶ谷湿地	豊凶調査	生物調査	環境整備	
H16		132	38	56	36	26	2	290	14	9	21	赤谷プロジェクト協定締結 赤谷森林環境保全ふれあいセンター設置						7	いきもの村建物等整備作業 (7月)、赤谷の日活動開始 (10月)
H17		310	66	74	38	40	58	586	20	16	29	赤谷プロジェクト「いきもの 村」お披露目	8	8	0	2	8	4	赤谷の炭焼きを語る会(6月) きのご調査隊(群馬県きのご 同好会)(10月) 1、2月中 止
H18		282	58	40	52	8	18	458	22	13	21		6	11	0	9	7	6	猛禽類フィールドワーク研修 会(7月)、ホンドテンモニタリ ング研修(8月)、 1月中止
H19	44	264	28	30	51	6	6	385	22	12	18	「2号治山ダム」の撤去を 決定 サポーター登録制度開始	4	11	7	7	5	7	地域の伝統文化を学ぶ(伐 採搬出)(4月)、 3月中止
H20	48	293	42	29	49	0	2	415	22	13	19		1	11	11	8	2	2	赤谷の日講座(山梨森総研: 長池)(6月)、赤谷自然文化 車座座談会(8~3月)、 1 月中止
H21	49	346	57	57	64	1	47	572	24	14	24	「2号治山ダム」の撤去工 事完了	2	12	8	8	9	1	赤谷自然文化車座座談会 (4~3月)
H22	49	359	59	67	59	2	12	558	23	16	24	赤谷の森 管理経営計画 書完成(H23年度 H27年 度)	5	10	8	8	10	8	赤谷自然文化車座座談会(4 月)そば打ち(7月)、ヤマビ ル調査(4~12月)、 1月中 止
H23	48	245	38	66	33	9	12	403	22	11	18	第2期赤谷プロジェクト協 定締結 南ヶ谷湿地保全管理計画書 2011作成	7	11	8	7	8	3	南ヶ谷・テンモニ・豊凶調査、 4月中止(地震の影響のため)
H24	51	162	51	32	44	2	31	322	25	6	13	赤谷プロジェクト広報戦力 作成 たくみの里赤谷プロジェ トPRブースオープン	3	11	9	7	9	8	人工林管理を学ぶ(9月) 赤谷の日改良意見交換(2 月)
計		2,231	386	419	382	92	157	3,667	194	12	19		36	85	51	56	58	46	

参加者数は、1日及び半日参加などで一人としてカウント
 参加者数は、赤谷の日活動ページに記載のあった名前をカウント
 活動項目は、赤谷の日活動ページから主だった活動選定
 生物調査は、ムササビ・コウモリ・蝶・鳥、ヤマビル等
 備考欄は、イベント等で、その年度の特徴的な取組を記載
 参加者数は、H16 24年度のまでの計

赤谷森林ふれあい推進センター作成

赤谷の森だよりの掲載内容一覧(第4号～13号)

番号	表紙		コラム		赤谷プロジェクト紹介				赤谷プロジェクトに望むこと		
	テーマ	撮影者	テーマ	執筆者	テーマ	分類	執筆者	所属等	テーマ	執筆者	所属等
4	赤谷の森の最高峰(仙ノ倉山)		晩秋の小出俣林道を歩く	林泉(地域協議会)	赤谷プロジェクト概要	赤P		赤セ	時間がないんだ 森林は…	岸 昌孝	NPO利根川上下流連携支援センター 副事務局長
5	様々な歴史を刻む(小出俣エリア)		一本の木の生涯	中村隆史(赤セ)	大型猛禽類の調査を通じて	猛禽類	山崎 亨	赤谷プロジェクト猛禽類モニタリングWG座長	高等学校における環境教育	松井孝夫	群馬県立尾瀬高等学校自然環境課主任
6	ミズナラ、猛禽調査等		森を科学するとは	茅野恒秀(日本自然保護協会)	赤谷の森と植生管理の活動について	植生	亀山 章	赤谷プロジェクト自然再生モニタリング会議座長	アメリカ・カイバブ国有林におけるオオタカの研究と保全	遠藤孝一	日本オオタカネットワーク代表
7	冬の森林		五年目を迎える赤谷プロジェクト	岡村興太郎(地域協議会)	赤谷の森とホンドテン調査について	ほ乳類 テン	足立高行	応用生態技術研究所 所長	求められている環境教育	春田 隆	群馬県立利根実業高等学校 グリーンライフ科長教諭
8	下層に広葉樹が生育するカラマツ人工林		森林の取扱いの難しさ	藤江達之(関東森林管理局)	赤谷プロジェクト概要	赤P	茅野恒秀	日本自然保護協会			
9	炭窯・カヤ刈り		暮らしが語る森と人間	茅野恒秀(日本自然保護協会)	AKAYAプロジェクトと環境教育	環境教育	横山隆一	日本自然保護協会 常勤理事			
10	雪景色		環境の時代における全国初の取り組み	河合明宣(地域協議会)	赤谷プロジェクトと地域づくり - 旧三国街道の活用を通じて -	地域づくり	茅野恒秀・土屋俊幸	日本自然保護協会・自然環境モニタリング会議委員会			
11	新治小遠足		持続的な地域づくりに取り組んでいます	林 泉(地域協議会)	赤谷の森の溪流環境	溪流環境	相原慎二	赤セ	里山と人との関わりのこれからをみつめて	深津 加津枝	京都大学 准教授
12	仙ノ倉直下から赤谷を望む		三国街道でお宝探し	田中直哉(赤セ)	プロジェクトが発足してからわかったこと(赤谷の森のイヌワシ・クマタカ)	猛禽類	山崎 亨	赤谷プロジェクト猛禽類モニタリングWG座長	次世代を育む活動の必要性	利根川 太郎	みなかみ町立新治小学校長
13	茂倉沢治山ダム・ムタコの日・ムタコ沢水質調査		ともに共に歩むことの大切さ	茅野恒秀(日本自然保護協会)	赤谷地域の国有林の計画づくりに向けて	森林計画		関東森林管理局計画課	体験型環境教育との出会い	岡田千穂	みなかみ町立新治中学校教諭

赤谷の森だよりの掲載内容一覧(第14号～22号)

番号	表紙		赤谷の森写真館		赤谷の森でわかったこと				赤谷プロジェクトに望むこと			サポーター活動の紹介		
	テーマ	撮影者	テーマ	撮影者	テーマ		執筆者	所属等	テーマ	執筆者	所属等			
14	クロサンショウウオ	竹村秀雄 星野理恵子	ブナ・モリアオガエル等	茅野恒秀 竹村秀雄 林 武 川端白人	木材、薪、炭、肥料・・・ 生活を支えていた赤谷の森	地域づくり	茅野恒秀	岩手県立大学 総合政策学部 講師	赤谷プロジェクトに望むこと	西田真哉	トヨタ白川郷自然学校 校長			
15	ムタコの日	安田剛士	立ち枯れたブナ・オコジョ等	茅野恒秀 出島誠一 竹村秀雄 前田 修	センサーカメラとテンモ二隊の活躍	ほ乳類 テン	足立高行	応用生態技術 研究所 所長	赤谷プロジェクトに望むこと	藤江達之	森林総合研 究所			
16	ニホンカモシカ	青木邦夫	オオカメノキの冬芽・ウサギの足跡等	茅野恒秀 竹村秀雄 星野理恵子 小鮬 守 平井希一	自然の森の姿	植生	龜山 章	自然環境モニタリング会議 座長	赤谷プロジェクトに望むこと	江戸家猫八	動物ものまね 芸家	テーマ	執筆者	所属等
17	熊の親子		初夏の三国は、ツツジ街道	竹村秀雄 川端白人	新たな森づくり、スタート！ 「赤谷の森管理経営計	森林計 画		関東森林管理 局計画課	赤谷プロジェクトに望むこと	清水英毅	森林塾青水 塾長	活動の紹 介	藤田 卓	サポーター
18	ムタコの日		美しいチョウたち	小林茂男 出島誠一 前田 修 藤田 卓	人工林を自然に戻してみようという試み	植生	塚田夢人	東京農工大学 森林生態学研 究室OB	自然は素晴ら しい資源	施井真希子	みなかみ町 観光協会	ホンドテン モニタリン グ調査	青木邦夫	サポーター
19	初冬の三国山		「赤谷の森、樹木たちは今！」	平井希一 赤セ 和田晴美 福田耕二 竹村秀雄 小鮬 守	姉妹プロジェクト「綾の照葉樹林プロジェクト」について	その他	土屋俊幸	自然環境モニタリング会議委 員会	赤谷プロジェクトに望むこと	岸 良昌	みなかみ町	豊凶調査	豊凶調査 チーム	サポーター
20	ブナの実生	竹村秀雄	「ハイキングコースで可憐な草花と出会う！」	越尾 武	「赤谷の森のコウモリ」	ほ乳類 コウモリ	三笠暁子	コウモリの会事 務局	赤谷プロジェクトに望むこと	河合明宣	地域協議会	南ヶ谷湿地	竹村秀雄 和田晴美 前田 修	サポーター
21	樹液を吸うカブトムシ	赤セ	カブトムシ採りの思い出	画像：赤セ 文：小池俊弘	スギの人工林を”自然に戻す”実験を始めました	植生	藤田 卓	日本自然保護 協会	人と自然が共 生できる環境 へ	阿部政英	高原千葉村	成功したヤマビル対策	坂口・星野	サポーター
22	春を待つフキノウ	松田大介	三国山・平標山の花々	林ふさ子	ニホンザルを調べてみたら	ほ乳類 サル	安田 剛士	地域協議会	「畏敬の念と感謝」	小林友子	新治小学校 六年担任	オオムラサキの幼虫探し	前田 修 小林茂男 小鮬 守	サポーター

日本自然保護協会会報誌「自然保護」の掲載記事一覧

掲載号	年	月	コーナー名	タイトル
473	2003	5	活動最前線	報告 / 「MIKUNIプロジェクト」が始動します！
474	2003	7	活動最前線	(仮)MIKUNIプロジェクト始めました！
475	2003	9	活動最前線	AKAYAプロジェクト・地域の自然を調べるプログラムをスタートさせます
476	2003	11	活動最前線	報告 / AKAYAプロジェクト、地域協議会発足
477	2004	1	活動最前線	AKAYAプロジェクト正式発足 生物多様性の復元を旨とします。
478	2004	3	活動最前線	案内 / AKAYAプロジェクトサポーターチームの活動が始まりました。
479	2004	5	活動トピックス	案内 / AKAYAプロジェクト「協定」締結。地域環境管理が始まりました。
480	2004	7	活動トピックス	案内 / AKAYAプロジェクトの「和みと自然体験の場づくり」に参加されませんか？
481	2004	9	活動トピックス	案内 / AKAYAプロジェクトの作業小屋ができました！
482	2004	11	ふいーどへGO!	東芝の協賛でAKAYAの森に親子を招待しました！
483	2005	1	活動トピックス	毎月第1土・日曜日はAKAYAの日。森の玄関「いきもの村」にお出かけください。
483	2005	1	Reader's Forum / お便り	AKAYAプロジェクトに参加しました。
484	2005	3	特集 / 自然を記録するスキルアップ術	映像に何を記録するのか(センサーカメラ)
484	2005	3	活動トピックス	地域住民・林野庁・NACS-Jによる国有林共同管理のしくみを公開
486	2005	7	OPINION	求められる思考の転換～AKAYAプロジェクトを通して
487	2005	9	活動クローズアップ	AKAYAの情報を記録するためのGISベースマップができました。
488	2005	11	活動クローズアップ	「AKAYA型プロジェクト」を全国で企画するために。
489	2006	1	ナチュラリストになろう！ / 掲示板	掲示板 / リアルネイチャーキャンプ「赤谷の冬の生きものたち」参加者募集！
489	2006	1	活動クローズアップ	AKAYA / 人工林を自然林へ修復するプログラムへの企業の方の参画をお待ちしています。
489	2006	1	活動クローズアップ	AKAYA / 生物多様性が回復していく「赤谷の森」を一緒に体感してみませんか。
490	2006	3	活動クローズアップ	参加募集 / AKAYAの森の研修会案内
491	2006	5	ナチュラリストになろう！ / 赤谷の村の住人たち	たくみ小屋のムササビ
491	2006	5	活動クローズアップ	AKAYA / テンを指標とするモニタリングが進行中です。
492	2006	7	ナチュラリストになろう！ / 赤谷の村の住人たち	ノスリが子育てに選んだ場所
492	2006	7	活動クローズアップ	AKAYA / その場所を守るための行動を効果的に起こせるタイミングがあります。
493	2006	9	活動クローズアップ	AKAYA / 調査技術を磨く研修を経て「赤谷サポーター」が活躍されています。
493	2006	9	ナチュラリストになろう！ / 赤谷の村の住人たち	ホンドテンに聞く森の様子
494	2006	11	ナチュラリストになろう！ / 赤谷の村の住人たち	キノコが表す森の状態は？
494	2006	11	活動クローズアップ	AKAYAプロジェクト / 「溪流環境」を修復する実践モデルづくりが始まりました。
495	2007	1	ナチュラリストになろう！ / 赤谷の村の住人たち	ツキノワグマの暮らす森
495	2007	1	活動クローズアップ	案内 / AKAYAプロジェクト 企業CSR参画説明・相談会を開催します。
496	2007	3	ナチュラリストになろう！ / 赤谷の村の住人たち	姿なきノウサギの暮らしを知る
496	2007	3	活動クローズアップ	AKAYA / 地域の環境管理のためのモニタリング調査体制の構築方法。

497	2007	5	活動クローズアップ	群馬 / AKAYAプロジェクト・エリアで全国初の治山ダム撤去を行います。
498	2007	7	活動クローズアップ	群馬 / 「赤谷の森」に残る旧街道をフットパス網として活用します。
499	2007	9	活動クローズアップ	募集 / AKAYAプロジェクト「赤谷の森」に会員の皆さまをご案内するツアーを催行します。
501	2008	1	活動クローズアップ	AKAYA / 赤谷の森の植生復元を協働で進める体制を構築しています。
501	2008	1	活動クローズアップ	「赤谷の森」を体感するNACS-J会員ツアーを開催しました！
502	2008	3	特集 / 渓流環境の修復を考える	AKAYAプロジェクトの試みを応用性を高めて今後の治山事業に活かす(林野庁)
503	2008	5	活動クローズアップ	AKAYA / 今年度は「生物多様性復元のための植生管理の指針」と「自然誌活用システム」をつくります。
505	2008	9	活動クローズアップ	募集 / 環境教育にかかわる皆さん、関東ミーティング2008・AKAYAにご参加ください！
505	2008	9	活動クローズアップ	募集 / 「赤谷の森」を体感するNACS-J会員限定特別ツアーを行います！
506	2008	11	活動クローズアップ	AKAYA / 治山ダムの撤去に向け、流域の自然のモニタリングを行っています。
506	2008	11	活動クローズアップ	募集 / 「環境教育・関東ミーティング2008AKAYA」参加者募集中
507	2009	1	活動クローズアップ	報告 / 赤谷の森で、環境教育・関東ミーティング2008AKAYAを開催しました。
508	2009	3	活動クローズアップ	AKAYA / AKAYAプロジェクト5年間の取り組み 赤谷型協働管理のしくみを全国へ波及させたい。
510	2009	7	活動クローズアップ	赤谷の森の生物多様性を紹介する『赤谷ノート』ができました！
511	2009	9	活動クローズアップ	「赤谷の森」を体感するNACS-J会員ツアーを行います！
512	2009	11	活動クローズアップ	AKAYA / 渓流環境復元のための治山ダム撤去工事が始まりました。
514	2010	3	活動クローズアップ	AKAYA / 全国各地のイヌワシ調査方法の基準を示し、赤谷からモデルを提案する。
515	2010	5	活動クローズアップ	AKAYA / 成果を国有林の森林計画に反映させ、生物多様性保全型の森林計画へ転換します。
517	2010	9	活動クローズアップ	AKAYA / AKAYAプロジェクトエリアに体系的な自然林復元試験地を設定します。
518	2010	11	活動クローズアップ	赤谷基本構想パンフレットで地域との意見交換を進めています。
519	2011	1	くらしと自然のつながり再発見！	群馬県 赤谷の森
522	2011	7	活動クローズアップ	AKAYA / AKAYAプロジェクトは、新たな10年間の協定による活動を始めました。
525	2012	1	活動クローズアップ	赤谷の自然林復元実験を始め、100年調査を実施しました。
525	2012	1	活動クローズアップ	日本生態学会大会(滋賀県)でAKAYAプロジェクトの自由集会を行います。
526	2012	3	生物多様性の道プロジェクト	赤谷の森で「歴史的街道のハイキングマップ」づくりを始めました
528	2012	7	活動クローズアップ	赤谷の自然林復元100年モニタリング調査会にご参加ください！
529	2012	9	活動クローズアップ	地域の魅力を見える化する「マップづくり」

関東森林管理局広報誌への掲載記事一覧表

号	年	月	表題	内容
1	16	4	三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画(通称「赤谷プロジェクト」)がスタート	・赤谷プロジェクトの取組の説明(森林施業等・動植物のモニタリング調査・森林環境教育等)
6	16	9	赤谷プロジェクト近況報告	・2004年度第1回企画運営会議・活動拠点の整備を開始・地域説明会の開催
7	16	10	赤谷プロジェクト近況報告(第2弾)	・植生WG第1回会合を開催・写真コラム「赤谷の森から」の連載スタート!
8	16	11	赤谷プロジェクト近況報告(第3弾)	・「いきもの村」での活動本格化!・「自然観察指導員に学ぶ」
9	16	12	赤谷プロジェクト近況報告	・11月の「いきもの村」・モニタリング検討委員会現地調査を実施・研究者グループ「赤谷の日」を視察
10	17	1	赤谷プロジェクト近況報告	・12月の「赤谷の日」・全国森林環境保全ふれあいセンター担当者、「赤谷の森」に集合
11	17	2	赤谷プロジェクト近況報告	・新春の「赤谷の日」・「いきもの村」での活動成果
12	17	3	猛禽類との共生を目指す取組 ～生物多様性の保全に向けて～	・指針作成に向けた調査と知見の蓄積・希少野生動植物の生息・生育を守るための委員会の設置・研究機関、自然保護団体等との連携
			赤谷プロジェクト近況報告	・プロジェクトの成果(サポーターの獲得・2月の「赤谷の日」・「環境教育ミーティング」への参画)
13	17	4	赤谷プロジェクト近況報告	・プロジェクトの成果(合意形成手法の確立・猛禽類などの生態の把握・研究者の関心の獲得)・3月の「赤谷の日」・2004年度第2回企画運営会議を開催・写真コラム「赤谷の森から」連載終了
14	17	5	赤谷プロジェクト近況報告	・平成17年度のプロジェクトエリア内における森林施業予定地で現地検討会を開催・4月の「赤谷の日」
15	17	6	赤谷プロジェクト近況報告	・春を迎えた「赤谷の森」・いきもの村のお披露目会の開催
16	17	7	赤谷プロジェクト近況報告	・小学生が体験した環境教育・中学生が体験した環境教育
17	17	8	赤谷プロジェクト近況報告	・様々な調査活動が本格化!・赤谷の日(テン糞隊)
18	17	9	赤谷プロジェクト近況報告	・2005年度・前期企画運営会議を開催・赤谷の森で「森林生態系スペシャリスト養成研修」を実施
19	17	10	森の価値を伝えて広めていける、新しい動き～企業のCSR活動との連動～	・CSRと生物多様性保全・現在の日本企業の認識・赤谷プロジェクトにおけるCSR・生物多様性保全をめざしたCSR活動と国有林
			赤谷プロジェクト近況報告	・猛禽類モニタリングWG 2005年度第1回会合の開催
20	17	11	赤谷プロジェクト近況報告	・茂倉沢治山事業全体計画調査
21	17	12	赤谷プロジェクト近況報告	・プロジェクトの相乗効果・高校生が「いきもの村」に
25	18	4	赤谷プロジェクト2005年度・後期企画運営会議を開催	・後期 企画運営会議を開催
			赤谷プロジェクト近況報告	・千葉市の中学校教員が「いきもの村」で環境教育の模擬体験
27	18	6	赤谷プロジェクト近況報告	・「赤谷の日」での炭焼きを紹介
28	18	7	赤谷プロジェクト近況報告	・「自然環境モニタリング会議・植生WG合同現地視察」を開催・6月の「赤谷の日」
29	18	8	赤谷プロジェクト近況報告	・高校生への環境教育・植生WGによるプロット調査の実施
30	18	9	赤谷プロジェクト近況報告	・赤谷の森で「森林生態系スペシャリスト養成研修」を実施
31	18	10	赤谷プロジェクト近況報告	・平成18年 第1回企画運営会議を開催・小中学生への環境教育の実施
32	18	11	赤谷プロジェクト近況報告	・植生調査について
33	18	12	赤谷プロジェクト近況報告	・「赤谷の森」の自然散策会を開催・赤谷プロジェクトを多くの方々に見て頂きました
34	19	1	赤谷プロジェクト近況報告	・第2回溪流環境復元WGが開催されました・林野庁業務研究発表で発表してきました
35	19	2	赤谷プロジェクト近況報告	・地域の方々との猛禽類調査
36	19	3	赤谷プロジェクト近況報告	・梶谷国有林野部長の視察がありました・関東森林管理局業務研究発表会で発表してきました
37	19	4	赤谷プロジェクト19年度の取組み	・プロジェクトの枠組み・具体的な活動
38	19	5	赤谷プロジェクト近況報告	・「赤谷の森」にモリゾーキッコロがやってきた・さわやか自然百景・お知らせ(自然散策)
39	19	6	赤谷プロジェクト近況報告	・溪流環境復元WG
40	19	7	赤谷プロジェクト近況報告	・赤谷の森の自然散策を実施・「赤谷の森」で森林ふれあい実務研修を開催
41	19	8	赤谷プロジェクト近況報告	・「第1回 赤谷の森フォーラム」を開催・植生WG、溪流環境復元WGの現地検討会を開催・利根実業高校生に対する環境教育を実施
42	19	9	赤谷プロジェクト近況報告	・ムササビの生活・ムササビはプロジェクトの協力者
43	19	10	赤谷プロジェクト近況報告	・「第1回ムタコの日」が開催されました・千葉森林管理事務所との連携・森林生態系スペシャリスト養成研修の実施
44	19	11	赤谷プロジェクト近況報告	・企画運営会議の開催・日本イヌワシ研究会 合同調査への協力・地元小学生への環境教育
45	19	12	赤谷プロジェクト近況報告	・赤谷プロジェクトを支えるもう一つの力 サポーターの取組について・赤谷の森の自然散策について
46	19	1	赤谷プロジェクト近況報告	・JICA海外研修「持続可能な森林経営の実践活動促進 研修」・パナマ国別研修「保護区管理」コース研修・「アマゾン群馬の森」JICA草の根技術協力事業研修
47	20	2	赤谷プロジェクト近況報告	・なぜホンドテン?・ホンドテンのモニタリング調査

関東森林管理局広報誌への掲載記事一覧表

号	年	月	表題	内容
48	20	3	赤谷プロジェクト近況報告	・センサーカメラを活用した取組について・赤谷の森の自然散策(冬版)の開催について
49	20	4	赤谷プロジェクト近況報告	・プロジェクト5年目の貼りが始まります・情報発信活動について(「赤谷の森だより」の発行・パンフレットの作成・マスメディアへの情報提供・HPの更新・「関東の森林から」の定期的な近況報告)
特集号	20	4	赤谷プロジェクト	・事例
50	20	5	赤谷プロジェクト近況報告	・モリゾーとキッコロが「赤谷の森林」にやってきた・4月の「赤谷の日」
51	20	6	赤谷プロジェクト近況報告	・(独)森林総合研究所による植生調査・「コリドー現地検討会2008in赤谷」の開催
52	20	7	赤谷プロジェクト近況報告	・放送大学面接授業・千葉市中学生への環境教育の実施
53	20	8	赤谷プロジェクト近況報告	・森林ふれあい実務研修の実施・ほ乳類モニタリングWGの開催・南ヶ谷湿地の調査
54	20	9	赤谷プロジェクト近況報告	・環境教育関東ミーティングについて・「第3回ムタコの日」の開催
55	20	10	赤谷プロジェクト近況報告	・林野庁長官赤谷プロジェクト視察・森林生態系スペシャリスト養成研修
56	20	11	赤谷プロジェクト近況報告	・JICA海外技術研修生の受け入れ・環境教育ワーキンググループ会議の開催・平成20年度 第1回企画運営会議の開催
57	20	12	赤谷プロジェクト近況報告	・「赤谷の森」で自然散策・地元小学生に森林環境教育
58	21	1	赤谷プロジェクト近況報告	・「環境教育・関東ミーティング2008・AKAYA」の開催
59	21	2	赤谷プロジェクト近況報告	・「赤谷の日」の炭焼き・千葉森林管理事務所との連携・自然環境モニタリング会議の開催
60	21	3	赤谷プロジェクト近況報告	・「モリゾー・キッコロ『森へ行こうよ!』」の撮影・「ニッセイ緑の環境講座」で赤谷プロジェクトの取組を講義・猛禽類モニタリングワーキングの開催
61	21	4	赤谷プロジェクト近況報告	・自然環境モニタリング会議・企画運営会議の開催・環境教育への取組(新治小での環境教育の実施・「赤谷の森」自然散策会の開催・新治中の総合学習への協力・高原干葉村自然教室指導者講習会の開催)
62	21	5	赤谷プロジェクト近況報告	・養成研修専攻科(第48期)へ講義・「赤谷の日」の活動
63	21	6	赤谷プロジェクト近況報告	・水生昆虫談話会メンバーの来訪・放送大学の面接授業・新治中学校総合学習への協力
64	21	7	赤谷プロジェクト近況報告	・千葉市中学校への環境教育の実施・「赤谷の森自然散策」の開催
65	21	8	赤谷プロジェクト近況報告	・ムタコ沢の水源かん養機能について・高校生への森林環境教育・植生管理の指針づくり
66	21	9	赤谷プロジェクト近況報告	・レッツ!サマースクールでの森林環境教育・「ムタコの日」で住民参加の森づくり
67	21	10	赤谷プロジェクト近況報告	・茂倉沢治山事業現地取材について・府中市緑の活動推進委員研修会・水生昆虫観察会の開催
68	21	11	赤谷プロジェクト近況報告	・猛禽類調査について・自然環境モニタリング会議の開催・JICA海外研修生の受け入れ
69	21	12	赤谷プロジェクト近況報告	・JICA国別研修・インド環境森林省・茂倉沢治山事業・現地説明会の開催
70	22	1	赤谷プロジェクト近況報告	・南ヶ谷湿地の堆積物調査・企画運営会議の開催・「赤谷の森を語る会」の開催
71	22	2	赤谷プロジェクト近況報告	・1月の「赤谷の日」活動・植生管理ワーキンググループ
72	22	3	赤谷プロジェクト近況報告	・現代都市文化研究会の視察・「赤谷の森自然散策」を開催・環境教育ワーキンググループの取組
73	22	4	赤谷の森から	・地元小学校で環境教育・自然教室指導講習会を開催・第2回企画運営会議の開催
75	22	6	赤谷の森から	・4月の「赤谷の日」の活動・「ムタコの日」実行委員会の開催
77	22	8	赤谷の森から	・赤谷の森自然散策を開催・地域の高校生への森林環境教育・植生管理ワーキンググループ現地検討会
79	22	10	赤谷の森から	・地域の小学生に森林環境教育・「ムタコの日」における森林整備活動
81	22	12	赤谷の森から	・森林生物多様性見学会・秋の自然散策
83	23	2	赤谷の森から	・ヤマビルの被害軽減に向け赤谷の森で落ち葉掃き・環境教育WGプログラム作成に向け現地検討会を実施
85	23	4	赤谷の森から	・赤谷プロジェクトの軌跡 第1回(プロジェクトの発足)[生物多様性の復元と持続的な地域づくり・協働三者のプロジェクトへの期待]
88	23	7	赤谷の森から	・赤谷プロジェクトの軌跡 第2回(プロジェクトの仕組)[主な取組の紹介(自然林回復試験)]
91	23	10	赤谷の森から	・赤谷プロジェクトの軌跡 第3回(主な取組)[溪流環境の復元(治山ダム中央部撤去)・猛禽類のモニタリング・赤谷の日・サポーター・環境教育・視察]
94	24	1	赤谷の森から	・赤谷プロジェクトの軌跡 第4回(赤谷の森管理経営計画書)[計画作成当初より協定3者が参加・生物多様性の保全と木材生産の両立を目指した森林の取り扱いを記載・順応的管理について明記]
97	24	4	赤谷の森から	・赤谷の森のモニタリング活動 第1回(自然林復元試験地)[これまでの試験でわかったこと・新しい伐採試験地]・赤谷の森自然散策の実施
100	24	7	赤谷の森から	・赤谷の森のモニタリング活動 第2回(イヌワシとクマタカ)[風の精 イヌワシ・森の精 クマタカ]・赤谷の森自然散策の実施
103	24	10	赤谷の森から	・赤谷の森のモニタリング活動 第3回(ホンドテン)[テンの視点で森を見る・ボランティアで調査・今までに分かったこと]・「環境教育研修講座」が赤谷の森で行われ
106	25	1	赤谷の森から	・赤谷の森のモニタリング活動 第4回(溪流環境復元WGの取組)[溪流環境とは・溪流環境の調査・溪流環境の調査を行って]・ブラジルからのお客様

新聞・雑誌等掲載記事一覧

平成15年度(2003) 掲載記事一覧		
15・8・29	上毛	国有林経営 新システム
15・9・11	読売	改めます 伐採一辺倒
15・9・13	読売	国有林共同管理
16・1・10	朝日	森づくり共闘
16・3・31	朝日	21世紀型林業国有林で模索
16・3・31	上毛	新治の赤谷川溪流 行政・地域・保護団体が協定
16・3・31	産経	国有林 復元推進へ協定
平成16年度(2004) 掲載記事一覧		
16・4・6	日刊木材	センターの設置で環境保全ヘシフト
16・4・14	毎日	赤谷川の生物多様性復元計画
16・4・24	読売	寸評「共同管理」
16・4・28	群建	赤谷プロジェクトが始動
16・5・6	日本農業新聞	住民と国有林管理
16・5・9	官庁速報	国有林を地元住民と共同管理
16・7・16	上毛	子供達に里山体験を
16・8・2	読売	森の再生「民・官・NGO」共同で探る
16・9・11	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 1
16・9・18	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 2
16・9・25	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 3
16・10・2	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 4
16・10・6	上毛	理想の森へ前線基地
16・10・9	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 5
16・10・16	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 6
16・10・23	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 7
16・10・30	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 8
16・11・6	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 9
16・11・13	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 10
16・11・20	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 11
16・11・27	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 12
16・12・4	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 13
16・12・11	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 14
16・12・18	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 15
16・12・25	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 16
17・1・8	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 17
17・1・15	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 18
17・1・22	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 19
17・1・29	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 20
17・2・5	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 21
17・2・12	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 22
17・2・19	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 23
17・2・26	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 24
17・3・5	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 25
17・3・12	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 26
17・3・19	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 27
17・3・26	読売	ほっとサイエンス 赤谷の森から 28
17・3	林野時報	3月号

平成17年度(2005) 掲載記事一覧		
17・5・15	上毛	活動拠点お披露目
17・7・9	読売	「赤谷の森」目標一歩づつ
17・冬	森	冬号
18・3・18	読売	ブンから読み取る物語
平成18年度(2006) 掲載記事一覧		
18・5・8	読売	自然との共生学ぶ
18・6・5~9	読売	赤谷のクマ
18・6・26	読売	スギ山を自然林に戻す
18・7・15	上毛	利根実高生 生物多様性の復元学ぶ
18・9・2	上毛	自然と地域社会勉強 猿ヶ京児童
19・2・24	毎日	治山ダム部分撤去
19・3・8	日経エコロジー	4月号 身近な自然保護へ活動をシフト 老舗が挑む国や住民との共同
平成19年度(2007) 掲載記事一覧		
19・4・2	毎日	治山ダム流れ緩める
19・5・8	上毛	赤谷の森 自然散策募集記事
19・5・12	読売	赤谷の森 自然散策募集記事
19・5・27	日経	森の生態系を守る(豊かな水辺 再生の試み)
19・5・31	上毛	赤谷自然散策
19・5・28 ~6・1	読売	赤谷のクマ(1)~(5)
19・6・26	上毛	赤谷の森フォーラム 募集記事
19・6・29	読売	赤谷の森フォーラム 募集記事
19・7・1	上毛	環境教室(沼田市・利根実)
19・7・9	上毛	赤谷の森フォーラム
19・7	みなかみ町広報	募集記事
19・8・4	上毛	三国街道 フットバス化 第1回フットバスのワークショップ
19・8・27	読売	ダム撤去 豊かな森再び
19・8・28	上毛	森林と水との関係学ぶ 住民ら除伐作業体験
19・8・29	日経産業新聞	自然「再生」の実験
19・9・11	上毛	森の動植物歩いて観察 いきもの村体験(千葉市・稲毛中学校)
19・10・13	上毛	生態学び森林散策 (みなかみ町・猿ヶ京小学校)
19・10・30	読売	治山ダム撤去 共同で森再生
19・11・2	上毛	赤谷の森自然散策
19・12・19	読売	赤谷プロジェクト サポーター募集
20・1・15	上毛	第4回 フットバスのワークショップ
20・1・17	上毛	赤谷の森 自然散策募集記事
20・1・26	読売	赤谷の森 自然散策募集記事
20・2・18	上毛	環境教育セミナー
20・3・26	上毛	「赤谷の森」で自然学ぶ 千葉市の教諭30人が間伐

平成20年度(2008) 掲載記事一覧		
20・3	Fly Fisher	3月号 林野庁管理下で初のダム撤去計画
20・4・16	上毛	赤谷プロジェクト パンフレット
20・5・5	上毛	赤谷の森 自然散策募集記事
20・5・10	読売	環境教育 小出侯募集記事
20・5・22	上毛	生物多様性の復元学ぶ 赤谷の森で放送大学
20・6・2	読売	木の上の'棚'クマの食堂
20・6・15	上毛	赤谷プロジェクトを学ぶ 環境社会学会
20・6・15	上毛	クマ、リスの生態観察(千葉市白井中)
20・6・24	読売	イヌワシに聞く自然再生 1.協働
20・6・25	読売	テンのフン 環境の縮図 2.宝物
20・6・26	読売	自然考える素晴らしい舞台 3.教育
20・6・27	読売	自然林再生 クマと住み分け 4.共生
20・6・28	読売	エコと観光 豊かな国有林 5.課題
20・6・28	東京	群馬の国有林「赤谷の森」
20・8・15	上毛	ムタコ沢の自然学ぶ 第3回ムタコの日
20・9・9	上毛	野鳥観察で環境学習(沼田市・利根実)
20・10・9	上毛	赤谷の森 プロジェクト
20・10・25	上毛	赤谷の森 自然散策
20・11	のんびる	11月号 第4回 ムタコの日 募集記事
20・11	広報みなかみ	11月号 第4回 ムタコの日 募集記事
20・11・2	朝日	溪流よ再び ダム撤去
20・11・16	上毛	ダムくぬぎ溪流復活
20・11・30	上毛	環境教育・関東ミーティング2008AKAYA エコツアーリズム学ぶ
20・12・17	林政ニュース	第355号 みなかみ町で環境教育ミーティング
21・1・9	NIKKEI ONSTRUCTION	2009.1.9 "撤去"に踏み込む自然共生
21・1・10	上州(放送大学群馬)	第30号 生物多様性保全と国有林管理
21・2・3	上毛	赤谷の森 自然散策 募集記事
21・2・6	群馬よみうり	赤谷の森 自然散策 募集記事
21・2・13	上毛	みなかみ・新治小で環境教育会
21・2・19	上毛	冬芽の観察学ぶ みなかみ町で環境教育会
21・3	森林レクイエーション	'国民の森林'としての国有林の取組 環境教育・関東ミーティング2008AKAYA
21・2・3	地球のこども	2・3月号 ニッセイ緑の環境講座 「森林環境教育を学ぶ」シリーズ
21・2・3	地球のこども	2・3月号 第5回環境教育・関東ミーティング 2008AKAYA
21・3・15	上毛	みなかみ町・新治中で環境教室
21・3・19	上毛	豊かな自然知って 中学教諭に講習会(高原千葉村)
平成21年度(2009) 掲載記事一覧		
21・5・8	群馬よみうり	赤谷の森 自然散策 募集記事
21・5・13	上毛	赤谷の森 自然散策 募集記事
21・5・22	上毛	生物の多様性学ぶ 放送大学赤谷の森で授業
21・5・24	読売	次世代へ大切な自然つなぐ 赤谷プロジェクトサポーター(小鮎氏)
21・5・24	上毛	みなかみ町・新治中 環境教育
21・6・2	上毛	赤谷の森 自然散策
21・6・8	上毛	子供の環境意識育成を(地域協議会 長浜氏)
21・6・21	上毛	沼田市・利根実 環境教育
21・7・10	上毛	赤谷の森で自然体験を(ムタコの日)
21・7	土木学会誌	7月号 協働による溪流環境の復元の試み
21・8・1	朝日	森の機能を学び地域交流の集い(ムタコの日)

平成21年度(2009) 掲載記事一覧		
21・8・6	上毛	ムタコ沢の自然を知って(ムタコの日)
21・8・10	上毛	自然の中で環境教育(みなかみ町・新治小)
21・8	リバーポリシーネットワーク	Vol.7 赤谷プロジェクトにおける治山ダム撤去計画と科学的取り組み
21・8・25	上毛	新治の国有林で水生昆虫観察を(ムタコの日)
21・9・3	上毛	防災と環境両立へ(治山ダム)
21・9・5	毎日	治山ダム撤去始まる
21・9・15	上毛	親子で水生昆虫採集(ムタコの日)
21・9・30	PJ news	治山ダムを撤去し、自然の姿回復へ=群馬・茂倉沢で全国初の試み
21・10	現代林業	10月号 森林と水 第20回
21・10	林政ニュース	第373号 群馬県「赤谷の森」で治山ダム撤去を開始
21・10・24	上毛	みなかみ町・新治小 野生動物観察にカメラ
21・10・27	毎日	治山'2号ダム、撤去作業が本格化 茂倉沢
21・10・27	YAHOO	ダム撤去、自然回復へ…群馬・みなかみで工事開始
21・10・27	朝日	溪流再生めざしダム撤去始まる
21・10・27	朝日	自然再生試み注目 治山ダム撤去開始
21・10・28	読売	ダム撤去、自然回復へ みなかみ・茂倉沢で工事開始
21・11・6	上毛	オピニオン21 新委員抱負(赤谷センター所長)
21・11・11	上毛	清流と防災 共存へ改修 みなかみの治山ダム
21・11・11	読売	撤去中のダム公開
21・11・11	毎日	治山ダム撤去説明会
21・11・11	朝日	治山ダム撤去を公開
21・11	週刊プレイボーイ	11/30号 自然のために、壊すダムあり
21・11・25	上毛	オピニオン21 官民協働で森づくりを(赤谷センター所長)
21・11・26	朝日	消えたイヌワシ 人間にも価値高い息環境
21・11・20	週刊金曜日	776号 日本初 群馬・みなかみ町で治山ダムを撤去
21・11・29	産経	保護活動で知った自然の豊かさ(法師温泉岡村さん)
21・12・9	林政ニュース	第378号 ルボ 初の治山ダム撤去完了、「赤谷プロジェクト」の成果
21・12・10	しんぶん赤旗	治山ダムの一部撤去
21・12・19	TORNUS(旅ジャーナル)	16 観光と自然保護の共生は可能か。群馬県の「赤谷プロジェクト」を例題にして考える
22・1・1	毎日	森 回復に挑む先進地
22・1・22	上毛	オピニオン21 視点(赤谷センター所長)
22・1・29	上毛	自然観察で環境教育(2/14赤谷の森自然散策)
22・1・30	東京	生態系保護へ 小規模ダム撤去
22・2・3	マイECO	2月・3月号 vol.13 住民、自然保護協会、林野庁が協働で森づくり
22・2・19	上毛	樹木の特徴や見分け方学(2/14赤谷の森自然散策)
22・3・8	上毛	野生動物の生態紹介 みなかみ町・新治小学校
22・3・18	上毛	オピニオン21 視点(赤谷センター所長)
22・3・19	上毛	中学教諭ら 自然学ぶ 千葉の19人が講習
22・3	道21世紀新聞	「赤谷プロジェクト」持続的な地域作り目指し
平成22年度(2010) 掲載記事一覧		
22・4・16	読売	森の生態カルタで学ぼう
22・春・夏	Think the Earth Paper	vol.6 ダムを壊すという初めての選択(治山ダム撤去)
22・5・4	上毛	「赤谷の森」を散策しませんか(募集記事)
22・5・7	上毛	「赤谷の森」整備 住民参加で計画策定
22・5・15	上毛	オピニオン21(前・赤谷センター所長)
22・5	上州(放送大学群馬)	第36号 面接授業「生物多様性保全と国有林野管理」の現地案内からのメッセージ
22・5	Rinya	38 赤谷プロジェクト生物多様性復元を目指す協働・連携の取組

平成22年度(2010) 掲載記事一覧		
22・5・31	上毛	赤谷の森観察や環境管理など学ぶ(放送大面接授業)
22・7・8	上毛	動植物の生態を14人歩いて学ぶ みなかみ「赤谷の森」
22・7・15	上毛	オピニオン21 (前・赤谷センター所長)
22・7・30	建設通信新聞	地域、環境、動物との共生ダム中央部撤去を決断
22・8・17	上毛	カラマツの間伐体験 みなかみ ムタコ沢に35人
22・8・25	日経	生物多様性を学ぶ
22・8・30	上毛	オピニオン21 (前・赤谷センター所長)
22・9・25	上毛	守るのは今 生物多様性に向けて 5(赤谷の森)
22・10・8	朝日	治山ダム撤去後1年たち見学会
22・10・13	上毛	生物多様性へ理解を「赤谷の森」プロジェクト 企業担当者ら成果見学
22・10・16	日経	群馬のブランド 赤谷の森(みなかみ町) 生物多様性復元と地域づくりを進める
22・10・23	上毛	森林の性質学ぶ (ムタコの日)
22・10・24	上毛	オピニオン21 (前・赤谷センター所長)
22・11・2	上毛	林道歩き植生学ぶ みなかみ(赤谷の森自然散策) 11/3訂正
22・11・4	上毛	山を下りる動物
22・11	治山林道広報	2010.11 vol.3 赤谷の森と機械化センターで現地研修会(治山ダム部分撤去)
22・12	リバーポリシーネットワーク	vol.8 赤谷プロジェクト視察 2009～2010
22・第63回	九州弁護士会連合会	定期大会 報告書 他の地域での生物多様性保全の取り組み
23・1・1	毎日	森・回復に挑む先進地
23・1・19	上毛	冬の森、動物学ぼう(募集記事)
23・1・31	読売	広葉樹林 自然に復元
23・2・1	上毛	2000ヘクタール 天然林に転換
23・2・1	毎日	「赤谷の森」5カ年計画案
23・2・1	朝日	森 自然の力で再生
23・2・2	上毛	三山春秋
23・2・20	日経	脱ダムで森林再生モデルに
23・2・21	上毛	樹木の冬芽 観察(赤谷の森自然散策)
23・2・21	朝日	春にはほころぶ 冬芽の観察(赤谷の森自然散策)
23・2・28	上毛	参加促す取り組みを
平成23年度(2011) 掲載記事一覧		
23・4・5	上毛	赤谷プロジェクトで考えよう(募集記事)
23・4・14	上毛	森林保全活動 参加を (くま緑のインタープリター協会)
23・5・11	上毛	赤谷の森で自然観察会(募集記事)
23・5・30	上毛	生物の多様性学ぶ(放送大学)
23・7	トランヴェール7月号	赤谷、新時代の森を歩く
23・7・4	上毛	自然林復元に参加を みなかみ「赤谷の森」16、17日に調査会(日本自然保護協会)
23・7	広報みなかみ	7月 69 赤谷プロジェクトをご存じですか?
23・7・18	上毛	自然林の復元学ぶ みなかみ 赤谷の森 植生調査の基本実習
23・10・4	上毛	ガイドと共に 赤谷の森散策(募集記事)
23・12・21	上毛	オピニオン21 (長島成和さん) 中国緑化報告
24・1・13	上毛	「赤谷の森」で自然観察会(募集記事)
24・2・25	上毛	赤谷の森 自然観察会 動物の足跡を観察
24・2・26	読売	「赤谷プロジェクト」登場 群馬大

平成24年度(2012) 掲載記事一覧		
24・5・6	上毛	新緑楽しみ動植物観察(赤谷の森 自然散策・募集記事)
24・6・4	毎日	地元から地域の魅力発見 群馬「赤谷の森」
24・6・22	上毛	赤谷の森の環境学ぶ みなかみで自然散策(赤谷の森 自然散策)
24・8・24	上毛	ダム潜入 秘密分かった 本県と東京の親子 水の「ふるさと」体験
24・10・7	上毛	紅葉の林道散策 (赤谷の森自然散策 募集)
24・10・11	上毛	玉原の自然守れ 沼田 外来植物の防除作業
24・10・19	上毛	サルの群れ追跡 みなかみ 電気柵や桑畑観察
24・10・31	上毛	自然林復元を見学 みなかみ 赤谷の森
24・11・27	上毛	林道散策で動植物学ぶ(赤谷の森自然散策)
25・1・5	上毛	豊かな生態系 守って活用を
25・1・16	上毛	ラムサール条約 登録へ本格調査 (新年度から中之条町 15年目指し準備)
25・1・25	上毛	「赤谷の森」活動報告会 (H25年1月27日)
25・1・29	上毛	赤谷の森守ろう (「赤谷の森」活動報告会)
25・1・29	朝日	シカ食害「対策を」 みなかみ 赤谷の森巡り報告
25・1・31	上毛	「赤谷の森」で観察会(募集)
25・3号	山と溪谷	赤谷プロジェクトを支える人々 水源「赤谷の森」を守る
25・2・22	上毛	冬芽の観察方法 森林散策し学ぶ

赤谷プロジェクトに関する報告書等

資 - 18

年度	報告書タイトル	受託者	備考
平成16年度	緑の回廊モニタリング調査	(財)日本自然保護協会	
	赤谷プロジェクト自然環境モニタリング基本方針		
平成17年度	赤谷プロジェクト緑の回廊モニタリング調査	(財)日本自然保護協会	
	三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画(赤谷プロジェクト)自然環境モニタリング「緑の回廊」のモニタリング手法研究		
平成18年度	赤谷プロジェクト緑の回廊モニタリング調査	(財)日本自然保護協会	
	三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画(赤谷プロジェクト)自然環境モニタリング「緑の回廊」のモニタリング手法研究		
年度	報告書タイトル	受託者	備考
平成16年度	自然再生推進モデル事業報告書	(財)日本自然保護協会	
	赤谷プロジェクト自然環境モニタリング予備調査		
平成17年度	自然再生推進モデル事業報告書	(財)日本自然保護協会	
	三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画(赤谷プロジェクト)自然環境モニタリング 体制整備と試行開始		
平成18年度	自然再生推進モデル事業報告書	(財)日本自然保護協会	
	三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画(赤谷プロジェクト)自然環境モニタリング 活動成果蓄積システムの構築		
平成19年度	自然再生推進モデル事業報告書	(財)日本自然保護協会	
	三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画(赤谷プロジェクト)		
平成20年度	三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画(赤谷プロジェクト)推進事業報告書	(財)日本自然保護協会	
平成21年度	三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画(赤谷プロジェクト)推進事業報告書	(財)日本自然保護協会	
平成22年度	三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画(赤谷プロジェクト)推進事業報告書	(財)日本自然保護協会	
平成23年度	三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画(赤谷プロジェクト)推進事業報告書	(財)日本自然保護協会	
平成24年度	三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画(赤谷プロジェクト)推進事業報告書	(財)日本自然保護協会	

年度	報告書タイトル	受託者	備考
平成17年度	新治地区茂倉沢治山事業全体計画作成調査 調査報告書(平成18年3月)	(財)林業土木コンサルタンツ	
平成18年度	新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査 調査報告書(平成19年3月)	(財)林業土木コンサルタンツ	
平成18年度	新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査 調査報告書(平成19年3月) 別冊(委員会議事録)	(財)林業土木コンサルタンツ	
平成19年度	新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査 調査報告書(平成19年12月)	(財)林業土木コンサルタンツ	
平成19年度	新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査 調査報告書(平成19年12月) 別冊(委員会議事録)	(財)林業土木コンサルタンツ	
平成20年度	平成20年度 新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査 報告書(平成21年3月)(調査計画編)	国土防災技術(株)	
平成21年度	平成21年度 新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査 報告書(平成22年3月)	応用地質(株)	
平成21年度	平成21年度 新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査 調査報告書(平成22年3月) 別冊(委員会議事録)	応用地質(株)	
平成22年度	平成22年度 新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査(平成23年3月) 報告書	応用地質(株)	
平成23年度	平成23年度 新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調査 報告書 群馬県利根郡みなかみ町相保三国峰国有林225林班外	国土防災技術(株)	

年度	報告書タイトル	執筆者等	備考
平成5年度	三国高原猿ヶ京森林空間総合利用整備事業に係る森林施策等への影響調査報告書(平成5年6月)	(株)コクド (社)日本林業技術協会	
平成19年	溪流生態系の保全に資する治山事業のモデル的实施について		関東森林管理局 作成
平成22年度	赤谷プロジェクト 赤谷の森・基本構想(2010年3月) ～生物多様性と社会の持続のために、森のあるべき姿をとれどもす～		赤谷プロジェクト 作成
平成23年度	平成23年度 赤谷プロジェクトエリア内の歩道調査事業報告書	(株)緑化技研	
平成23年度	南ヶ谷湿地保全管理計画 2011		赤谷プロジェクト 作成
平成24年度	溪流環境の復元を目的に加えた治山事業の計画と施工 - 茂倉沢における試み -	高橋剛一郎 井口英道	砂防学会誌 Vol.64, No5

自然環境モニタリング会議及び各WG活動の研究論文・研究発表 等

資-19

< 自然環境モニタリング会議 >

年月	雑誌名/会合名 等	タイトル	執筆者/発表者
2012/3	日本生態学会第 59 回, 大津-自由集会 (3/17)	官民協働による新しい国有林管理～生物多様性復元と持続的な地域づくりを目指した「赤谷プロジェクト」8年間の成果と今後の課題～趣旨説明: 「赤谷プロジェクト」国有林管理のための意思決定・官民協働の枠組み	亀山章
2012/3	日本生態学会第 59 回, 大津-自由集会 (3/17)	赤谷の森の植生の現状評価と森林管理への反映	長池卓男
2012/3	日本生態学会第 59 回, 大津-自由集会 (3/17)	イヌワシ・クマタカを指標とした生態系評価と、森林管理への反映	山崎亨
2012/3	日本生態学会第 59 回, 大津-自由集会 (3/17)	ほ乳類を指標とした生態系評価	藤田卓

< 植生管理WG >

年月	雑誌名/会合名 等	タイトル	執筆者/発表者
2012	Forest Ecology and Management 283(1):48-55	Interactive influences of distance from seed source and management practices on tree species composition in conifer plantations	Takuo Nagaike, Taku Fujita, Seiichi Dejima, Tsunehide Chino, Seiji Matsuzaki, Yoichiro Takanose, Kazuaki Takahashi
2011	Forest Ecology and Management 262(7):1280-1288	Effects of management, environment and landscape conditions on establishment of hardwood seedlings and saplings in central Japanese coniferous plantations.	Hirata, A., Sakai, T., Takahashi, K., Sato, T., Tanouchi, H., Sugita, H. & Tanaka, H.
2010/3	第 121 回日本森林学会大会	関東の針葉樹人工造林地における伐採方法が広葉樹天然更新に及ぼす影響	塚田夢人 他
2010/3	東京農工大学修士論文	* 自然林復元試験地(カラマツ林)における伐採実験	塚田夢人
2009/3	東京農業大学卒業論文	スギ人工林に天然更新した広葉樹の種組成に保残帯からの距離と土地利用前歴が及ぼす影響	井上歩
2012/6	現代林業(552):38-42	お役に立ちます!最新研究紹介 冷温帯におけるスギ人工林皆伐後の森林更新: 埋上種子の樹種構成	酒井武、高橋和規、杉田久志
2011/3	東京農業大学卒業論文	スギ人工林に天然更新した広葉樹の成長パターン	小川智也
2012/10	第 2 回関東森林学会大会口頭発表	スギ人工林に天然更新した広葉樹の成長パターン	小川智也
2013/3	第 124 回日本森林学会大会ポスター発表	カラマツ人工林内において天然更新した広葉樹の更新時期および成長過程	小川智也
2008/3	東京農工大学卒業論文	人工林の伐採跡地の植生回復に関する研究	田中裕 卒論

< 猛禽類WG >

年月	雑誌名/会合名等	タイトル	執筆者/発表者
2008/9	日本鳥学会・自由集会(9/13)	イヌワシ・クマタカを象徴とした森林生態系の保管理：赤谷プロジェクトの紹介と最近の繁殖状況、森林整備との関係	辻村千尋 他

< ほ乳類WG >

年月	雑誌名/大会名等	タイトル	執筆者/発表者
2012/11	群馬県立自然史博物館研究報告(16): 131-144	群馬県みなかみ町のコウモリ類	佐々木尚子、三笠暁子、福井 大、吉倉智子、水野昌彦、今井英夫、大沢啓子、大沢夕志、佐藤顕義、野口郊美、本多宣仁、峰下耕、藤田卓、出島誠一
2007/5	日本生態学会九州支部(地区)大会	夏緑林におけるテンの食性の地域差～北部九州と関東周辺～	足立高行・荒井秋晴・桑原佳子
2008	「水源地生態研究会議 森林生態研究委員会」10周年記念報告	森林環境評価のための指標種としてのテン <i>Martes melampus</i> の役割	荒井秋晴・足立高行・桑原佳子他.
2012	SADO環境科学研究所報告	佐渡トキ野生復帰ステーション周辺におけるテン及びホンドイタチの糞分析による採餌傾向の解析	足立高行・桑原佳子・川上藍・後藤唯
2011/9	日本ほ乳類学会大会	群馬県赤谷地域におけるホンドテンの生息地選択～主要な餌植物の分布との関連性～	星野莉紗、藤田卓、足立高行、金子弥生
2012/3	日本生態学会第59回, 大津	The circadian activity pattern of sympatric forest mammals in central Japan	Hoshino, L., Fujita, T., Kaneko, K.
2008/3	東京農工大学卒業論文	野生動物の空間利用における林分構造・景観構造の関係	渡辺晶

< 溪流環境復元WG >

年月	雑誌名/大会名等	タイトル	執筆者/発表者
2011/3	プロ・ナトゥーラ・ファンド第16期助成成果報告書	砂防堰堤撤去による溪流植生復元のためのモニタリングおよび回復評価手法の開発	吉川正人、林雄太
2011/3	日本生態学会第58回全国大会, 札幌	群馬県赤谷川上流域における治山堰堤の設置とその破損が溪畔植生に与える影響	林雄太、吉川正人、藤田卓
2010/3	日本生態学会第57回全国大会、東京	治山ダムによって土砂送流が抑制された溪流の植生分布～AKAYAプロジェクト治山ダム撤去対象地・茂倉沢の事例～	林雄太、吉川正人、藤田卓
2009	土木学会誌, 第94巻7号, 22-24頁	協働による溪流環境の復元の試み-赤谷プロジェクトにおける新たな治山事業	茅野恒秀
2012/1	砂防学会誌, 第64巻第5号(通巻298号)	溪流環境の復元を目的に加えた治山事業の計画と施工：茂倉沢における試み	高橋剛一郎、井口英道

2009/1	日経コンストラクション 1月9日号: 62-71	新潮流 ”撤去” に踏み込む自然共生 - 治山・砂防施設も防災偏重から生物多様性との両立へ.	松浦隆幸
2010/1	日経コンストラクション 1月22日号: 13-17	人間ドキュメント タブーに向き合い治山ダムを撤去--防災機能と溪流環境の両立を目指す推進役に	松浦隆幸
2009/8	現代林業 2009年8月号	森と水--森林管理の現場から(第20回)国有林の共同管理と治山ダム部分撤去--利根川源流・赤谷プロジェクトの挑戦	蔵治光一郎
2011/9	川と湖を見る・知る・探る陸水学入門 (日本陸水学会 編)	官民一体となった流域管理 赤谷プロジェクトの挑戦とその波及	藤田卓、朱宮文晴
2013/3	愛知工業大学河川・環境研究室卒業研究論文集, 2012年度: 14-1-13.	砂防堰堤・治山堰堤がある山地溪流における底生動物の調査.	兵藤 峻基
2013/3	愛知工業大学河川・環境研究室卒業研究論文集, 2012年度: 10-1-7.	赤谷川(群馬県)・矢作川・名古屋東部丘陵の河川における底生動物各種と河床の安定度との関係.	近藤高弘
2013/3	愛知工業大学河川・環境研究室卒業研究論文集, 2012年度: 9-1-9.	赤谷川(群馬県)・矢作川・名古屋東部丘陵の河川における底生動物群集と河床の安定度との関係.	松井寛幸
2012/3	愛知工業大学河川・環境研究室卒業研究論文集, 2011年度: 6班-1-12.	砂防堰堤・治山堰堤が底生動物に与える影響.	松井拓也・水田哲平
2011/3	愛知工業大学河川・環境研究室卒業研究論文集, 2010年度: 5班-1-10.	砂防堰堤・治山堰堤が底生動物に与える影響.	中島健太・中村亮介・後藤信総

<その他>

年月	雑誌/大会/著書等	タイトル	執筆者/発表者
2008/3	東京農工大学 農学部 卒業論文	働型国有林管理プロジェクトにおける地域づくりの課題と展望 - 赤谷プロジェクト旧三国街道フットパス網計画を事例として -	南部さやか
2011/3	東京農工大学 農学部 修士論文	官民協働型森林管理における地域環境ガバナンスの実態と課題 ~ 赤谷プロジェクトを事例として ~	林あかね
2009	環境社会学研究 第15号, 25-38頁.	プロジェクト・マネジメントと環境社会学 : 環境社会学は組織者になれるか, 再論	茅野恒秀
2009	よくわかる環境社会学	「赤谷プロジェクト」	茅野恒秀
2011	環境社会学	第6章「自然保護問題」	茅野恒秀
2012	法政大学 社会科学部 博士論文	環境問題解決過程における政策課題設定のメカニズムに関する研究 ~ 自然保護問題の解決過程と制度変革の検討を通じて ~	茅野恒秀
2005	森づくりフォーラム第106号, 10-11頁.	行政と自然保護 NGO との国有林野 『共同管理』 赤谷プロジェクト	茅野恒秀

資料作成 : 日本自然保護協会

おはよう『カワガラス』



年	月	発刊数	主な記事
2009	7	創刊号	(仮)おはよう『カワガラス』に寄せて
2009	8	2	旧三國街道フットパス網計画/猿ヶ京を探そう
2009	9	3	～旧新治郷の姿 農業～
2009	10	4	～ふりかえれば未来～
2009	11	5	おはよう『カワガラス』とは・・・
2009	12	6	11月・12月の地域協議会定例報告
2010	1	7	コラム『動物の足跡』長浜陽介
2010	2	8	2009年度 第1回 企画運営会議が開催されました*
2010	3	9	1月・2月の地域協議会定例報告
2010	4	10	3月の地域協議会定例報告
2010	5	11	2009年度 第2回 企画運営会議報告/4月の地域協議会定例報告*
2010	6	12	5月の地域協議会定例報告/5月の活動報告
2010	7	13	地域協議会定例報告/6月の活動報告
2010	8	14	7月の活動報告
2010	9	15	7・8月の活動報告
2011	春号	16	コラム～地域協議会会長より～岡村興太郎/「これからの森」長浜陽介
2011	夏号	17	コラム「歴史散歩から三国を超えた人々～」林 泉/「赤谷の森の見どころ」松井 ほか
2011	夏号	号外	2010年9～12月赤谷の日 ほか
2011	秋号	19	「ムタコの日」森林再生講座開始される/2011年2～3月赤谷の日 ほか



赤谷プロジェクト地域協議会

おはよう『カワガラス』

2009年 7月号(創刊号)

赤谷プロジェクト地域協議会



(カワガラス撮影：赤谷サポーター島内さん)

◎「おはよう『カワガラス』」は、笛木坦さんがメールマガジンを仮想して寄せられた、寄稿文から始まりました。

7月活動日程		行事等	エッセイ	ムクジの日	環境教育	ネチャーガイド	ニホサマル問題
1	水						
2	木						
3	金						
4	土	赤谷の日(4・5日)					
5	日	地域協議会総会					
6	月						
7	火						
8	水						
9	木						
10	金						
11	土						
12	日						
13	月						
14	火						
15	水						
16	木						
17	金						
18	土						
19	日	ホンデン調査～25日					
20	月						
21	火						
22	水						
23	木						
24	金						
25	土						
26	日	赤谷湖花火大会					
27	月						
28	火	地域協議会定例会					
29	水						
30	木						
31	金						

この5日、地域協の総会が猿ヶ京小学校で開かれ、これまでの活動を踏まえて、今年度の事業・活動が確認されました。新しい段階に入って、活動を進めるにあたって、これまで活動を持続してきた人たちに敬意を表したいと思います。皆仕事を抱えて、多忙の中を時間をつくって、このプロジェクトをここまで育てるのは大変なことです。欲、義務感、責任感、そして使命感でもなく、地域、自然、生き物に対する心があるのでしょうか。

幸い、リーダーを引き受けてくれる人がいますので、リーダーの呼びかけに進んで参加することから始めることになります。この「メルマガ」が有効に利用されることを期待します。

猿ヶ京地区幹事 笛木 坦 (2009.7.25)

衆議院解散20090721 笛木

(仮)「おはよう『カワガラス』」に寄せて

バブルの崩壊、マスレジャーの消滅20世紀が終わった。東京から、利根川を遡って、奥利根の地にふたりは居を移した。

新しい世紀の奥利根、山好きのふたりは、赤谷川を、さらに西川をそして、法師温泉の手前からムタコ沢に入った。山笑う新緑の季、溪流の音を聞きながら進むと、畔に二ホンカモシカが銅像のようにずっと立っている。ふたりが近づいても動かない。左足首を痛めているようである。

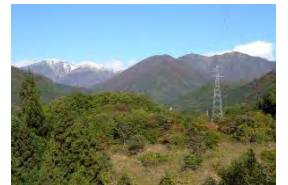
背中のザックから、器具と薬を取り出し、傷の手当にかかると、カモシカはうれしそうな表情を示し、素直に手当てに応じている。幸い傷は浅くポンと背中を叩くと、ゆっくりと法師温泉の方に向かって歩き出し、森の中に姿を消した。「あのカモシカは、この森の主なのだろうか、我々にこの森のあり方、この森との付き合い方を伝えようとしていたのかも知れない。」ホツとして、ふたりが空を見上げるとイヌワシが美しい翼を溪流の上空に披露してくれている。このイヌワシは、赤谷川本流の川古温泉の奥、茂倉岳に棲んでおり、このときここまでやってきてくれたのであろうか。こうして、赤谷プロジェクトがはじまった。このふたりは、アミ動物病院の安田剛士さんと松井睦子さんである。

ところで、我々の暮しているこの地域はどういうところなのだろうか。そこに暮している人には、かえって分からないものです。しかし、三国街道の往来の波、時代の波に流され、少子高齢化過疎化の一途を辿っている今、自分たちのこの地をしっかりと見直し、立て直しに取り掛からなければならないことは必至です。

幸い、赤谷プロジェクトの活動によって、外部の人たちの関心が寄せられ、この地域が他にないよいところをいっぱい持つところであることが分かってきました。赤谷プロジェクトとの中にこの地域に暮らす人々たちによる「地域協議会」があります。そして、ムタコの水源を守るための、あるいは猿の被害を防ぐためなどの調査や活動が、安田さん、松井さんの呼びかけを契機にして、村民ボランティアの参加のよって行われています。ひとりでも多くの人に加わって、出来るところから、あるいは大事なところから、手をつけていかなければなりません。

国有林の管理にあたっている林野庁も、また日本自然保護協会に集まる心ある研究者も惜しみなく力を貸してくれます。あきらめることなく、この地域のよさを活かして、暮らしを続けられるところにしていかなければなりません。菜の花の里、ホタルの里、謙信・兼継ゆかりの「義」の里、「愛」の里・・・すでに若い力が動き出しています。

「おはよう『カワガラス』」で、新鮮な情報を伝えたいと思います。是非グループメール(メーリングリスト)にはいつて、モーニング・コーヒー?のときに見てください。そして稿を寄せてください。



※おはよう『カワガラス』7月号は、故 笛木坦さんが2009.7.21に創刊されたメールマガジンを紙面に編集したものです。

おはよう『カワガラス』

2009年8月号

赤谷プロジェクト地域協議会



(カワガラス撮影：赤谷サポーター島内さん)

※おはよう『カワガラス』8月号は、故 笹木坦さんが2009.8.21に刊行されたメールマガジンを紙面に編集したものです。なお、写真を追加掲載いたしました。

8月活動日程

	行事等	エコリズム	ムタコの日	環境教育	ネイチャーガイド	ニオガール問題
1	土 赤谷の日(1・2日)					
2	日			森林再生講座		
3	月					
4	火					
5	水					
6	木					
7	金					
8	土 なっからコンサート					
9	日			水生昆虫調査下見		
10	月					
11	火 コウモリの調査(「コウモリ会」)					
12	水 植物調査(青木・平井)					
13	木					
14	金					
15	土					
16	日 森林調査実践(吉田研究室)			濁度調査・緑のダム実験		
17	月					
18	火 センサーカメラ設置(約50箇所)					
19	水 ホンドテン調査					
20	木					
21	金					
22	土					永井群追跡調査
23	日					
24	月					
25	火					
26	水					
27	木					
28	金					
29	土					
30	日 衆議院選挙、地域協議会定例会					
31	月					

家の軒下にスズメバチとアシナガバチが8個も巣をつくりました。これは天候不順・異常気象の前兆だったようで、彼らはそれを察知しているのでしょうか。いつもは水のない空堀沢に3日間に亘って滔々と水が流れました。ムタコ沢はどうだったのでしょうか。いつも絶えることなく私たちに綺麗な水を与えてくれる溪流には改めて感謝するばかりであり、ムタコの日に参加したひとたちは、その感を深くしているかと思えます。

この感覚を大事にして、国有林の姿をイメージし、管理の仕方を提言してください。

猿ヶ京地区幹事 笹木坦

旧三國街道フットパス網計画 赤谷プロジェクト地域ワーキンググループ

座長：土屋俊幸

メンバー：岡村興太郎・林 泉・安田剛士・河合進・中村孝史(08年3月まで)
・田中直哉(08年4月から)・茅野恒秀・藤田卓・出島誠一

この欄をかりて、上記計画を転載させていただきます。
赤谷プロジェクトは「生物多様性」がキーワードですが、あまり馴染みのある言葉ではないと思います。「いろいろな種類の生き物が生息している」とでも云ったらよいのかも知れません。
もともと生物は非常に複雑怪奇で、多様性に富んでいます。私たちの身体は60兆個もの細胞からできていて、それぞれの細胞が生まれては死んでいっているのだそうです。また、まだ知らない生物は無数にいて、人間が分かったと知っているのはごくごく僅かなのです。
「多様性」に対して「画一性」と言う言葉があります。これは、工業化社会に関係が深いのですが、一昔前にもてはやされた団体旅行のマスレジャーやマスツーリズムも人や生き物を機械のように画一的に扱う考え方だと思います。
「赤谷の森」にはいろいろな生物が生きていて、赤谷プロジェクトは生物、そして人間のあり方について、多くのヒントを教えてくださいを期待されています。
「三國街道フットパス網計画」は、一人で、あるいは少人数で歩くことです。歩くことは、人間の基本的な動作で、あらゆることがここから始まるといってもいいかも知れません。「おはよう『カワガラス』」の先号にお知らせしたように、専用マップの下図を用意していますので、よく歩いて地図を完成させてください。
ここに目次を転載させていただきます。

第1章 旧三國及び周辺の生活道路とフットパス

(1)旧三國街道とは (2)「フットパス」とは

第2章 活動の経過

(1)活動経過概要 (2)R O S手法による現状分析 (3)地域住民への聞き取り調査
(4)自然科学系調査 (5)住民参加ワークショップ

第3章 旧三國街道フットパス網の現況評価と課題

(1)全体及び歩道ごとの現況について (2)旧三國街道フットパス網へのアクセス

第4章 旧三國街道フットパス網管理・行動計画(案)

(1)現段階でのフットパス網の範囲 (2)地図インフォメーション・ガイディング
(3)関係組織への要望・調整事項

NACS-J 茅野恒秀

猿ヶ京の姿を探そう

廃校となった母校、猿ヶ京小学校が赤谷プロジェクト地域協議会が中心になって、活用することになったのは本当にうれしいことです。

今の校舎ができたのは、卒業後間もないときでした。この地の材木を使い、石垣も樹木もこの地のもので、斬新なデザインの校舎が姿を現した時、みなこの地域に誇りと自信をもちました。

ちょうどこの時代に、大相撲の琴稲妻関が活躍していて、結婚式には村長が仲人で村のえらいサンや友達がバスを連ねて東京までお祝いに繰り出しました。

今、猿ヶ京にはこの時のような威勢のよさはありません。山から転がり落ちるような不安ささえ感じます。

しかし私たち若者は決して望みを失ってはいません。猿ヶ京ネットワークを立ち上げて活動をしています。「菜の花畑のエコエンジンバス案内」、「赤谷湖上花火の打ち上げ」、「ホテル沢づくり」などが実現しています。「三國街道フットパス網計画」、「猿ヶ京小学校の活用」というピクナプレゼントが私たち若者の前に示されました。

私たちが子供の時のような時代ではありません。自分たちの地域をしっかりと見直して、その自然の恵みを生かすことによって、猿ヶ京の猿ヶ京の姿が見えてくると思っています。

猿ヶ京ネットワークは、赤谷プロジェクト地域協議会と連携して、活動をすすめますので、よろしくお願ひします。

猿ヶ京ネットワーク 生津秀樹

おはよう『カワガラス』

2009年 9月号

赤谷プロジェクト地域協議会



(カワガラス撮影：赤谷サポーター島内さん)

9月活動日程

	行事等	エコリズム	月々の日	環境教育	ネチャーガイド	コサール問題
1	火					
2	水					
3	木					
4	金					
5	土	赤谷の日(4・5日) 旅ジャーナル会議・見学～5日				
6	日	地域協議会定例会(猿小)				
7	月					
8	火					
9	水					
10	木					
11	金					
12	土					
13	日	旧猿ヶ京小大掃除	水生昆虫調査			
14	月					
15	火					
16	水					
17	木					
18	金					
19	土					
20	日					
21	月					
22	火					
23	水					
24	木					
25	金					
26	土			NACS-J		
27	日			自然観察指導員 講習会(千葉村)		
28	月					
29	火					
30	水					

私の家族は、地元のお米からお米を分けてもらっています。野菜も多くの皆さんが分けてくれ、旬の地産を食うことができます。この地域は、ここに暮らす人とエコリズムでやってくる人たちの間にちょうどよい地力に恵まれており、東京方面へ大量に集荷して利益が得られる地力ではなく、又地の利でもないように思います。

旧新治郷の姿は農業が基本であり、農協や農業公社ではどんな姿を描いているのでしょうか。半世紀に亘って農業を指導してきた政権が交代した今、改めて新しくこの地域の農業の姿を描いて見る必要があると思います。この地域の農業は、量より質、見掛けより中味、市場価格に振り回されない自給農業なのではないでしょうか。赤谷プロジェクトの一環として、赤谷の森と連なるこの地域固有の安定した農業の姿が描けると思います。

このとき、エコリズムのお客さんがこの地域の人たちの暮らしに必要なおカネを支払ってくれるように、フットパス計画と温泉施設などを整えておかななくてはなりません。

～旧新治郷の姿 農業～

先号、この地域の林業の姿を描いてみました。今回この地域の農業について考えて見ましょう。この地域の農業は、むかしから養蚕を別として、自給農業が基本でした。決して豊かではなく、街道の往來の米は特定の蔵へ収められてしまい、地元の人たちは雑穀を作って暮してきました。

国道が開通し、戦後の高度成長のなかで、食糧も燃料も外から商品として入ってくるようになり、現金の重みが急激に大きくなり、地元の人たちは日銭を稼ぐことに関心が向かいました。ちょうどこのとき、国道工事やダム工事、スキー場の開発、そしてリゾート、団体旅行が豊富な働き場所を提供し、気軽に現金収入を得ることができました。

このときから、自分の食糧を自分の田畑で確保する自給農業は急速に崩壊してしまっただけに見えます。自分たちの食糧を作りだすだけの耕作地を先祖から授かっているこの地域は、長い目で見て自給農業を基本としなくてはならないと思います。もはや耕作地のない都会は地力と収穫力のある地域から、食糧を分けてもらう以外にないのです。

地域人口6000人への自給を仮定したとき、農業の姿はどうなるでしょうか。農家を600人と仮定したとき一割農家となり、誰もが一日の一割の時間を農業にあてて、自分の食糧を確保するのか、一割の人が農業に専念して他の人に分配するのか、いろいろの姿があります。この地域固有の協同体制を作り出さなくてはならないこととなります。

政権交代となり、農産物の市場価格と生産価格の格差を国が補填することによって、農業の衰退を抑えようとする政策がとられることとなります。この機にこの地域の農業の姿を描いて見なくてはなりません。

農業が独自にあるわけではなく、林業、観光との関連で成り立ちます。農業にとって里山は切り離せない関係にあり、更に奥山の自然林や水源、そして多様な動物とも繋がっています。里山は、有機農業にとって落ち葉や腐葉土の採取地であり、スギの造林地の他に落葉広葉樹林が必要です。また、イノシシやサルが耕作地にまで出てきて、作物に被害を与えないようにしなくてはなりません。そして、有機農業によるカエルやドジョウの増加は地域の「生物多様性」を豊かにし、ホタルの飛び交う里にもなります。

今、国・林野庁は国有林施業計画の見直しをしています。ここで、里山及び奥山と農業の関係を明確にしておく必要があります。国・林野庁の支援をいただいて、赤谷プロジェクト地域協議会の課題として取り組んだらどうでしょうか。

今回の不況は、自由放任の市場主義の危険性を教えてくれました。この地域での暮らしはこの地域の自然が教えてくれることを聞き取り、読み取ることが一番大事だと思います。

自給の農業を基本とする豊かな耕地、山野草や花木の花が咲く明るい里山の雑木林、イヌフシやクマタカが棲息する奥山、そして、地場産の米、いつも旬の野菜、山菜、きのこ、などのもてなしがある温泉宿。エコリズムのメッカの姿が浮かび上がってきます。

猿ヶ京地区幹事 笹木 坦

※おはよう『カワガラス』9月号は、故 笹木坦さんが2009.9.21に刊行されたメールマガジンを紙面に編集したものです。なお、写真を追加掲載いたしました。

おはよう『カワガラス』

2009年 10月号

赤谷プロジェクト地域協議会



(カワガラス撮影:赤谷サポーター 島内さん)

10月活動日程

	行事等	エコリズム	ゆの日	環境教育	ネイチャーガイド	ニホンザル問題
1	木					
2	金					
3	土	赤谷の日(3・4日)				
4	日	地域協定例会(猿小)				
5	月					
6	火	土砂災害説明会(猿小)				
7	水					
8	木					
9	金	自然環境にケツク会議(東京)				
10	土					
11	日					
12	月					
13	火	新治小遠足(小5大峰山)				
14	水					
15	木					
16	金					
17	土					
18	日					
19	月					
20	火	町長選告示				
21	水					
22	木	新治小遠足(小6 三国)				
23	金					
24	土	コウモリ調査				永井群追跡調査
25	日	町長選投票日		濁度調査・ 緑のダム実験		
26	月					
27	火	ホンドテン調査~11/2				
28	水					
29	木					
30	金					
31	土					

北海道の知床のカワガラスがNHKで放映されました。滝の裏に巣を作って懸命に子育てする様子は非常に感動的でした。ムタコでも見る事ができるのでしょうか。

猿ヶ京温泉の西側の街道筋を民宿通りといっています。東京からやって来る私の友人が絶賛しているところです。この奥の方に懐古館があります。ご主人は田村卯太郎さんで、私の生井中学校時代の同級生です。「ふりかえれば未来」からの発想なのでしょう。かなり以前にクラス会で集まらしてもらったきりなので、あれから変わったところもあるかもしれませんが、エコリズムの休み拠点として、絶好のところですよ。彼は工務店をずっとやって来ており、息子さんが継ぎ、今も指導にあたっているかたわら、民宿もやって、もてなしをしています。隣がいこいの湯で、西川親水公園を越えて南の台地が姉山で、ここの一軒家がいわなと蕎麦の姉山の家です。

みんなでエコリズムのマップを完成させて、多くの人に使ってもらいましょう。

~ふりかえれば未来~

旧新治郷の姿を描いている時、社会の進展と医学の進歩によって、地域に生まれ子供が生涯を全うできると仮定することとした。確かに戦争がなくなり、病院が整ってきて、そのように思うこともありますが、大きな問題を抱えていると思います。グローバル戦争はますます激しさを増し、核兵器も肥大化していて、ちょっと間違えれば、とんでもないこととなります。また、医療は検査技術と機械が発達し、人々の病原を確実に見つけることができ、確実な薬が開発され、また、誰でも治療を受けることができるようになりました。しかし、薬はあくまでも対症療法で体に副作用があります。まじめに大量の薬を飲み続けて大病に至った人もあります。近代競争社会も、近代医学も、もともと私たち東洋人が地域のなかで生み出してきたものではありません。今、私たちは自分たちの生み出してきた考えを改めて大事にすることが問われているのではないのでしょうか。

2016年のオリンピックが東京に来ることはなくなりました。1939年のオリンピックが思い出されるころです。オリンピックを契機に経済の急速な成長が起り、養蚕集落の地域も一変したといえましょう。自給農業と里山の仕事で基盤をためて、家族みんなで営む養蚕が暮らしを潤してくれていました。その頃はテレビはなく、ラジオも限られた人たちだけにありました。もちろん、クルマもなく、木炭バスが楽しい乗り物でした。いま、集落を比べてみてください。必ずしも今がよいといえないところもあると思います。西欧の文明、都会の文明を安易に追いかけてきた結果ですが、時代の流れに抗しても地域の力を信じて、いろいろなことに対処するだけの郷土愛をもたなかったといえると思います。東洋医学・・・、今こそ、競争でなく、協調の地域のまちづくりに進むことを考えることではないのでしょうか。

猿ヶ京地区幹事 笛木 坦

※おはよう『カワガラス』10月号は、故 笛木坦さんが2009.10.11に刊行されたメールマガジンを紙面に編集したものです。なお、活動報告と写真を追加掲載いたしました。

10月の活動報告

- ☆ 23日：ニホンザル(永井群)の追跡調査が行われました。
- ☆ 25日：ムタコ沢の濁度調査及び緑のダム実験(安田・松井・星野による)が行われました。

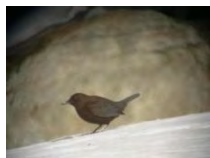


おはよう『カワガラス』

2009年 11月号

赤谷プロジェクト地域協議会

ブログ「ムタコとムタオ」 <http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>



(カワガラス撮影：赤谷サポーター 島内さん)

11月活動日程

行事等		行事等	
1	日	17	火
2	月	18	水
3	火	19	木
4	水	20	金
5	木	21	土
6	金	22	日
7	土	23	月
8	日	24	火
9	月	25	水
10	火	26	木
11	水	27	金
12	木	28	土
13	金	29	日
14	土	30	月
15	日		
16	月		

※地域協議会が行っている活動には、エコツーリズム/ムタコの日/環境教育/ネイチャーガイド/二ホンザル問題などがあります。

おはよう『カワガラス』とは…

おはよう『カワガラス』は、元々は故 笹木坦さんが刊行されていたメールマガジンです。2009年7月に試作版として始まりましたが、大変悲しく残念なことで、笹木さんがご逝去され、10月までの刊行となってしまいました。

笹木さんは郷土を愛し、これからの地域の人の暮らしや地域の未来について深く考えておられました。ここに人々が暮らし続けるためには、地域の人々がこの地域の在り方を主体的に考えることが何より必要であること、もっと地域の自然のすばらしさ・価値を認識し、旧新治郷の姿をふり返りこれからの地域の姿を描いていくことが大事であることなど、メールマガジンに綴られています。そして、そのためにメールマガジンが有効に利用されることを期待されていました。

おはよう『カワガラス』を紙面にしたのは、メールアドレスをお持ちでない地域協議会の会員の皆さまにも、活動の状況などできるだけ新しい情報をお伝えしたいと考えたからです。

活動日程（地域協議会が取り組んでいる活動はもちろんですが、赤谷プロジェクト全体の活動や地域の行事など）、活動報告やご意見・寄稿文などを載せていきたいと考えています。

2009年から一月に一回、地域協議会の定例会が開催されていますが、そこで話し合われたことやブログ「ムタコとムタオ」の更新状況、自然環境モニタリング会議など各ワーキンググループの会議の報告、「赤谷の日」の活動の様子なども、お伝えしていきたいと考えています。

皆さまに、ご一読いただければありがたいです。

なお、この紙面を皆さまにお届けするのが、大変遅くなってしまい申し訳ありません。

(編集担当 星野理恵子)

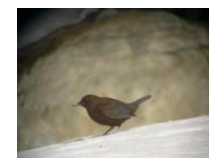
赤谷プロジェクトに 代表幹事(林泉さん)：0278-66-0888 日本自然保護協会：03-3553-4107
 関する問い合わせ／ 事務局(安田さん)：278-22-2119 赤谷ふれあいセンター：0278-60-1272

おはよう『カワガラス』

2009年 12月号

赤谷プロジェクト地域協議会

ブログ「ムタコとムタオ」 <http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>



(カワガラス撮影：赤谷サポーター 島内さん)

12月活動日程

行事等		行事等	
1	火	17	木
2	水	18	金
3	木	19	土
4	金	20	日
5	土	21	月
6	日	22	火
7	月	23	水
8	火	24	木
9	水	25	金
10	木	26	土
11	金	27	日
12	土	28	月
13	日	29	火
14	月	30	水
15	火	31	木
16	水		

* 11月・12月の地域協議会定例会報告*

～2009年より、旧猿ヶ京小で地域協議会の会合が定期的に行われるようになりました。～

◇11月8日(日)：15:00～旧猿ヶ京 出席者 林泉、河合進、松井、星野、安田、杉木(愛山会)、阿部(愛山会)、星田(セウ)、茅野(NACS-J)、土屋(東京農工大・自然環境モニタリング会議) 敬称略

まず開会后に、10月24日にお亡くなりになった笹木坦さんを追悼し参加者で黙祷をしました。

●議題

- (1)会合の定期開催について →定例会の設置：毎月第一日曜(赤谷の日2日目)15時～開催。
- (2)会員名簿の公開について →会員には、氏名・地区・役名・メールの有無を公開する。
- (3)メルマガ「おはようカワガラス」について →継続の方向で発行していく。
- (4)活動報告 ①地域協議会内のメーリングリストの立ち上げ ②新治小5年生の大峰方面遠足 ③「ムタコの日」ブログ更新について ④新治小6年生の三国方面遠足 ⑤二ホンザル追跡調査 ⑥「ムタコの日」緑のダム実験・濁度調査
- (5)会合出席者の範囲について→原則として地域協議会の会員、必要があれば三者が参加。
- (6)その他 ①地域の方から赤谷の自然や文化、歴史などの聞き取りの機会を設けたい。 ②「ムタコの日」について(今年度は12月で締め、1月から来年度の活動とする)

また、茅野さんから森林管理計画についてお話があり、地元の農林業・狩猟・観光・登山・文化財など様々な方面から意見をもらい、地域の意見を森林管理計画に反映させたいので、12・1月中に各地区などで意見収集・話し合いの場を設ける、とのことでした。

◆12月6日(日)：15:00～旧猿ヶ京小

●議題

- (1)地域協議会の今後の役割について
- (2)活動報告 ①環境教育WGについて ②ムタコ沢での観察会
- (3)12月7日の企画運営会議について
- (4)企画運営会議資料「ムタコの日」中間報告書について
- (5)その他 ①赤谷の日での地域協議会の活動について ②ブログの共同管理

赤谷プロジェクトに 代表幹事(林泉さん)：0278-66-0888 日本自然保護協会：03-3553-4107
 関する問い合わせ／ 事務局(安田さん)：278-22-2119 赤谷ふれあいセンター：0278-60-1272

おはよう『カワガラス』

2010年 1月号

赤谷プロジェクト地域協議会

ブログ「ムタコとムタオ」【<http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>】



(カワガラス撮影：赤谷サポーター 島内さん)

1月活動日程

行事等		行事等	
1	金	17	日
2	土	18	月
3	日	19	火
4	月	20	水
5	火	21	木
6	水	22	金
7	木	23	土
8	金	24	日
9	土	25	月
10	日	26	火
11	月	27	水
12	火	28	木
13	水	29	金
14	木	30	土
15	金	31	日
16	土		

コラム 今月は長浜さんに寄稿いただきました。

『動物の足跡』

雪の上の動物の足跡が誰でも見たことがあるでしょう。今は何冊か足跡図鑑もでていますので、私も参考にさせてもらっています。

しかし、この足跡図鑑がくせものです。図鑑には1種類の動物に対して1つか2つの、恐らく最も一般的な足跡のパターンが記されています。それに比べて、野生の動物たちの歩き方のなんとバラエティーに富んでいることか。

特に、イタチの仲間のホンドテンは実に様々な歩き方をしてくれます。左右の足をそろえ、きれいに並んだ2つの足跡が続いているかと思えば、キツネやタヌキのような歩き方をすることもあります。私が1番驚いたのは30cm×20cmの楕円形が30cmほどの間隔で続いていたものです。

恐らく深い雪の中、全身で跳びはね着地することを繰り返していたのでしょうか、その足跡をたどり見慣れたホンドテンの足跡に変わるまでは、一緒に歩いていた仲間と様々な推理をして、しばし楽しませて(悩ませて?) もらいました。

長浜陽介

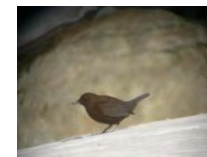
赤谷プロジェクトに
代表幹事(林泉さん) : 0278-66-0888 日本自然保護協会 : 03-3553-4107
事務局(安田さん) : 278-22-2119 赤谷ふれあいセンター : 0278-60-1272

おはよう『カワガラス』

2010年 2月号

赤谷プロジェクト地域協議会

ブログ「ムタコとムタオ」【<http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>】



(カワガラス撮影：赤谷サポーター 島内さん)

2月活動日程

行事等		行事等	
1	月	17	水
2	火	18	木
3	水	19	金
4	木	20	土
5	金	21	日
6	土	22	月
7	日	23	火
8	月	24	水
9	火	25	木
10	水	26	金
11	木	27	土
12	金	28	日
13	土		
14	日		
15	月		
16	火		

* 2009年度 第1回 企画運営会議が開催されました *

赤谷プロジェクトの具体的な活動内容は、年2回程度開かれる「企画運営会議」によって決定されます。2009年度第1回企画運営会議が、昨年末12/7(月)14時より、みなかみ町中央公民館で行われました。

地域協議会からの出席者：岡村興、林泉、安田、河合明、笛木一、米田、松井

●議題

- 2009年度赤谷プロジェクト事業の進捗状況
 - ①自然環境モニタリング会議、各ワーキンググループの活動経過の確認と意見交換
 - 赤谷プロジェクトにおける新たな取り組みについて
 - ①「イヌワシ生息環境保全調査事業」について
 - 提案・報告事項について
 - ①茂倉沢エリア・桜沢林道の路線確保について
 - ②2009年度利根沼田森林管理署業務計画について
 - ③旧猿ヶ京小学校の今後の活用について
- その他

※地域協議会からは、「2009年度ムタコの日活動報告(中間報告)」と「旧猿ヶ京小学校をめぐる最近の動向について」の報告がありました。

赤谷プロジェクトに
代表幹事(林泉さん) : 0278-66-0888 日本自然保護協会 : 03-3553-4107
事務局(安田さん) : 278-22-2119 赤谷ふれあいセンター : 0278-60-1272

おはよう『カワガラス』

2010年3月号

赤谷プロジェクト地域協議会

ブログ「ムタコとムタオ」【<http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>】



(カワガラス撮影：赤谷サポーター 島内さん)

3月活動日程

行事等		行事等	
1	月	17	水
2	火	18	木
3	水	19	金
4	木	20	土
5	金	21	日
6	土	22	月
7	日	23	火
8	月	24	水
9	火	25	木
10	水	26	金
11	木	27	土
12	金	28	日
13	土	29	月
14	日	30	火
15	月	31	水
16	火		

* 1月・2月の地域協議会定例会報告 *

- ◇1月10日(日)：15:00～旧猿ヶ京小
出席者：岡村興、林泉、河合明、長浜、松井、星野、星田(ツケ)、茅野・藤田・出島(NACS-J) 敬称略
- 報告事項
 - (1) 12月17日に行われた環境教育WG(ワーキンググループ)の会議について
 - ・地域協議会主体の自然観察会をしていこう、ということで企画書を作成する。
まずは、地元の人(子ども)を対象とし、ひとまず一般(宿泊者)は対象からはずして考える。
 - (2) 旧猿ヶ京小の利用について
 - ・みなかみ町で投票所として使用する(相俣・浅地・赤谷の3地区)。
 - ・山田建設さんが資材置き場として1年間使用する。
 - (3) 「赤谷の日」の活動について
 - ・2010年の活動計画が、サポーターを中心とした参加者間での話し合わせ、今年は「より地域とつながろう」というテーマで活動していくことになりました。
 - ◆2月7日(日)：15:00～旧猿ヶ京小 出席者：岡村興、林泉、河合明、林武、長浜、青木、松井、星野
 - 議題
 - (1) 地域協議会パンフレット改訂の検討 →会員の会費改正や、表紙や内容の改善点等を事務局へ提出。
 - (2) 森の恵みを里の歴史・自然から解説する観察会の提案(松井さん)
 - 長浜さん、米田さんから提案されている観察会と併せて考えられるか、再度検討。
 - *観察会については、目的や方法、地元の他の団体との連携ができるか、赤谷サポーターとの協力などについて、検討を重ねながら実施していく方向になりました。
 - 報告事項
 - (1) 新入会員について
 - (2) 自然環境モニタリング会議開催の案内
 - (3) 「おはようカワガラス」の内容について

赤谷プロジェクトに 代表幹事(林泉さん)：0278-66-0888 日本自然保護協会：03-3553-4107
 に関する問い合わせ／ 事務局(安田さん)：278-22-2119 赤谷ふれあいセンター：0278-60-1272

おはよう『カワガラス』

2010年4月号

赤谷プロジェクト地域協議会

ブログ「ムタコとムタオ」【<http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>】



(カワガラス撮影：赤谷サポーター 島内さん)

4月活動日程

行事等		行事等	
1	木	17	土
2	金	18	日
3	土	19	月
4	日	20	火
5	月	21	水
6	火	22	木
7	水	23	金
8	木	24	土
9	金	25	日
10	土	26	月
11	日	27	火
12	月	28	水
13	火	29	木
14	水	30	金
15	木		
16	金		

* 3月の地域協議会定例会報告 *

- ◇3月7日(日)：15:00～旧猿ヶ京小 出席者：岡村興、長浜、青木、米田、松井、星野、安田
- 議題
 - (1) 2010年度地域協議会事業計画(案)について
 - ・09年度の事業内容や10年度の事業計画等を確認。来年度の地域協議会の活動内容を検討しました。
 - (2) 地域協議会が中心となって主催する環境教育について
 - ①赤谷の日を中心に生きもの村で開催②観察会の定期開催③地域づくりWGの再起動と、昔はあたり前とされていた地域の「お宝」的なものにスポットを当てた企画、が提案されました。これらの活動をどのように実行していくか、後日改めて審議します。
 また、サポーターの要望(地域の方向けの観察会を検討しており、地域との接点となる窓口を必要としている、など)が挙げられました。
 - (3) 今後の地域協議会の役割分担について
 - 兼任を避け、総会までに人選と依頼を進める。→会合等の参加を促進、活動の活性化。確実な情報伝達。
 - (2) メルマガ「おはようカワガラス」について→定期刊行に当たり、活動情報は前月の17日までに集約。
 - (3) 沖縄県弁護士会研修会(5/13,14,15)の対応について
 - 赤谷アポイント三者で対応。15日予定の地域協議会中心の日程には複数の会員の参加をお願いする。
 - 報告事項
 - 1.自然環境モニタリング会議
 - 2.群馬県野生動物調査・対策報告会
 - 3.獣害対策講習会
 - その他
 - ・哺乳類WGでの、ニホンザル対策についての検討事項
 - ・雨見・合瀬の野犬への対応について
 - ・総会は7月に開催
 - ・入会案内のパンフレット改定について

赤谷プロジェクトに 代表幹事(林泉さん)：0278-66-0888 日本自然保護協会：03-3553-4107
 に関する問い合わせ／ 事務局(安田さん)：278-22-2119 赤谷ふれあいセンター：0278-60-1272

おはよう『カワガラス』

2010年 5月号

赤谷プロジェクト地域協議会

ブログ「ムタコとムタオ」【<http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>】



(カワガラス撮影：赤谷サポーター 島内さん)

* ブログの前回更新は3/9、春の赤谷の報告がありました～ブログねたもお待ちしております *

5月活動日程

	行事等		行事等
1	赤谷の日(1・2日)	17	月
2	地域協議会定例会(猿小)	18	火
3	憲法記念日 濁度調査・緑のダム実験	19	水
4	みどりの日	20	木
5	こどもの日	21	金
6	木	22	土
7	金	23	日
8	土	24	月
9	日	25	火
10	月	26	水
11	火	27	木
12	水	28	金
13	木 沖縄弁護士会赤谷視察～15日	29	土 サポーター刈り払い機安全講習会
14	金 (15日：地域協議会対応)	30	日
15	土 放送大学～16日	31	月
16	日		

* 活動日程の黒字は主に地域協議会が関わるもの、青字はNACS-J及び赤谷センター主催となるものです。各活動への会員の皆さまのご参加をお待ちしています。

* 2009年度 第2回企画運営会議報告 *

◇3月23日(火)：13:30～ みなかみ町役場新治支所
地域協議会からの出席者：岡村興、林泉、安田、岡村建、松井、星野

●議題

1. 「赤谷の森・基本構想」の決定

「赤谷の森・基本構想」は、赤谷プロジェクトの目的である“生物多様性復元と持続的な地域づくり”を実現するために、「赤谷の森」を将来にわたってどのような森林としていくか、これまでに得られた知見や地域関係者の意見をもとにとりまとめたものです。

これを踏まえて、2010年度の赤谷プロジェクト・エリアの国有林野の地域管理経営計画・施行実施計画が策定されます。

また、南ヶ谷湿地の現状と保全・管理の指針についての報告がありました。

2. 2010年度利根沼田森林管理署業務計画(案)の報告

2010年度赤谷プロジェクト地域協議会事業計画(案)の報告

3. 赤谷プロジェクトの到達点の確認と、今後の課題の検討

※地域協議会からは、3/7の定例会で検討された2010年度の地域協議会の活動の計画が、報告されました。

* 4月の地域協議会定例会報告 *

◇4月4日(日)：15:00～ 旧猿ヶ京小

出席者：林泉、河合明、林武、安田、長浜、青木、米田、松井、松田和、星野、星田(センター)、大野・出島・藤田(NACS-J)

●議題

1. 地域協議会主催のイベントに関して

(1) イベントの冬期開催について

昨年度の「ムタコの日」の参加者から、冬の企画について問い合わせがありましたが、今年度の実施は困難であるということになりました。

(2) パルシシステムの協力による募集広報について

募集要項を連絡すれば無料で広報してもらえると、ということで、お願いする事に決定。

(3) イベントの開催後の宿泊等の案内について

参加者に希望がある場合は、域内の宿泊や日帰り入浴の施設を紹介する。

2. 「ムタコの日」年間計画について

(1) 8/8(日): 森林再生講座 * 昨年度は除伐作業で申請しましたが、今年度から間伐作業で申請。

10/24(日): 自然観察会 (緑のダム実験をメニューに入れた観察会)

* 参加費・傷害保険料を徴収。広報(チラシ)は¥10,000円/回以内で作成。

(10/24の自然観察会は、赤谷センターの自然観察会と重なるため、10/17(日)に変更となりました。また、10/16の濁度調査・緑のダム実験も10/17に合わせて行うことにしました。)

(2) 濁度調査・緑のダム実験：4/17・7/17・10/16に開催。

参加者には各自で保険をかけてもらい、周知は会員およびサポーターに広く行う。

(なお4/17については、荒天のため5/3に延期となりました。)

(3) 実行委員会の立ち上げ 実行委員：岡村建・高橋外志之(三国林産)・高橋由行・長浜陽介・林武・星田弘之・星野理恵子・松田和昭・安田剛士

3. 長浜さん提案の観察会企画書について(年4回(5/16、7/11、9/12、10/24)の企画)

4回全て実行するのは困難と判断、今年度は「ムタコの日」と統合して8/8、10/24に開催することになりました。(上記の理由により、10/24は10/17に変更。)

●報告事項

(1) 旧猿ヶ京小の維持運営について

今後の対応については、管理運営委員会の役員が町との折衝にあたる。

(2) 「赤谷の森・基本構想」による地元啓発活動は、各地区ごとに開催する。

(3) 「おはようカワガラス」はメール及び郵送で配布した。

(4) 沖縄県弁護士会視察：5/13～5/15のうち、5/15は地域協議会に対応をお願いしたい(内容未定)。

(5) 放送大学講座：5/15・16(講師：長島和成氏)および10/30・31(講師：亀山先生)。

(6) 生物多様性条約締結国会議(COP10：10月名古屋開催)のエクスカージョン(全国の川体験ツアー)の開催地の一つを赤谷で、と考えている。日程は11月頃で30名程度・2泊3日を予定。(NACS-Jより)

●その他

・年間スケジュール表の作成と事業仕分け

・会費値上げについて

・地元会員から役員を起用する事を検討する。

* 「ムタコの日」の年間計画については、後日、日程等に変更があり、その内容を青字で補足しました。

* 訂正とお詫び：先月号までの事務局安田さんの電話番号に間違いがあり、今月号で訂正いたしました。大変申し訳ございませんでした。

赤谷プロジェクトに 代表幹事(林泉さん)：0278-66-0888 日本自然保護協会：03-3553-4107
関する問い合わせ／ 事務局(安田さん)：0278-22-2119 赤谷ふれあいセンター：0278-60-1272

おはよう『カワガラス』

2010年 6月号

赤谷プロジェクト地域協議会

ブログ「ムタコとムタオ」【<http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>】



(カワガラス撮影：赤谷サポーター 島内さん)

6月活動日程

行事等		行事等	
1	火	17	木
2	水	18	金
3	木	19	土
4	金	20	日
5	土	21	月
6	日	22	火
7	月	23	水
8	火	24	木
9	水	25	金
10	木	26	土
11	金	27	日
12	土	28	月
13	日	29	火
14	月	30	水
15	火		
16	水		

*活動日程の黒字は主に地域協議会が関わるもの、青字はNACS-J及び赤谷サポーター主催となるものです。
各活動への会員の皆さまのご参加をお待ちしています。

5月の地域協議会定例会報告

◇5月2日(日)：15:00～ 旧猿ヶ京小

出席者：岡村興、青木、河合明、長浜、林武、松井、安田、星野、鈴木・星田(セウ)、大野・出島(NACS-J)

●議題

1. 総会について

(1)開催日：7月25日(日) ※場所、時間等は未定。

(2)5月30日、6月13日に会合を開き、以下の事項について継続して検討することになりました。

(お時間のある方は、ぜひ会合にもご参加ください。)

- ①会員区分について ～正会員・賛助会員の区分と、賛助会員の名称について意見がありました。
- ②役員兼務の解消について ～事務局安田さんに集中している仕事を、できるだけ分担していきます。
- ③会計選任について ～前任の笹木坦さんが逝去されたため、7/25の総会で選任されます。
- ④事業年度の変更について ～これまでの事業年度4/1～3/31を、1/1～12/31にする案がでています。
- ⑤決算書、予算案、会費について～地域協議会の予算は、現在会員の皆様にいただいている会費だけでは不足が予想されています。決算書・予算案をみて方策を検討します。
- ⑥成果報告について～NACS-Jで構想文書というパンフレットを作成中で、総会で配布したいと考えています。パンフレット作りに関わって、地域協議会にも意見を聞いていくそうです。
- ⑦地域づくりWGについて ～再開に向けて、活動できる複数の方を求めています。

●報告事項

1. 年間スケジュール表について ～年間スケジュールについて変更等の確認をしました。

2. 第1回「ムタコの日」実行委員会について ～4/21(水)に開かれた実行委員会の報告がありました。雨天の場合でも中止にせず、室内等のできる活動がないか意見が出されました。

5月の活動報告

◇◇◇生き物の様子を見てみると、赤谷では5月になってようやく春を感じられるようになりました。新緑の眩しいこの季節、先月号の活動日程に記載した以外にも、沢山の活動が行われました。5月中旬までの活動の様子を、一部ご紹介します。◇◇◇

○5/1-2 赤谷の日 ～ 今月も県内・県外から20名以上のサポーターの方が集い、いきもの村を拠点に活動されました。地域協議会からは、1～2日にはサポーターでもある青木さん、2日に長浜さん、松井さん、星野が参加しました。5/1は、ホンドテンや南ヶ谷湿地、蝶の調査が行われました。また、5/2は自然誌情報収集とトレイルルート(散策路)の設定・整備、木の豊凶調査やヤマビル対策実験、秋に実施する炭焼き用の炭材集めなどの、いきもの村を中心とした全体活動が行われました。



(テンのモニタリング調査風景：5月赤谷の日)

○5/3 濁度調査・緑のダム実験 ～「ムタコの日」の活動の一つである調査です。4/17の予定でしたが荒天のため延期し、5/3に実施となりました。今回の参加者は、赤谷センター所長の鈴木さん、安田さん、松井さん、星野の4名です。



(ムタコ沢本流上流部での濁度調査風景)

この日の天候は良く、雪解け水は思ったよりは多くなく沢も比較的歩きやすかったのですが、ムタコ沢上流にはまだ雪も少し残っていました。調査は、ムタコ沢本流上流と秋小屋沢で計4カ所、昨年より継続して行っています。

○5/13-15 沖縄弁護士会赤谷視察

14日には長浜さんが同行し小出俣方面を、15日にはNACS-J出島さん、サポーター鈴木さん、青木さん、長浜さん、松井さん、星野が同行し旧三国街道を視察しました。

15日は、午後から談話会が開かれ、上記鈴木さん、青木さん、松井さんの他、岡村さん、安田さんが参加されました。



(ヤマビル対策実験：5月赤谷の日)

○5/16 国道17号清掃活動～社会福祉協議会主催によるゴミ拾い奉仕活動が行われました。

今回は、赤谷サポーターである前橋市の鈴木さんが、遠方より参加してくださいました。地域協議会からは、永井から岡村興さん、高橋忠さん、笹木一さん、猿ヶ京から高橋由さん、西峯須川から本多史さん、沼田市から青木さん、星野が参加しました。笹木さんや本多さんからは、永井区長の林さん、林岩男さん、村田さんといった地元の方をご紹介いただきました。(この他にも、参加された方がいらしたら申し訳ございません)

ゴミ拾いに参加して毎回思うことですが、ゴミの多さには閉口し、道路をゴミ箱代わりにする人(一部の人たちですが)への憤りを覚えます。急な斜面に捨てられたゴミは拾うことができず、毎年そのまま放置されています。放置されたゴミもそうですが、ゴミを道路に捨てていく人の意識の変革を何とかできないものではないでしょうか。清掃活動には新治中の多くの生徒さんも参加していますが、ゴミを捨てていく大人のこのような行為を見て、子ども達はどのように感じるのでしょうか？



(シヨウジヨウバカマ：ムタコ沢)

(※写真は、青木さんと星野が撮影しました。)

赤谷プロジェクトに 代表幹事(林泉さん)：0278-66-0888 日本自然保護協会：03-3553-4107
関する問い合わせ／ 事務局(安田さん)：0278-22-2119 赤谷ふれあいセンター：0278-60-1272

おはよう『カワガラス』

2010年 7月号

赤谷プロジェクト地域協議会

ブログ「ムタコとムタオ」【<http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>】



(カワガラス撮影：赤谷サポーター 島内さん)

7月活動日程

行事等		行事等	
1	木	17	土
2	金	18	日
3	土	19	月
4	日	20	火
5	月	21	水
6	火	22	木
7	水	23	金
8	木	24	土
9	金	25	日
10	土	26	月
11	日	27	火
12	月	28	水
13	火	29	木
14	水	30	金
15	木	31	土
16	金		

*活動日程の黒字は主に地域協議会が関わるもの、青字はNACS-J及び赤谷センター主催となるものです。

* 地域協議会定例会報告*

☆今回の定例会後、再始動した地域づくりワーキンググループの会議が行われました。詳細は、別途お知らせします。

◇5月30日(日)：15:30～ 旧猿ヶ京小 出席者：青木、岡村建、河合明、河合進、越尾、鈴木、高橋忠、長浜、林泉、林武、笛木一、本多史、松井、松田和、安田、星野、鈴木・星田(センター)、出島(NACS-J)

●議題

- 総会資料についての検討
 - 会員規定について
会員の居住地について、「範囲を限定すべきでない」、「ある程度枠が必要ではないか」という2つの意見があり、議論の結果、今まで通り会の趣旨に賛同される方であれば入会を認めることになりました。
また、退会・除名規定を設けることになりました。
 - 役員兼務の解消について
 - 会計年度の変更について
 - 決算書・予算書について

◇6月13日(日)：15:00～ 旧猿ヶ京小 出席者：青木、岡村建、鈴木、茅野、長浜、林泉、松井、安田、米田、星野、鈴木(センター)、出島(NACS-J)、土屋・林あ(東農工大)

●議題

- 総会資料についての検討
- メーリングリストについて～新規に「akaya-chiiki」のメーリングリストを立ち上げることになりました。
- その他～環境教育(新治小学校遠足など)についての日程(予定・未定)の報告がありました。
また、観光協会主催の群馬県「イステイション」の今年度の取組みに関する報告がありました。

●報告事項

- 新入会員
- その他～①いきもの村利用登録について ②国有林での山菜採りの方への対応について(共通認識を持つ) ③「ムタコの日」などの放置間伐材の利用について ④予算書の作り方について

*今回、議題や報告事項の内容について簡略しましたが、ご容赦ください。

6月の活動報告

◇◇◇今月は、6日に平標山の山開きが行われ、中旬には入梅となり、夏の始まりを感じさせられる季節となりました。21日には新治中学校の1年生の遠足が行われ、長浜さんや林泉さん、赤谷センターの皆さんが小出侯林道を案内されました。
また、7日には溪流WG会議、14日と28日には植生WG会議が開かれました。◇◇◇

○6月赤谷の日

6月5日・6日に、サポーター、地域協議会、赤谷センター、NACS-Jなど、29名がいきもの村に集まり、赤谷の日が開催されました。参加者全員による作業では、いきもの村の自然誌蓄積調査と、3月から始めた、いきもの村の環境整備を引き続き行いました。今回からは5月29日に刈り払い機講習が修了しましたので、刈り払い機も導入しネイチャートレイルの草刈りを中心に作業が行われました。



(アサギマダラ)

この整備は、いきもの村において地域協議会とサポーターグループで、地元対象の観察会実施が検討されていて、それに伴う作業でもあります。

チーム別活動は、ホンデンのモニタリング、南ヶ谷湿地の保全と調査、木の実の豊凶調査のためのトラップの設置などが行われ、赤谷林道では森にアカショウビンの美しい声が響きわたり、アサギマダラ・スミナガシなどの蝶たちが沢山迎えてくれました。(文・写真：青木邦夫さん)



(スミナガシ)

○6/20-21 植生ワーキンググループ現地検討会

視察実施地；赤谷プロジェクトにおける試験地設定予定地(小出侯沢、南ヶ谷エリア)、水辺林回復地(南ヶ谷エリア)、新規林道開削予定地(茂倉沢)、今期間伐予定地(小出侯沢、茂倉沢)、補足追加；ムタコの日活動候補地(ムタコ沢)。

自然林への誘導が困難と推定される植林地における誘導技術の開発を目的とした試験地の選定基準等、机上ではまとめきれなかった議題について、現地においてイメージを共有しつつ具体的な討議・検討を行なうことができたのではないかと感じました。

地域協議会としては、「地域住民・一般市民の方々にプロジェクトをより身近に感じてもらえるように、水源地の森の保全・管理のあり方を考える機会を得られる場としての試験地も欲しい」と提案することになりました。(文・写真：松井睦子さん)



(エリア5：
仏岩エリア杉林)

(南ヶ谷エリア)



(エリア5：仏岩エリア溪畔林)

赤谷プロジェクトに関する問い合わせ／ 代表幹事(林泉さん)：0278-66-0888 日本自然保護協会：03-3553-4107
事務局(安田さん)：0278-22-2119 赤谷ふれあいセンター：0278-60-1272

おはよう『カワガラス』

2010年 8月号

赤谷プロジェクト地域協議会

ブログ「ムタコとムタオ」【<http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>】



(カワガラス撮影：赤谷サポーター 島内さん)

8月活動日程

行事等		行事等	
1日	地域協議会定例会(猿小)・8月赤谷の日(2日目)	17日	火
2日	湘南学園夏合宿(環境教育)～5日	18日	水
3日		19日	木
4日		20日	金
5日		21日	土
6日		22日	日
7日		23日	月
8日	「ムタコの日」自然再生講座：森林整備作業	24日	火
9日		25日	水
10日		26日	木
11日	環境教育WG(東京)	27日	金
12日		28日	土
13日		29日	日
14日		30日	月
15日	みなかみ祭り	31日	火
16日			

7月の活動報告

☆地域協議会定例会・地域づくりWG会合(第3回)

◇7月4日(日)：15:00～ 旧猿ヶ京小

出席者：青木、岡村興、鈴木、長浜、林一、林泉、林武、松井、星野、鈴木・星田(セウ)、出島(NACS-J)、亀山先生・土屋先生・林あ(東農工大)

定例会では、第7回総会資料の発送準備作業を行いました。また、地域づくりWG会合では、1. 赤谷の森・基本構想の普及と意向把握について、2. エコツアーリズム・フットパスについて、3. ムタコの日について、4. その他として、9月に行われるみなかみ町議会定例会一般質問について、話し合われました。

☆地域協議会第7回総会

◇7月25日(日)：15:00～ 旧猿ヶ京小

出席者：青木、飯塚忠、岡村興、岡村建、岡田、高橋忠、高橋博、茅野、長浜、林一、林泉、林武、本多史、松井、安田、米田、星野、鈴木・星田(セウ)、出島(NACS-J)、土屋先生・林あ(東農工大)

以下の議案が審議され承認されました。

第1号議案 09年度活動報告・決算報告 承認

第2号議案 10年度会費 承認

第3号議案 10年度活動計画案および予算案 承認

なお、活動計画中の二ホンザル調査について、発信器の電池が切れてしまったナガイ群の調査が今年度可能なのか、質問がありました。執行部から新たな発信器が取り付けられたので、調査を継続する意向であると返事がありました。また獣害対策の説明会(研修会)が必要だ、と意見がありました。

第4号議案 会計年度の変更 承認

第5号議案 10年度役員一部改選 承認

第6号議案 会則改定について 承認

第7号議案 その他 その他の議案はありませんでした。

なお、会計年度が変更になりました。今後は1月1日から12月31日までになります。これに伴い、今年度は12月31日まで、となります。会費を納入の際は、ご注意ください。

(なお、出席者17名、委任状提出7名、計24名で、正会員37名の過半数を超えましたので総会成立となりました。)

☆7月赤谷の日

7月3日(土)4日(日)に、AKAYAプロジェクト関係者27名が、いきもの村に集まり、赤谷の日が行われました。

1日目は、チームに別れ、ホンドテンのモニタリング・南ヶ谷湿地保全と調査・木の実豊凶調査・蝶類調査が行われました。南ヶ谷湿地では、モリアオガエルの卵塊が94個確認されました。

2日目は、参加者全員で、いきもの村の自然誌の蓄積・トレイル等の整備・ヤマビルの試験地モニター・ゴミ拾いをまず行いました。ゴミ拾いで集められたゴミは多く、古タイヤから金庫まで、沢を中心に捨てられていました。ゴミの山をみると心が痛みます。



(↑ヤマビルのヒナ卵)：縁結びの滝



夜になるとゲンジボタルが舞う沢ですので、今後も綺麗にしていきたいですね。今まで、いきもの村内で行われてきた、ヤマビルのモニタリングで、下草刈りと落ち葉かきをすることによって、ヤマビルの被害を少なくできることが、わかってきました。つぎのステップとして、いきもの村外の場所でヤマビル対策作業を予定しています。その場所選定もかねて、いきもの村での作業後は、ヤマシャクヤクの盗掘現場の確認に行く人以外で、カップ広場からいきもの村まで歩いてみました。歩いてみると、すでに地域の方が草刈りなどもされており、対策地が今回のルートになるか決まってはおりませんが、地域の方々と連携して作業が出来れば良いと思います。(文・写真：青木さん)

(←ゴミ拾いの結果…)

☆「ムタコの日」濁度調査・緑のダム実験

7月17日(土)～ムタコ沢本流上流と秋小屋沢で濁度・水質調査と緑のダム実験を行いました。

参加者：星田さん(赤谷セウ)、松井さん、安田さん、星野



←ムタコ沢本流上流



秋小屋沢左沢→



スッポンタケ(秋小屋沢付近)

☆新治小学校チャレンジスクール

7月22日(木)～高原千葉村で、新治小5年生のチャレンジスクールが行われました。

講師として、赤谷セウの鈴木さん、星田さん、藤代さんに加えて、長浜さん、林泉さんが、児童の皆さんにお話しされました。

チャレンジスクールの様子→

(写真は赤谷センター鈴木さん、星田さん、藤代さんが撮影されたものです。)



* 今回も、議題や報告事項の内容について簡略いたしました。ご了承ください。

赤谷プロジェクトに 代表幹事(林泉さん)：0278-66-0888 日本自然保護協会：03-3553-4107
 関する問い合わせ／ 事務局(安田さん)：0278-22-2119 赤谷ふれあいセンター：0278-60-1272

おはよう『カワガラス』

2010年 9月号

赤谷プロジェクト地域協議会

ブログ「ムタコとムタオ」【<http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>】



(カワガラス撮影：赤谷サポーター 島内さん)

9月活動日程

行事等		行事等	
1	水	16	木
2	木	17	金
3	金	18	土
4	土	19	日
5	日	20	月
6	月	21	火
7	火	22	水
8	水	23	木
9	木	24	金
10	金	25	土
11	土	26	日
12	日	27	月
13	月	28	火
14	火	29	水
15	水	30	木

* 7・8月の活動報告*

☆地域づくりWG会合(第4回)

◇7月25日(日): 16:00~旧猿ヶ京小

第7回総会閉会後に開かれ、みなかみ町議会定例会の一般質問についての検討が行われました。

☆ムタコの日実行委員会

◇7月27日(火): 13:00~法師温泉

参加者：岡村建、長浜、松井、安田、星野、高橋(三国林産)、鈴木・星田(赤谷セター)

8/8開催の「ムタコの日」に向けて、活動内容の確認と時間割、役割分担などについて、話し合いました。

☆地域協議会定例会

◇8月1日(日): 15:00~旧猿ヶ京小

出席者：青木、岡村建、鈴木、林泉、林武、松井、星野、鈴木・星田(セター)、出島(NACS-J)
次の議題について話し合われました。①8/8(日)開催の「ムタコの日」について、②8/18(月)開催の地域づくりWGについて、③いきもの村での自然観察会(仮称)について、④その他、報告事項

☆「ムタコの日」(森林再生講座)

◇8月8日(日): 12:30~ムタコ沢

一般参加16名、地域協議会員9名、地域住民7名、サポーター1名、三国林産造林2名、赤谷センター4名、計39名(うち子ども11名)の参加がありました。

6班に分かれ、赤谷センターと三国林産の職員に指導していただきながら、間伐作業を行いました。また、作業終了後に水の飲み比べを行い、順位をつけてもらったところ、水道水や市販の水より自然水の方が、おいしいと感じる方がほとんどでした。



☆8月赤谷の日

8月赤谷の日は通常よりも一週間早い、7月31日(土)8月1日(日)に、プロジェクト関係者27名が集まり開催されました。

チーム別活動としては、南ヶ谷湿地の調査保全、木の実の豊凶調査、ホンドテンのモニタリング、蝶類調査などが行われ、蝶類調査ではコヒョウモンなどが、新たに確認されています。全体活動は、いきもの村の自然誌情報収集とゴミ拾い草刈りなどの環境整備を継続して行っています。草刈りの効果があり、昨年は鬱蒼として足を踏み入れる事が出来なかったトレイルも、今年は入る事が出来ます。

今年は10月に炭焼きが予定されています。

2年連続で上手く行っていないこともあり、9月の赤谷の日では、炭窯の補修を行うことになっています。

補修用粘土として、いきもの村の粘土が使用できるか、新治炭焼組合組合長の本多充仲さんに見て頂きましたところ、十分使用できるとのことで、いきもの村の粘土を使用して、炭窯の補修を行います。

また初日の夕食には、赤谷産の打ちたて茹でたての蕎麦を、高橋由行さんにご馳走して頂き、参加者みんな美味しく頂きました。高橋由行さんには、何から何まで用意して頂き、とても感謝しております。

どうもありがとうございました。(文・写真：青木さん)



(↑釜の様子を確認)



(↑補修用粘土…使えます!)



(↑茹でたてのおそばをご馳走になりました。)

☆赤谷湖花火大会に参加させていただきました☆

8月28日(土): まんでん星の湯~8/18の地域づくりWG会合で赤谷湖花火大会で地域協議会のブースを用意していただける、というお話があがり、今回は急きよでありましたが、パネル展示や望遠鏡のデモンストレーションなどを行いました。

地域協議会からは10名、赤谷センターから鈴木さん、藤代さん、NACS-Jから出島さん、藤田さんが参加されました。

実のところ、私は花火大会を見るのもお祭りに参加するのも初めてだったのですが、地域の方の思いのこもったとても温かみのあるお祭りに感動しました。また、お祭りでの実行委員会や地域の方のご尽力されている様子に、頭の下がる思いがしました。最後にまんでん星の湯から間近に見た花火も大変美しかったです。



今後もこのような機会を通して、地域の方々との交流を深められたらと思いました。(星野)



赤谷プロジェクトに関する問い合わせ／ 代表幹事(林泉さん): 0278-66-0888 日本自然保護協会: 03-3553-4107
事務局(安田さん): 0278-22-2119 赤谷ふれあいセンター: 0278-60-1272



コラム

～今回は、代表幹事・林泉さんです。

◎「歴史散歩～三国を越えた人々～」

三国峠の御坂三社神社（三国権現）の手前に「三国峠を越えた人々の碑」が建っている。はじめに伝説として坂上田村麻呂が記されているが、三国峠にまつわる伝説の主人公としてこの人物が登場することは縁のないことではない。

確実な資料として三国峠が登場するのは15世紀も後半、1486年に亮憲法印という人物が新潟から関東へ三国峠を越えた時のことを『北国紀行』に書き記しているのが初出となる。とはいえ、三国を越えて人や物が行き来したことはこれ以前にもあったことではあるが昔からこの地域を越えて往来があったことは間違いない。確かに史料などに残されていないが、交易や交流の歴史を探してみるとその証拠となるようなものは多く見つかる。

歴史時代より以前、今から二万年前にさかのぼる旧石器時代において、石器の伝播から交流の跡を裏付けることができる。西日本を起源とするナイフ形石器は日本海側に沿って広まり、さらにこの三国の地域を越えて利根川流域の地域に広まっていったと考えられている。新石器時代に活発な人の往来があったかは分からないが、交易を通じて遠隔地のものが伝わっていたことは間違いない。また、一万五千年前ごろには北方系の細石刃石器群が伝わってきたとみられる。

新石器時代の社会がどのようなものかわからない点が多いが、人々の移動を介して運ばれていたと考えられる。その当時、どのようなルートを通して山を越えていったのかかわからないが、地理的にも三国を越えるルートは主要な道の一つであったろう。

なと一時お
ブ今お三部健盛
ジ年国改会や夏
は役山訂がかの
ク例員のにまに
へ薄設いて過利
の活と立てんご
の会とや審星沼
の他を三の湯で地
の皆に別トれに域
さまでん認開か
の谷おネさ催連
のご送りれささ
の協以つしま立
力たいたした去
的ハして。た見
的キ。経の議月
ンク過他題れ
加など告しあ六
を待ちななてる日
ちされてが新員が
いてり山選域皆
ます。ま岳と協さ
。散の臨は

おはようカワガラス

2011年 夏号

赤谷プロジェクト
地域協議会

2011年度 第1回調整会議開催される 安田剛士

去る7月7日に調整会議が開催されました。調整会議は、**企画運営会議**を円滑に行うための準備会議です。今回の調整会議では、赤谷プロジェクトの7年間の取り組みを、発足に至る準備期間を含め取りまとめ、その記録を発表する事が検討されました。

また、みなかみ町からも出席を頂き、今後の町とプロジェクトの連携の在り方についても検討していくことが確認されました。

最後に、国土交通省高崎河川国道事務所から、三国トンネル整備方針について地元説明会の前に概要の報告がありました。会議での質問等を受けて、地元説明会ではより分かりやすい説明が行われるもの、と期待します。

補足
企画運営会議とは、赤谷プロジェクトの年間活動を話し合う会議です。林野庁関東森林管理局(赤谷センター、利根沼田森林管理署)とNACS-Jと地域協議会が、活動計画や報告、総括などを話し合い決定する場で、年2回開催されます。赤谷プロジェクトの意思決定はすべて「企画運営会議」で行います。最近ではみなかみ町役場、群馬県やサポーターの方の参加もいただいています。地域協議会の活動は、総会で承認される必要がありますが、その活動を赤谷プロジェクト内で行うためには、企画運営会議でも承認される必要があります。今年度の第1回企画運営会議は、9月16日に開かれます。

「ムタコの目」のご案内～参加・ご協力をお願いします。

夏休みには家族揃って「森と水」について楽しく学んでみませんか。赤谷プロジェクトでは、新治地区の水源地無多子沢で、豊かな森を育む森や、子供たちへ受け渡すための催しとしての森の仕組みや、森の手入れを学び体験します。

■お問い合わせ 事務局(安田) 090-2299-2119 (夜8時～6時)、締め切り7月31日(日)

■参加費 小学生以上130円、中学生以上160円(12時30分)

■募集対象 小学生以上(傷害保険等)

■参加費 100円(服装は野外活動ができる服(長袖、帽子、軍手、長靴等)、雨具、飲み物は各自持参。荒天の場合中止。)

■注意 森林再生講座(山仕事体験) 清掃活動(ごみ拾い)



「赤谷の日」活動報告

～今回も、青木さんに「報告をいただきました」。

毎月第一土日に行われている「赤谷の日」は、関東一円から赤谷サポーターが集まり、赤谷ふれあいセンター、日本自然保護協会、赤谷プロジェクト地域協議会と共に活動しています。毎回、南ヶ谷湿地の調査保全、木の実の豊凶調査、ホンドテンのモニタリングなどをはじめ、たくさんの方の活動が行われます。拠点になっていくため、昨年からの参加者全員による作業として、ネイチャートレイルの整備も続けています。

7月の赤谷の日では、トレイルの整備だけでなく、県道の草刈りも行いました。これについては、地域を利用していただいているサポーターから、いままでお手伝いいただきながら、いままでもお手伝いいただき、来なく心苦しく思っていた事で、したので、今後も継続していきたくて考えています。

また7月は、猿ヶ京地区十日会の皆さんの窯補修後の、炭焼き窯出しの様子などを、見学させていただきました。いきもの村での炭焼きは3年間失敗続きで、炭窯の補修をしなかつたのは、粘りません。お話によると、やはり土と石の質が重要なようです。その点に留意して、冬場の火入れに向けて、補修をはじめたいと思います。

写真提供(青木さん、出島さん)

～お知らせ～

- ・8/2(火) ムタコの目実行委員会 13:30～役場新治支所
- ・8/6(土)・7(日) 8月赤谷の日
- ・8/7(日) ムタコの目12:30～
- ・8/8(月) フィールド利用管理WG
- ・8/27(土)・28(日) 赤谷湖上花火大会
- ・9/3(土)・4(日) 9月赤谷の日
- ・9/16(金) 第1回企画運営会議

- 赤谷の森ハイキング(小出保) 6/26、7/31、9/24
- 大峰山ハイキング 7/18、9/25
- 赤谷森ブナ林自然観察ツアー 9/9、9/15、9/21
- 三国自然歩道ハイキング 7/3、9/11

ご協力・参加を、よろしく
お願いいたします。

◎お問い合わせやご意見、掲載したい内容等がございましたら、ご連絡ください。連絡先 代表幹事 林泉 電話 0278-66-0888 事務局 安田(アミ動物病院) 電話 0278-22-2119 編集担当 星野 電話 090-7737-9312

赤谷の森の見どころ～今回は松井さんに紹介していただきました。7月の生きもの 動物篇① … オオムラサキ

7月5日、東海地方で梅雨明けの宣言があり、赤谷の森でも何となく、蒸し蒸しとした空気から、さらさらとした空気に入れかわり、陽射しが痛いように感じるようになります。今日は夏を代表する大型の蝶、「オオムラサキ」を紹介します。この蝶は、日本にのみ生息し、姿が美しくもあり、日本を代表する蝶として、「国蝶」に指定されています。オオムラサキは翅(はね)を広げると約10cm、近くで飛ばれると「バサバサ」と羽音を立てて飛び回るのでびっくりさせられます。

メスの方がオスより一回り大きいのですが、翅の色合いはオスの方が美しいと皆さん思われるでしょう。オスの翅の表側(開いた時に見られる側)は光沢のある紫色と黒色で、白や黄色の斑点もようがちらばられています。さらに、うしろの先端に輝く赤い斑点があります。翅の裏側は、前翅では表の模様がうつら見られ、うしろ翅は光り輝く黄色です。樹液が大好きですから、ヤナギやサクラなどの樹液が出ている幹では、カブトムシやカナブンの仲間といっしょにオオムラサキも見つけることができますよ。

写真1、2は、オオムラサキのオスです。木々の上すれすれに飛び回り、一瞬、木の葉に止まったところを5m程離れたところから観察しました。メスの出現を見回りしながら待っていた様子でした。

オオムラサキを探すポイントは、幼虫の食べ物(食樹)となる植物、エノキやエゾエノキの木を見つけておくことです。生き物探しでは食べ物を知ること、調べるのが大切です。皆さんはエノキ、エゾエノキを知っていますか。(↑写真1) 次回はエゾエノキをご紹介します。(写真2→)

